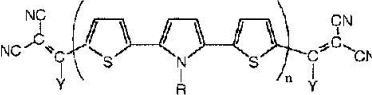
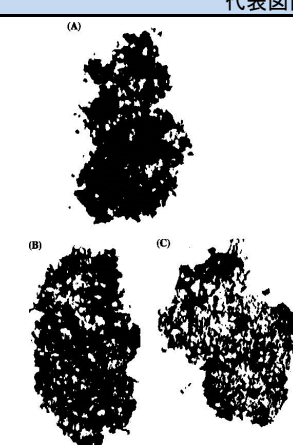
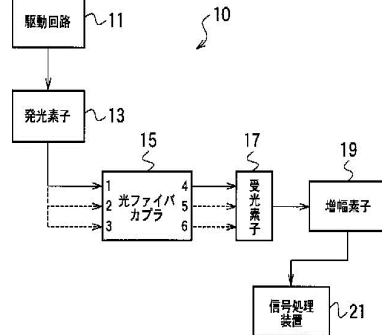


千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
1	1-置換2, 5-ジチエニルピロール誘導体および被膜形成材料	特願2000-068881号	2001/3/13	小倉 克之	元大学院工学研究院	特許第3834603号	2006/10/27	【課題】空気中で安定で、かつ金属光沢を示す有機化合物及び被膜形成材料を提供。 【解決手段】一般式(1) 【化1】  (式中Rは水素、置換又は無置換アルキル基、置換又は無置換芳香族基である。Yは水素またはシアノ基であり、一方が水素で他方がシアノ基の場合も含む。nは1～3の整数。)で表されることを特徴とする1-置換2,5-ジチエニルピロール誘導体である。	
2	分岐結合素子における分岐特性推定装置および分岐特性推定方法	特願2002-048485号	2002/2/25	大森 達也	大学院工学研究科	特許第4423415号	2009/12/18	【課題】本発明は、光ファイバカプラに固有の位相差を簡易に測定することができる光ファイバカプラにおける分岐特性推定装置および分岐特性推定方法を提供することにある。 【解決手段】光ファイバカプラ15に設けられた複数の入力ポートの1つから複数の出力ポートの1つに分岐するように組み合わせ、A/D変換器29により変換された電力データの組み合わせにより表す挿入損失データをRAM27に記憶しておき、この挿入損失データに基づいて挿入損失データのずれ量を算出し、挿入損失データのずれ量に基づいて、結合係数kmnと光ファイバカプラ15の結合長Lとの積により表すことができる複素伝送行列[A]を分岐特性として推定する。	
3	カンプトテシン生産植物の育成方法及びカンプトテシン生産方法	特願2002-225617号	2002/8/2	斉藤 和季	薬学研究院	特許第3870234号	2006/10/27	【課題】本発明は、カンプトテシン等の成分含有量が高く、生育が旺盛で、栽培が容易であって、且つ生産性が高いカンプトテシン生産植物の育成方法と、この植物を用いたカンプトテシンとその類縁体の生産方法を提供することを目的とする。 【解決手段】本発明は、チャボイナモリ(Ophiorrhiza pumila)とリュウキュウイナモリ(Ophiorrhiza kuroiwei)を人工交配することを特徴とする、カンプトテシン生産植物の育成方法に関する。 また、本発明は、人工交配することにより得られた当該雑種植物を増殖、栽培し、生長した植物から抽出することを特徴とする、カンプトテシン及び／又はその類縁体の生産方法に関する。 更に、本発明は、人工交配することにより得られた当該雑種植物を無菌培養し、その培養細胞から抽出することを特徴とする、カンプトテシン及び／又はその類縁体の生産方法に関する。 【選択図】なし	なし

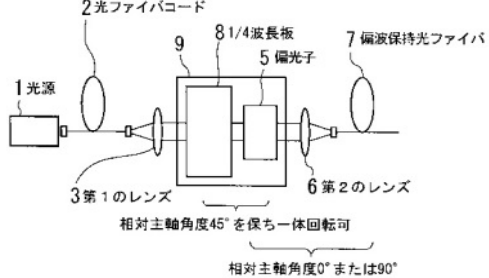
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
4	キャビティとそのキャビティを使用した共鳴超音波スペクトロスコープ装置	特願2003-17293号	2003/1/27	東崎 健一	教育学部	特許第3639906号	2005/1/28	【課題】試料温度を安定に保ち高精度の弾性率測定を可能にする。 【解決手段】キャビティ13が試料14を振動させると共に試料と組み合わせてLC回路と等価になる。絶縁手段が試料とキャビティの間に配置されて、試料とキャビティを電氣的に絶縁状態にする。第1出力手段11が試料と組み合わせたキャビティをLC回路の等価回路として作用させる周波数を有する第1周波数信号をキャビティに出力する。第2出力手段16が試料を振動させる周波数を有する第2周波数信号を試料及びキャビティに出力する。振幅検出手段18が第2周波数信号に基づいて、キャビティから出力される第1周波数信号の反射信号の振幅を検出する。 【選択図】 図1	
5	金属酸化物半導体の製造方法	特願2003-127380号	2003/5/2	広橋 光治	大学院工学研究科	特許第4106434号	2008/4/11	【課題】スパッタリング装置やイオン注入装置などの複雑かつ高価な装置を用いることなく、金属酸化物半導体を廉価に製造するとともに、金属酸化物半導体の特性を広範囲に制御する。 【解決手段】金属酸化物を粉末状のカーボン中に埋設する。次いで、前記金属酸化物に加熱処理を施し、前記金属酸化物中の酸素の一部を還元反応を通じて離脱させ、前記金属酸化物中に酸素欠陥を生ぜしめて金属酸化物半導体を作製する。 【選択図】 図1	
6	アルカロイドアシル転移酵素をコードする遺伝子	特願2003-204085号	2003/7/30	斉藤 和季	薬学研究院	特許第4254949号	2009/2/6	【課題】本発明は、アルカロイドの工業的な製造のために必須のアルカロイド合成酵素の遺伝子を提供することを目的としている。 【解決手段】本発明は、マメ科ルピナス属植物のエステル型アルカロイドの生合成に関わる13α-ヒドロキシマルチフロリン/13α-ヒドロキシルパニン-チグロイル転移酵素(HMT/HLTase)をコードする遺伝子、当該遺伝子を含有してなるベクター、当該遺伝子で形質転換してなる形質転換細胞、及び当該形質転換細胞を培養して、13α-ヒドロキシマルチフロリン/13α-ヒドロキシルパニン-チグロイル転移酵素(HMT/HLTase)を製造する方法に関する。 【選択図】 なし	なし

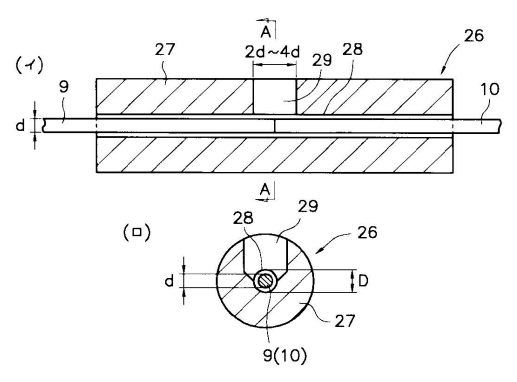
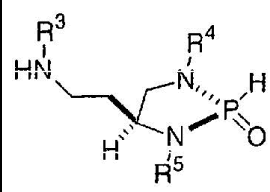
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
7	摂食障害の診断薬および検定方法	特願2004-539492	2003/9/24	伊豫 雅臣	大学院医学研究院	特許第4276174号	2009/3/13	抗脳由来神経栄養因子抗体を有効成分とする摂食障害の診断薬および血液中の脳由来神経栄養因子の濃度を測定することによる摂食障害の検定方法を提供する。特に、抗脳由来神経栄養因子抗体と標識化抗脳由来神経栄養因子抗体とを用いて患者血液中の脳由来神経栄養因子の濃度を測定することによって摂食障害の診断が容易に行われる。	BDNF (ng/ml) AN BN NC
8	ラセミ体オクタヒドロビスイソキノリンの製造方法及び光学活性オクタヒドロビスイソキノリンの製造方法並びに光学活性オクタヒドロビスイソキノリン	特願2004-11109号	2004/1/19	西田 篤司	大学院薬学研究院	特許第4617457号	2010/11/5	【課題】 オクタヒドロビスイソキノリンのラセミ体を優位に合成する方法及びそれを光学分割して(+) - または(-) - オクタヒドロビスイソキノリンを得る方法並びにそれにより得られた(+) - または(-) - オクタヒドロビスイソキノリンを提供する。 【解決手段】 ジヒドロイソキノリンを二量化してオクタヒドロビスイソキノリンを得るに際し、ニオブウム塩を反応促進剤として用いることによりラセミ体オクタヒドロビスイソキノリンを得る。 【選択図】 なし	なし
9	金属-ジアミン錯体及びそれを用いた不斉カップリング方法	特願2004-011110号	2004/1/19	西田 篤司	大学院薬学研究院	特許第4686701号	2011/2/25	【課題】 オクタヒドロビスイソキノリンのラセミ体を優位に合成し、それを光学分割して得た、光学活性オクタヒドロビスイソキノリンを用いた金属-ジアミン錯体及びこれを用いた不斉カップリング方法を提供する。 【解決手段】 (+) - オクタヒドロビスイソキノリン又は(-) - オクタヒドロビスイソキノリンと、金属化合物とからなる金属-ジアミン錯体とする。 【選択図】 なし	なし

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
10	複数コアを有する光ファイバーの製造方法及びその製造に用い得る柱状ガラス体の製造方法	特願2004-027263号	2004/2/3	岩館 泰彦	大学院 工学研究 科	特許第4378527号	2009/10/2	【課題】柱状ガラス体の長手方向に連続した重イオン濃度の高い領域を複数本有する柱状ガラス体の製造方法及び複数のコアを有する光ファイバーの製造方法を提供すること。 【解決手段】重イオンを細いビームの状態で長い柱状ガラス体中の所定の位置に注入して重イオン濃度の高い領域を形成し、イオン加速器と柱状ガラス体との相対位置を柱状ガラス体の長手方向に順次変化させて重イオンを細いビームの状態で柱状ガラス体中に順次注入して長手方向に連続した重イオン濃度の高い領域を形成し、以上の操作を柱状ガラス体中の他の位置で複数回繰り返して、長手方向に連続した重イオン濃度の高い領域を複数本形成することにより長手方向に連続した重イオン濃度の高い領域を複数本有する柱状ガラス体を製造し、更に長手方向に連続した重イオン濃度の高い領域を複数本有する柱状ガラス体を長手方向に延伸処理することにより複数のコアを有する光ファイバーを製造する。 【選択図】なし	なし
11	偏波保持光ファイバへの光入射装置	特願2004-31564	2004/2/9	立田 光廣	大学院 工学研究 院	特許第4706017号	2011/3/25	【課題】 偏光楕円率ならびに偏光主軸方向が任意の光に対して、追加の調整をすることなく偏波保持光ファイバへ該光ファイバの複屈折主軸方向の直線偏光を入射可能とする、偏波保持光ファイバへの光入射装置を提供する。 【解決手段】 光源1から出射した光を平行光束として出力する第1のレンズ3と、前記平行光束を順次通過させる1/4波長板8および偏光子5と、該偏光子からの出射光を偏波保持光ファイバに入射させる第2のレンズ6とを有してなり、前記1/4波長板の速い軸と前記偏光子の透過軸は互いに45°の角度をなし、かつ前記偏光子の透過軸を前記偏波保持光ファイバの速い軸と平行または直交させた偏波保持光ファイバへの光入射装置である。 【選択図】 図3	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
12	極細線式熱電対の製造方法および製造用治具	特願2004-42407	2004/2/19	森吉 泰生	大学院 工学研究科	特許第4431784	2010/1/8	【課題】極細線熱電対の製造歩留まりを向上できるようにする。 【解決手段】20mm程度の長さ寸法とし且つ中心に材料として使用する熱電対素線9、10の径dよりも10%大きな内径Dのガイド孔28を有するガラス管27における長手方向中間部の管壁に、上記ガイド孔28と外部とを連通させる開口部29を設けて極細線熱電対の製造用治具26を形成する。一対の熱電対素線9と10を、製造用治具26のガイド孔28に対向方向より挿入し、先端部同士を開口部29に臨むガイド孔28内で直線的に保持させながら突き合せ溶接する。各熱電対素線9、10がガイド孔28内にて押さえられないようにすることで、溶接時に高温化する各熱電対素線9、10から周囲への熱伝導による急冷を防止させ、硬度の急変部や品質変化の発生を防止させる。溶接時に発生するスラグ等は開口部29を通して外部へ排出させて溶接部への混入を防止させる。 【選択図】図1	
13	新規光学活性ジアミノホスフィンオキシドの製造方法、ジアミノホスフィンオキシド-パラジウム錯体並びにそれを用いた不斉4級炭素構築方法	特願2004-047095	2004/2/23	濱田 康正	大学院薬学研究院	特許第4524424号	2010/6/11	【課題】不斉炭素構築法に好適に利用できるジアミノホスフィンオキシド及びその製造方法、ジアミノホスフィンオキシド-パラジウム錯体並びにそれを用いた不斉4級炭素構築方法を提供する。 【解決手段】下記一般構造式4で示されることを特徴とするジアミノホスフィンオキシド。 【化1】  一般構造式 4 (式中、R3及びR4はそれぞれ独立に炭素数6～10の芳香族基を表し当該芳香族基はハロゲン、炭素数1～6のアルキル基又は炭素数1～6のアルコキシ基で任意に置換されていてもよい。また、R5は炭素数7～20のアルキル基を表し当該アルキル基は炭素数1～10のアルキル基又は炭素数6～10の芳香族基で任意に置換されていてもよい。) 【選択図】なし	なし

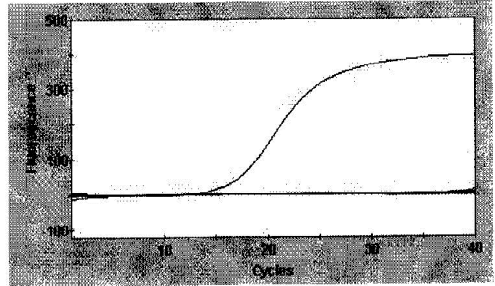
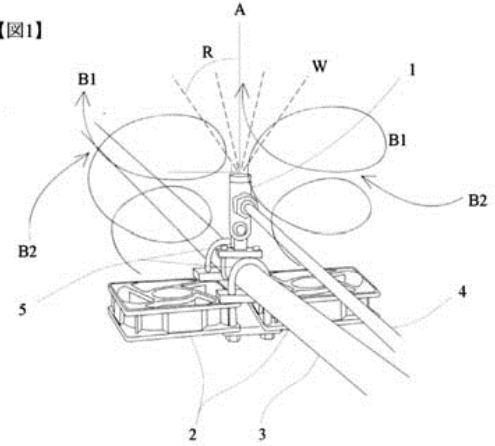
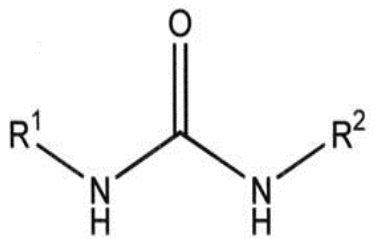
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
14	胚性肝細胞から目的の細胞を得る方法	特願2004-070014号	2004/3/12	富澤 稔	元医学部 附属病院	特許第4759723号	2011/6/17	胚性幹細胞から目的の細胞を分化誘導しかつ胚性幹細胞から分化した目的の細胞を含む細胞群から実質的に目的の細胞からなる細胞培養物を得る方法の提供。 【課題】 【解決手段】(a) 胚性幹細胞から胚様体を形成する工程、及び(b) 該胚様体を下記の培地: ・該培地は、目的の細胞の成育に必須である1以上の物質を実質的に含まない ・該物質は、目的の細胞に存在しかつ該細胞群に含まれる目的の細胞以外の細胞には存在しない代謝酵素の産物である ・該培地は、該代謝酵素が該産物を生成するための基質を含むで培養する工程を含む方法 【選択図】 なし	なし
15	インフルエンザ脳症の検査法、及び、ヒト髄液中に発現するタンパク質からなるマーカー、診断薬、診断キット	特願2004-134869号	2004/4/1	藤井 克則	大学院医学 研究院	特許第4399593号	2009/11/6	【課題】 インフルエンザ脳症とくに小児インフルエンザ脳症の有効な検査法、マーカー、診断薬、診断キットを提供する。 【解決手段】 ヒト髄液、とくに小児髄液に含まれる14-3-3タンパク質に特異的に結合する抗体、とくに一次抗体としてウサギ由来の抗体、二次抗体としてヤギ由来の抗体をマーカーとして使用する。 【選択図】 図1	小児神経疾患において検出される14-3-3タンパク質 14-3-3 protein ADEM : Acute Disseminated Encephalomyelitis MELAS: Mitochondrial Encephalopathy with Lactic Acidosis IAE : Influenza-associated encephalopathy HH synd.: Hemiconvulsion Hemiplegia Syndrome SCD : SpinoCerebellar Degeneration SMA type 1: Spinal muscular Atrophy type 1 also called as Werdnig-Hoffman disease
16	耐熱性・高強度エポキシ樹脂	特願2004-148422号	2004/4/15	阿久津 文彦	大学院工学研究 科	特許第4765053号	2011/6/24	【課題】高い耐熱性または、および高い接着力を示すエポキシ樹脂硬化物を提供する。 【解決手段】エポキシ樹脂と、硬化剤であるポリアミノフェニルキノキサリンまたはポリアミノフェニルキノキサリンを含有する芳香族アミノ系硬化剤とを硬化させたエポキシ樹脂硬化物であって、樹脂中に3-置換キノキサリン構造を有することを特徴とするエポキシ樹脂硬化物。 【選択図】なし	なし

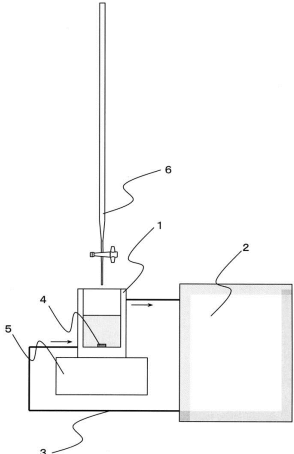
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
17	基盤に固着した貴金属膜からなる写真画像	特願2004-162557	2004/4/28	久下 謙一	大学院 工学研究 院	特許第4512818号	2010/5/21	【課題】写真画像を構成する銀微粒子とゼラチン膜それぞれの変質による画像の劣化を受けない、化学的に安定で機械的強度を有する写真画像の製造を目的とする。 【解決手段】安定な貴金属からなり、ゼラチンを除去した画像を形成する。そのために露光画像部にのみ貴金属微粒子をゼラチン膜中に析出させて、貴金属微粒子からなる画像を作製した後焼成することにより、ゼラチンを燃焼除去し、同時に貴金属微粒子の凝集により基盤に固着した貴金属膜からなる写真画像を形成する。 【選択図】 図1	
18	基盤に固着した貴金属膜からなるホログラフィック光学素子	特願2004-163827	2004/4/30	久下 謙一	大学院 工学研究 院	特許第4500996号	2010/4/30	【課題】化学的、機械的強度を有する、保存性、耐久性のあるホログラフィック光学素子の製造を目的とする。 【解決手段】写真感光材料に干渉縞の露光を与え、露光部に貴金属微粒子を析出させて、貴金属微粒子からなる干渉縞の像を形成した後焼成することにより、ゼラチンを燃焼除去し、貴金属微粒子を凝集させることにより基盤に固着した貴金属膜からなるホログラフィック光学素子を形成する。 【選択図】 図1	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
19	新規ポリヌクレオチド、それを用いた深在性輸入真菌症原因菌ペニシリウム・マルネツフェイ(Penicillium arneffei)の検出用核酸及びそれを用いたペニシリウム・マルネツフェイの検出方法	特願2004-197446号	2004/6/7	横山 耕治	真菌医学研究センター	特許第4576489号	2010/9/3	【課題】深在性輸入真菌症の原因菌ペニシリウム・マルネツフェイ(Penicillium arneffei)を特異的に検出する技術を提供する。【解決手段】特定の塩基配列は、ペニシリウム・マルネツフェイに特異的な遺伝子配列の一例である。これを検出することにより、ペニシリウム・マルネツフェイを特異的に検出できる。例えば、特定の塩基配列のフォワード側プライマーと、特定の塩基配列のリバース側プライマーを用い、PCRにより該特定の塩基配列の遺伝子断片を増幅することにより、ペニシリウム・マルネツフェイを特異的に検出できる。【選択図】図1	
20	温室の冷房装置及びそれを用いた冷房方法	特願2004-183196号	2004/6/22	古在 豊樹	大学院園芸学研究科	特許第4431789号	2010/1/8	【課題】細霧冷房方法において、未蒸発の細霧の植物群への必要以上の付着、温室内の気温分布の不均一化および気温の急激かつ幅の大きい時間変動、を十分抑えること。【解決手段】水を送るポンプと、このポンプで送られた水を導く配管4と、この配管4に接続され、細霧を発生する細霧ノズル1と、この細霧ノズル1の下側に配置された送風機2と、を有する温室の冷房装置とする。また、水を送るポンプと、このポンプで送られた水を送る配管4と、この配管4に接続され、細霧を発生する複数の細霧ノズル1と、複数の細霧ノズル1各々の下側に配置される送風機2と、を有する温室の冷房装置とする。【選択図】図1	【図1】 
21	強誘電性を示す柱状液晶化合物	特願2004-197064号	2004/7/2	岸川 圭希	大学院工学研究科	特許第4599552号	2010/10/8	【課題】従来の光学活性な強誘電性化合物よりも合成が容易で安価であり、分子の配向性が高く、高密度な情報記録も可能な化合物を供給すること。【解決手段】強誘電性を示す液晶化合物において、分子中央付近に分極部を有し、かつ柱状液晶相を示す液晶化合物とする。この柱状構造体は、光学活性基がなくとも強誘電性を有するとともに配向性が高く、さらに、柱状構造体間の電気的反発が小さいので、柱状構造体ごとの分極の制御が可能となる。【選択図】図1	

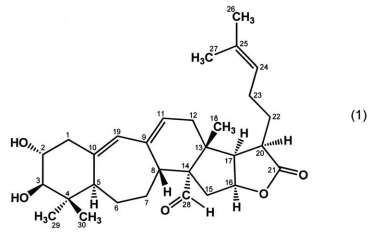
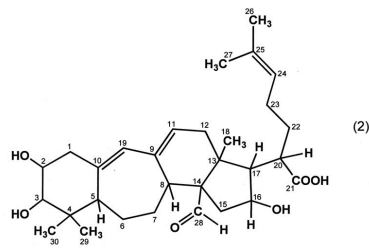
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
22	整長cDNA由来両鎖サブトラクション方法	特願2004-200747	2004/7/7	瀧口 正樹	大学院医学研究院	特許第5048915号	2012/7/27	【課題】微量試料に由来するmRNAを用いてサブトラクションを効率的に行い、特定の条件下で発現量の変動する遺伝子をクローン化することが可能なサブトラクション方法を提供すること。 【解決手段】混成しているmRNAに由来する全てのcDNAを3等分し、各分画を個別に3種の制限酵素で切断し、再び3分画を混合して3'末端から2000bp以下(平均1000bp)に整長(トリム)した後、リンカーを連結させてPCR法にてcDNAを増幅・合成する。これを鋳型として合成したセンス及びアンチセンス鎖のビオチン標識両鎖cRNAをドライバーとして用い、テスター由来のcDNAとハイブリッド形成させ、固定化ストレプトアビジンを用いてビオチン化ハイブリッドを除去することによりサブトラクションを行う。残ったcDNAをプラスミドに挿入してサブトラクションライブラリーを構築することが出来る。	なし
23	多成分液体の相分離点の検出方法及びその検出装置	特願2004-212365号	2004/7/21	西川 恵子	大学院工学研究院	特許第4452880号	2010/2/12	【課題】簡便で正確な相分離点の検出方法、それを用いて相分離曲線を作成する方法、を提供すること 【解決手段】複数の液体を混合した場合の相分離点を検出する方法であって、 第一の液体に前記第一の液体よりも比重の小さい第二の液体を滴下し、攪拌して十分拡散させた後、定常状態の渦巻きを発生させ、相分離点を検出する。また、第一の液体又は前記第二の液体のいずれか一方の相に溶けやすい色素を、前記第一の液体又は前記第二の液体のいずれか一方に溶解させる。 【選択図】図1	

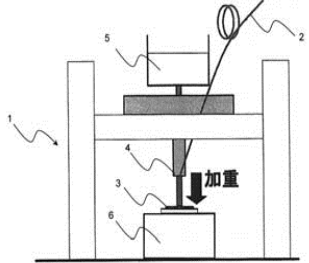
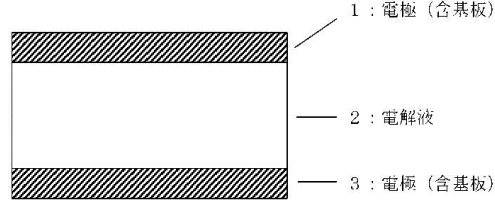
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
24	注視可能な範囲を制限する光学部材及びそれを用いた光学装置	特願2004-223676号	2004/7/30	吉岡 陽介	大学院 工学研究 科	特許第4452881号	2010/2/12	【課題】 注視可能な範囲を一定範囲に制限しながらも、従来よりも広い視野をたもつことができる光学部材及びそれを用いた光学装置を実現すること。 【解決手段】 光学部材と、光学部材を観察者に固定するための固定部材と、を有する光学装置であって、光学部材は、光学部材へおろす垂線を想定し、垂線を挟んで対称な位置にある第一および第二の点を想定し、更に、第一および第二の点それぞれから放射状に延びかつ光学部材を貫く複数の直線を想定した場合に、想定した放射状の複数の直線に沿って配置される複数の不透明部材を有する。 【選択図】図4	
25	衝撃波発生装置及びそれを用いた分光システム	特願2004-223718号	2004/7/30	前野 一夫	大学院 工学研究 科	特許第4389025号	2009/10/16	【課題】 観測窓を破損することなくS/N比の高い衝撃波の測定を行うことができる衝撃波発生装置、及びそれを用いた分光システムを提供すること。 【解決手段】 衝撃波を発生させる衝撃波発生部と、衝撃波を伝播させる管と、管を挟んで対称に配置される一対の観測窓と、を有する衝撃波発生装置であって、観測窓のそれぞれは、管の中心に近い側からカップリングホール付窓板、外筒、外筒を挟んでカップリングホール付窓板と対向するよう配置される光学窓、を有することを特徴とする。 【選択図】図2	

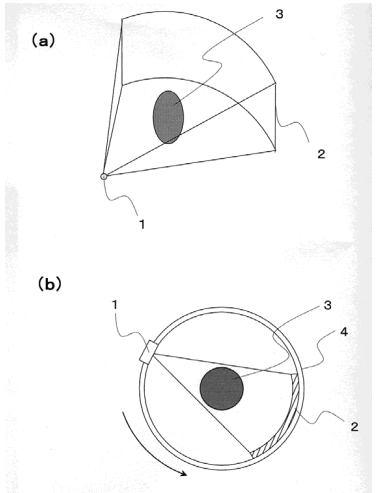
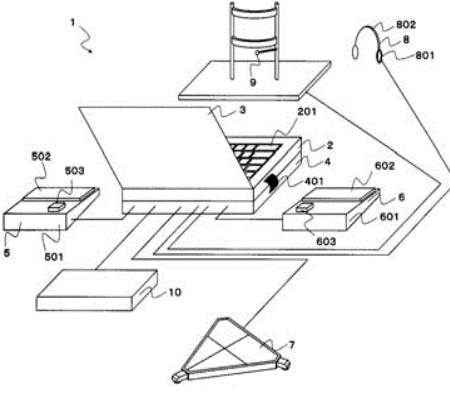
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
26	ツビフェラルAおよびツビフェラルB	特願2004-244657号	2004/8/25	石橋 正己	大学院薬学研究院	特許第4465466号	2010/3/5	【課題】 コモチクダホコリ (Tubiferadimorphothea) 由来の新規化合物であるツビフェラルA およびツビフェラルB を提供する。 【解決手段】 下記(1)式で示されるツビフェラルA 及び下記(2)式で示されるツビフェラルB。 【化1】  【化2】  【選択図】 なし	なし

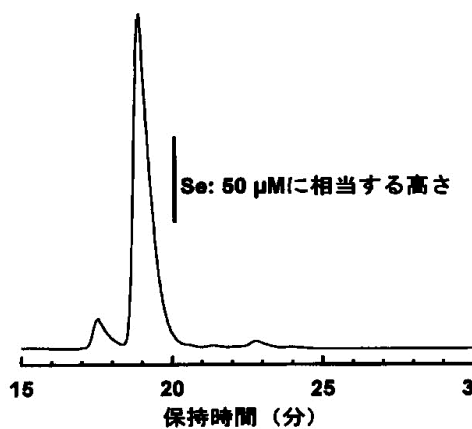
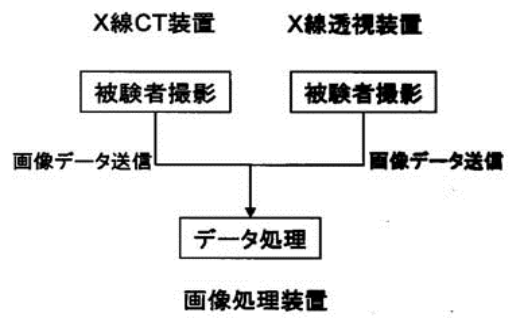
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
27	半導体素子	特願2004-249408	2004/8/30	岡本 紘 坂東 弘之	元大学院 工学研究 院	特許第4496364号	2010/4/23	【課題】 バルクの薄膜であっても、駆動光電力を低減化した光可飽和吸収特性を有する半導体素子およびその製造方法を提供すること 【解決手段】 可飽和吸収特性を示す半導体薄膜を有する半導体素子であって、この半導体薄膜を加圧する加圧手段を有することを特徴とする。本発明者らは、可飽和吸収特性を示す半導体薄膜に加圧を行うことで、半導体薄膜に存在する結晶構造に歪みを与え、その歪みに応じて飽和励起光強度密度I_sが変化することに想到し、半導体薄膜を加圧する加圧手段を有することでバルクの薄膜であっても、駆動光電力を低減化した光可飽和吸収特性を有することができ、これを用いて半導体素子を提供できる。 【選択図】図3	(a)  (b) 
28	カラーリライタブル表示装置	特願2004-252381号	2004/8/31	小林 範久	大学院 工学研究 院	特許第4838503号	2011/10/7	【課題】 着色の繰り返し応答性に優れ、実用レベルにあるカラーリライタブル表示装置を提供すること。 【解決手段】 エレクトロクロミック材料として芳香族ジカルボン酸エステル誘導体又は芳香族ジアシル誘導体を使用し、電子ドナーとしてメタロセン誘導体を使用してなることを特徴とするカラーリライタブル表示装置。 【選択図】図1	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
29	画像処理プログラム及び画像処理方法	第2004-341518号	2004/11/26	鈴木 昌彦	大学院医学研究院	特許第4572294号	2010/8/27	【課題】3次元画像データの処理を行い被写体の動態解析を行うことが可能となる画像処理プログラム、画像処理方法を提供する。 【解決手段】時系列的に得られた複数の3次元画像データのそれぞれにおいて抽出対象領域を分割するステップ、その分割された複数の抽出対象領域の変位量を求めるステップと、を有する。また、抽出対象領域を分割するステップは、3次元画像データにおける最大の画素値を求めるステップ、その最大の画素値よりも小さい所定の画素値を設定するステップ、3次元画像データを複数の2次元画像データに分割してそのいずれか一側辺から順次走査して前記所定の画素値以上となった画素を開始点と定め、当該開始点となる画素と隣接する画素における画素値が前記所定の画素値以上であると判断した場合、更に当該画素に隣接する画素の画素値に対し同様に判断を繰返すステップ、を有する。 【選択図】図1	
30	脳機能診断装置	特願2004-348151	2004/12/1	下山 一郎	フロンティア医工学センター	特許第4500964号	2010/4/30	【課題】様々な脳機能診断をまとめて一度に行える脳機能診断装置を提供すること。 【解決手段】情報処理装置と、該情報処理装置に接続された表示装置及び統合装置と、該統合装置に接続された右手入力兼皮膚刺激装置、左手入力兼皮膚刺激装置、重心動揺測定装置、ヘッドホン及びマイクロホンと、を有する脳機能診断装置とする。この右手入力兼皮膚刺激装置は、右手用バイブレーションモータ及び右手入力キーを有し、この左手入力兼皮膚刺激装置は、右手用バイブレーションモータ及び左手入力キーを有することを特徴とする脳機能診断装置とする。 【選択図】図1	

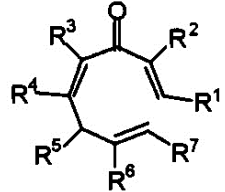
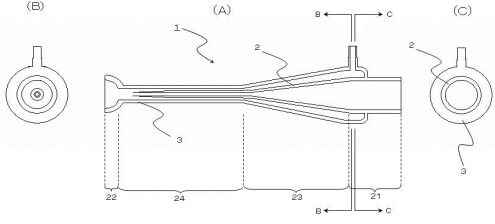
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
31	セレンを高濃度含有した無臭ニンニク	特願2005-007936	2005/1/14	小椋 康光	元大学院 薬学研究 院	特許第4491606号	2010/4/16	【課題】 高濃度にセレン化合物を含有した無臭のニンニクを提供すること。 【解決手段】 第一の手段として、セレンを高濃度含有した無臭ニンニクとする。 第二の手段として、培地に無機セレン化合物を散布し、無機セレン化合物を散布した培地に無臭ニンニクの種球根をばらした種片の少なくとも一方を植え付け、無臭ニンニクを育成することによりセレンを高濃度含有した無臭ニンニクを製造する方法とする。 第三の手段として、培地に無臭ニンニクの種を蒔き、無臭ニンニクを育成する過程において培地に無機セレン化合物を散布することにより、セレンを高濃度含有した無臭ニンニクを製造する方法とする。 【選択図】図1	
32	エポキシ樹脂組成物及びエポキシ樹脂硬化物	特願2005-025267号	2005/2/1	阿久津 文彦	大学院 工学研究 科	特許第4779112号	2011/7/15	【課題】 より耐熱性のあるエポキシ樹脂硬化物及びそれを達成するためのエポキシ樹脂組成物を提供すること。 【解決手段】 一分子中にエポキシ基を2個以上有するエポキシ樹脂と、オキサゾール環を有する芳香族アミンを含有する硬化剤と、を配合してなるエポキシ樹脂組成物とする。 【選択図】なし	なし
33	画像処理装置及びそれに用いられるプログラム	特願2005-029797	2005/2/4	羽石 秀昭	フロンティア 医工学セ ンター	特許第4512824号	2010/5/21	【課題】 高精度にかつ高速に被験者の測定対象部位近傍における三次元位置を推定できる画像処理装置及びそれに用いられるプログラムを提供すること。 【解決手段】 二次元実透視像データを格納する二次元実透視データ格納部、該二次元実透視像データに対し補正を行う補正部、三次元画像データを格納する三次元画像データ格納部、該三次元画像データに基づいて三次元骨部データを作成する骨領域抽出・分割部、該三次元骨部データに対して移動パラメータを設定する移動パラメータ設定部、前記三次元骨部データ及び前記設定した移動パラメータに基づいて二次元仮想透視像データを作成する仮想透視像計算部、前記二次元実透視像データと前記二次元仮想透視像データとのマッチングを行うマッチング評価部、を有する画像処理装置。 【選択図】図1	

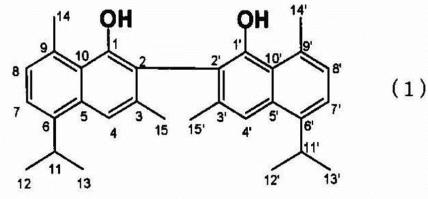
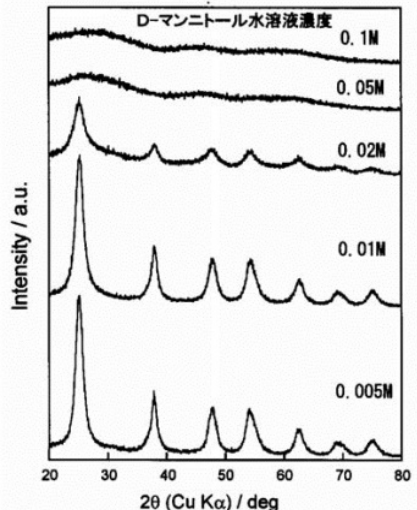
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
34	パラジウム金属多孔質粒子の製造方法	特願2005-039806号	2005/2/16	加納 博文	大学院 理学研究科	特許第4415150号	2009/12/4	【課題】より高効率なパラジウム金属多孔質粒子の製造方法を提供すること。 【解決手段】ポリビニルアルコール又はポリビニルアルコール誘導体からなる乾燥フィルムにパラジウム化合物を分散吸着させる工程、加熱によりパラジウム化合物が分散吸着した乾燥フィルムを消失させる工程、を有するパラジウム金属多孔質粒子の製造方法とする。 【選択図】図1	
35	Gefitinib、及び類薬に感受性を示す組織におけるDNAの簡便検査方法	特願2005-038796	2005/2/16	有吉 範高	医学部 附属病院	特許第4528967号	2010/6/18	【課題】gefitinib、および類薬の感受性を示す組織におけるDNAの簡便な検査方法及びそれに用いられるプライマーセットを提供すること。 【解決手段】特定の塩基配列からなる第1のプライマー、特定の塩基配列からなる第2のプライマー、特定の塩基配列からなる第3のプライマーおよびこれらのプライマーを含んでなるプライマーセットとし、これらのプライマーを用いてPCRを行い、PCR産物に対して電気泳動を行うことで、gefitinib、及び類薬応答性遺伝子変異の判定方法を提供する。 【選択図】図1	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
36	フェノール化合物の製造方法	特願2005-056609	2005/3/1	吉田 和弘	大学院 理学研究 科	特許第4528968号	2010/6/18	【課題】様々な置換様式をもつフェノール化合物の効率的、且つ、簡便な製造方法を提供する。 【解決手段】(1)式で表わされる1、4、7-トリエーノン化合物を、ルテニウムもしくはモリブデン触媒の存在下で反応させることにより置換基を有していてもよいフェノール化合物を製造する。  (1) [式中R1～R7は水素または特定の炭化水素基、アルコキシ基、アリーロキシ基、アミノ基、シリル基、アルキルチオ基、アリールチオ基、アルキルスルホニル基、アリールスルホニル基、水酸基、又はハロゲン原子であり、R3とR4、R4とR5およびR5とR6は互いに架橋して環を形成していてもよい] 【選択図】なし	なし
37	全量導入型ネブライザー対応シースガス導入型スプレーチャンバー	特願2005-059499	2005/3/3	小椋 康光	元大学院 薬学研究 院	特許第4491607号	2010/4/16	【課題】試料の損失を抑えた全量導入型ネブライザー対応のスプレーチャンバー、更には、試料輸送が経時的に安定した全量導入型ネブライザー対応のスプレーチャンバー、を提供すること。 【解決手段】内管と、該内管の外側に配置される外管とを有する全量導入型ネブライザー対応シースガス導入型スプレーチャンバーとする。またこの場合において、内管は、ネブライザーから試料を導入する導入部、導入部から遠ざかるに従い径が減少する傾斜部、傾斜部により減少した径がほぼ一定に保たれている平行部、を有しており、外管は、試料を外部に出力するための出力部、外管の径がほぼ一定に保たれ、かつ、内管の平行部と二重管を構成する平行部、を有していることも望ましい。 【選択図】図1	

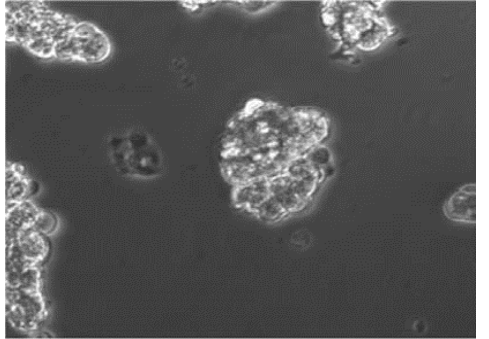
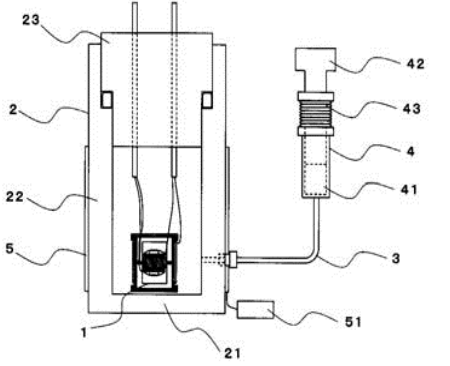
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
38	パルビフロレンHおよびパルビフロレンI	特願2005-073923号	2005/3/15	石橋 正己	大学院薬学研究院	特許第4359683号	2009/8/21	【課題】天然の動植物、微生物などに含まれる新規の化学成分を提供する。 【解決手段】ショウガ科植物 <i>Curcuma parviflora</i> の成分研究を行って (1) 式で示されるパルビフロレンH、及びパルビフロレンI を得た。これらの物質は細胞毒性物質として利用できる。  (1) 【選択図】なし	なし
39	酸化チタン分散液及びその製造方法	特願2005-078241号	2005/3/17	上川 直文	大学院工学研究科	特許第4710004号	2011/4/1	【課題】より安定性の高い酸化チタン粒子を分散させた水溶液(酸化チタン分散液)を提供すること。 【解決手段】1価アルコール分子、2価アルコール分子、糖アルコール分子の少なくともいずれかを表面に有する酸化チタン粒子が溶液中に分散されている酸化チタン分散液とする。 【選択図】図1	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
40	肺サルコイドーシスおよび眼サルコイドーシスの検出マーカー及び検出キット	特願2005-115173	2005/4/12	黒須 克志	大学院医学研究院	特許第4512828号	2010/5/21	【課題】肺サルコイドーシスおよび眼サルコイドーシスを検出するための検出マーカーおよび検出キットを提供する。 【解決手段】肺サルコイドーシスおよび眼サルコイドーシスに関する自己抗原に対して特異的な抗体を検出マーカーとして用いる。患者からの血液またはBAL液を抽出して、該抗体が存在するかどうかを調べ、存在している場合は、肺サルコイドーシスまたは眼サルコイドーシスの疑いがあると判定する。 【選択図】図1	Primer Vβ 1 GAACCTA AAC CTG AGC TCT CTG Vβ 2 CAG CTT CTA CAT CTG CAG TGC Vβ 3 CTG GAG TCC GCC AGC ACC A Vβ 4 GAG CAA CAT GAG CCC TGA AG Vβ 5A GCT CTG AGA TGA ATG TGA GCG CC Vβ 5B GCT GAA TGT GAA CGC CTT GTT G Vβ 6A ATC CAG CGC ACA CAG CAG GCG Vβ 6B GAA GAT CCA GCG CAG AGA GC Vβ 7 CTC ACC TGA ATG CCC CAA CAG Vβ 8 GCC CTC AGA ACC CAG GGA CT Vβ 9 CTG GAG CTT GGT GAC TCT GCT GT Vβ 10 GAT CCA GTC CAC GGA GTC AGG Vβ 11 CCT GGA GTC TGC CAG GCC CTC Vβ 12 CAC TCT GGA GTC CGC TAC C Vβ 13A TCA GGC TGC TGT CGG CTG CTC Vβ 13B TGG GGT TGG AGT CGG CTG CTC Vβ 13C TCA GGC TGG AGT CGG CTG CTC Vβ 13D TCA GGC TGG AGT CAG CTG CTC Vβ 13E CCT CAC GTT GGC GTC TGC TGT Vβ 14 GTC TCT CGA AAA GAG AAG AGG Vβ 15 CCC TAG AGT CTG CCA TCC C Vβ 16 GTG CAG CCT GCA GAA CTG GAG Vβ 17 CAC TGT GAC ATC GGC CCA AAA G Vβ 18 GGA TCC AGC AGG TAG TGC G Vβ 19 ATC CTG TCC TCA GAA CCG GGA Vβ 20 CCT CCT CAG TGA CTC TGG C Vβ 21 ATC CAG CCT GCA GAG CTT GG Vβ 22 GAA GAT CCG GTC CAC AAA GCT G Vβ 23 CTG AAC TGA ACA TGA GCT CCT T Vβ 24 CAT CCG CTC ACC AGG CCT G Vβ 25 TCC CAA ATT CAC CCT GTA GCC TTG Cβ AGA TCT CTG CTT CTG ATG GCT C
41	音響キャビティ及びそれを用いた流体用共鳴音波スペクトロスコープ装置	特願2005-116308	2005/4/13	東崎 健一	教育学部	特許第4500965号	2010/4/30	【課題】装置が小型化可能であって、高い温度均一性、安定性を実現することのできる流体用共鳴音波スペクトロスコープ装置及びそれに用いられる音響キャビティを提供すること。 【解決手段】周波数信号を出力するオシレータと、該オシレータが出力する周波数信号に基づいて振動する振動源、孔が形成され前記振動源に対向して配置される反射板、振動源及び反射板との間に配置される円筒、を有する音響キャビティと、音響キャビティの振動源の振動に起因して該円筒内部に発生する波を感知するマイクロフォンと、マイクロフォンが感知した波の振幅を、オシレータが出力する周波数信号の周波数を参照して抽出及び出力するロックインアンプと、ロックインアンプの出力を格納する記憶装置を有するコンピュータと、を有することを特徴とする流体用共鳴音波スペクトロスコープ装置とする。 【選択図】図1	

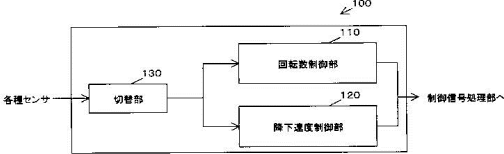
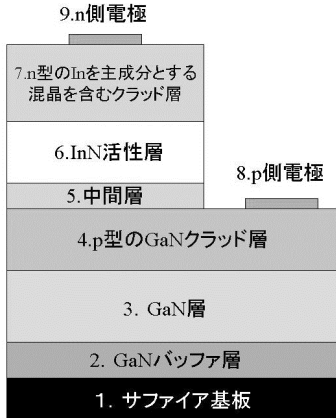
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
42	成体腭由来幹細胞の製造方法	特願2005-116309	2005/4/13	鈴木 一史	医学部 附属病院	特許第5584875号	2014/8/1	【課題】 成体腭由来幹細胞を簡便に製造する方法を提供すること、更には、その成体由来幹細胞を他の細胞種への分化に貢献すること。 【解決手段】 血清と増殖因子を含有する完全細胞培養液を、細胞外器質がコーティングされた細胞培養皿に塗布し、腭腺房細胞を培養して成体腭由来幹細胞を製造する方法とする。 【選択図】図1	 (200倍)
43	自閉症の診断薬	特願2005-125770号	2005/4/22	橋本 謙二	社会精神 保健教育 研究セン ター	特許第4677556号	2011/2/10	【課題】 新しい自閉症の診断薬を提供すること。 【解決手段】 抗脳由来神経栄養因子抗体を有効成分とする自閉症の診断薬であって、該抗体を用いて血液中の脳由来神経栄養因子を測定することによって、自閉症が診断される。とくに、抗脳由来神経栄養因子抗体と標識化抗脳由来神経栄養因子抗体とを用いて患者血液中の脳由来神経栄養因子の濃度を測定することによって該診断が容易に行われる。 【選択図】なし	なし
44	高圧測定可能な示差走査型熱量計及びそれを用いた示差走査型熱量計装置	特願2005-128727号	2005/4/26	東崎 健一	教育学部	特許第4852740号	2011/11/4	【課題】 高圧下で圧力を走査させた場合であっても高感度で測定を行う示差走査型熱量計、及び圧力走査のレスポンスが速い示差走査型熱流計装置を提供すること。 【解決手段】 筒状の側壁部材と、該側壁部材に固定される台座部材と、からなる金属フレームと、該金属フレームにおける台座部材の表裏面のそれぞれに配置される一対の半導体熱電素子と、金属フレームの側壁部材の開口部分を覆う一対の金属キャップと、を有することを特徴とする示差走査型熱量計とする。 【選択図】図1	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
45	関節リウマチの検査方法、関節リウマチ診断薬、及びそれに用いられるプライマー	特願2005-133234号	2005/4/28	渡邊 紀彦	医学部 附属病院	特許第4686713号	2011/2/25	【課題】 関節リウマチの新たな検査方法を提供すること。 【解決手段】 ヒトB and T Lymphocyte Attenuator(以下「BTLA」という)遺伝子の590番塩基の一塩基多型を同定することの特徴とする関節リウマチの検査方法とする。 【選択図】図1	<pre> Sample: 1 atgagagat tgcctgcah gcttggaat gggaaatlaa ttgggttt ttcttaata ccatatctgg aaattggaa Origin: 1 atgagagat tgcctgcah gcttggaat gggaaatlaa ttgggttt ttcttaata ccatatctgg aaattggaa Sample: 81 catccatggg aaagaatcat gtaatgaca gtttatata aagaacacac ctgaacatct catcttagca ggaatccct Origin: 81 catccatggg aaagaatcat gtaatgaca gtttatata aagaacacac ctgaacatct catcttagca ggaatccct Sample:161 ttgaacagaa atgcctcttg aaatctcttg ctacagggcc tcatgtgact tggcgagc tcatgtgaa acactgtga Origin:161 ttgaacagaa atgcctcttg aaatctcttg ctacagggcc tcatgtgact tggcgagc tcatgtgaa acactgtga Sample:241 aaatttgag atagaaan aaattggag gaagagaa acatttatt ttcatctta catttgaan caatgcttc Origin:241 aaatttgag atagaaan aaattggag gaagagaa acatttatt ttcatctta catttgaan caatgcttc Sample:321 taatgacat gtttcaaac gtttctctg aaatttttg tctaatctca ttgaagacca ctgaacacat ctttatgta Origin:321 taatgacat gtttcaaac gtttctctg aaatttttg tctaatctca ttgaagacca ctgaacacat ctttatgta Sample:401 agatgaaa aatgctaca gaagaccc ctgaagaa aaggaaga agaccttga tcatgttag ttatcttc Origin:401 agatgaaa aatgctaca gaagaccc ctgaagaa aaggaaga agaccttga tcatgttag ttatcttc Sample:481 ttggagagat tgcctcat catcactac tcttctctg tcttctctg ctgaagaa caacaaataa agcaaatga Origin:481 ttggagagat tgcctcat catcactac tcttctctg tcttctctg ctgaagaa caacaaataa agcaaatga Sample:561 actctctg acagagaa gggaaatlaa ttgggttt gcttaactla agacagaa acagagaa agacagaa Origin:561 actctctg acagagaa gggaaatlaa ttgggttt gcttaactla agacagaa acagagaa agacagaa Sample:641 aaatttcaa agtaactga tcaagatg gaatttga taatgaac gaatttgt tcaagatga ggaaggtt Origin:641 aaatttcaa agtaactga tcaagatg gaatttga taatgaac gaatttgt tcaagatga ggaaggtt Sample:721 gaaatlaa ttaactctg ctgaagaa aaacaaacg gtaatgta tcttctctg aaactctg ctatgaac Origin:721 gaaatlaa ttaactctg ctgaagaa aaacaaacg gtaatgta tcttctctg aaactctg ctatgaac Sample:801 gaactaaga ctggagaa atgaaga agacaaaca gaattgat caatgtgt gagaatlaa Origin:801 gaactaaga ctggagaa atgaaga agacaaaca gaattgat caatgtgt gagaatlaa </pre>
46	精神神経疾患の治療薬	特願2006-512830	2005/4/28	橋本 謙二	社会精神 保健教育 研究セン ター	特許第4834837号	2011/10/7	本発明は、トロピセトロンまたはその薬学的に許容し得る塩を有効成分とする、統合失調症やアルツハイマー病などの精神神経疾患の予防および／または治療のための医薬製剤に関する。	なし
47	小型無人ヘリコプタの自立飛行制御装置及び自立飛行制御方法	特願2005-135106号	2005/5/6	野波 健蔵	大学院 工学研究 科	特許第4644522号	2010/12/10	【課題】 ヘリコプタ機体の小型化を実現するとともに、設定される任意の軌道に沿ってヘリコプタ機体を自律飛行制御できる小型無人ヘリコプタの自律飛行制御装置及び自律飛行制御方法を提供する。 【解決手段】 ヘリコプタ機体の動特性を示すモデル式を基に作製した自律飛行制御装置100において、設定される軌道から取得する未来の位置目標値を用いてモデル式における位置制御モデルを基に予見フィードフォワード位置制御値を演算する予見フィードフォワード位置制御値取得部102と、予見フィードフォワード位置制御値を用いて位置制御値を取得する位置制御値取得部103を備え、当該位置制御値を基にヘリコプタ機体の舵を動かすサーボモータの制御値を取得し、設定される軌道に沿ってヘリコプタ機体を自律飛行制御させる。 【選択図】 図1	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
48	小型無人ヘリコプタ機体のオートローテーション制御装置及び方法	特願2005-161238号	2005/6/1	野波 健蔵	大学院工学研究科	特許第4629504号	2010/11/19	【課題】 ヘリコプタ機体の飛行中にエンジントラブルが発生し、メインロータに回転エネルギーが供給できなくなった場合においても、エンジントラブル発生を検知、及び安全着陸までのオートローテーション飛行を自律的に制御できるオートローテーション制御装置を提供する。 【解決手段】 メインロータの回転数からエンジントラブル発生を検知、あるいは各種制御部との接続の切替え制御を行う切替部130、エンジントラブル発生を判断した際に切替部130と接続され、メインロータの回転数について目標値に到達させる制御をする回転数制御部110、回転数が目標値に到達した際に切替部130と接続され、降下速度について制御する降下速度制御部120を備え、回転数制御部110及び降下速度制御部120は、ヘリコプタ機体の動特性を示す各種モデル式を基に取得する夫々のコレクティブピッチ角を用いて自律的に制御する。 【選択図】 図1	
49	半導体機能素子	特願2005178650	2005/6/17	崔 成伯 吉川 明彦	元大学院工学研究科	特許第4491610号	2010/4/16	【課題】 InN結晶及びInNを主成分とする混晶を含む活性層を備え、より高性能な光電変換機能素子を提供すること。 【解決手段】 p型のGaNクラッド層、InN活性層、n型のInNを主成分とする混晶を含むクラッド層の順に積層されてなる光電変換機能素子とする。また、InN活性層と、p型のGaNクラッド層との間に、InNを主成分とする混晶を含む中間層を有してなることを特徴とする光電変換機能素子とする。 【選択図】図1	

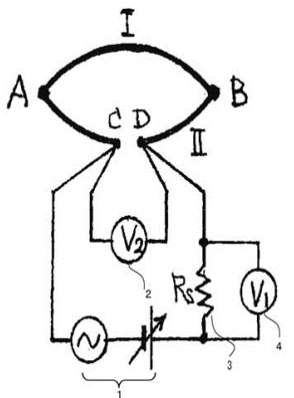
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
50	植物における二次代謝物の産生を増大せしめる方法	特願2005-191783号	2005/6/30	古在 豊樹	環境健康フィールド科学センター	特許第4686716号	2011/2/25	【課題】植物由来の大量の二次代謝物であるハイペリシン、グリチルリチン酸またはその誘導体を、迅速に産生する方法の提供。 【解決手段】植物における二次代謝物の産生を増大せしめる方法であって、植物が、セイヨウオトギリソウ、Glycyrrhiza属である植物の生育に影響する要素である光合成光子量密度、二酸化炭素の濃度、光の波長、明期、温度、湿度および栄養分の量からの少なくとも1種の要素の制御を、成苗期を経過した植物体に対して行うことを含む、前記方法。 【選択図】図8	(A) (B) (C)
51	光パターンニング材料および光パターン形成方法	特願2005-211948号	2005/7/21	高原 茂	大学院工学研究院	特許第4487069号	2010/4/9	【課題】温和な反応条件下、生体物質に親和性がある薄膜の光パターンニングを可能とする。 【解決手段】少なくとも、ビリルビンまたはビリルビン誘導体を感光性薄膜とすることで、薄膜中に従来技術のような反応性の高いラジカルや酸、塩基など発生する光開始剤を特に必要とせず、水またはアルカリ溶液によって露光した部分の溶解性が向上し、パターン形成が可能となる。 【選択図】図1	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
52	赤外分光法を用いた血液中のグルコース濃度を測定する方法及びそれを用いた装置	特願2006-527803号	2005/7/26	北村 彰英	大学院工学研究科	特許第4719891号	2011/4/15	(課題) 赤外分光法を用いてより精度の高い定量化を可能とする血糖値の測定方法、及び、それを用いた血糖値の測定装置を提供すること。 (解決手段) 1020～1040cm⁻¹の波長範囲を含む吸収スペクトルを測定し、吸収スペクトルのうち1020～1040cm⁻¹の波長範囲の吸収の強度を積分して積分値を求め、積分値に基づいて血液中のグルコース濃度を測定する。または、1010～1050cm⁻¹の波長範囲を含む吸収スペクトルを測定し、吸収スペクトルのうち1010～1050cm⁻¹の波長範囲を含む吸収スペクトルを二次微分して二次微分スペクトルを求め、二次微分スペクトルに基づいて積分範囲を定め、定めた積分範囲における吸収の強度を積分して積分値を求め、積分値に基づいて血液中のグルコース濃度を測定する。	なし
53	氷蓄熱装置	特願2005-233410号	2005/8/11	田中 学 (菱田 誠)	大学院工学研究科	特許第4644807号	2010/12/17	【課題】 氷が生成した壁面の表面から気泡を発生させ、氷を剥離させる。 【解決手段】 流体を貯留する貯留槽1の内周面に氷生成壁面2を設置する。氷生成壁面の内表面8に氷を生成させるため、氷生成壁面の外表面9にブラインを流す。ブラインは冷却槽3にて冷却され、ポンプ4によって送り配管5を介して冷却回路6を流れ、戻り配管7によって再び冷却槽3に戻る。ブラインが冷却回路6を流れることで氷生成壁面2を冷却し、氷生成壁面の内表面8に氷を生成させる。気泡発生装置10にて氷生成壁面の内表面8から気泡を発生させ、氷生成壁面の内周面表面8に生成した氷を剥離させる。 【選択図】図1	

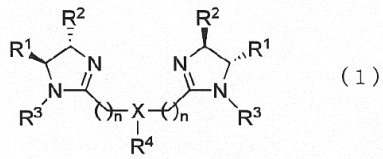
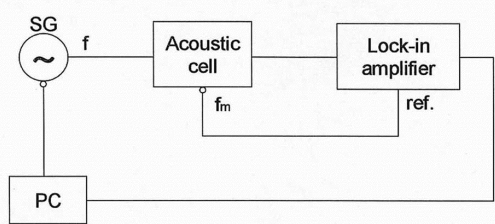
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
54	熱電素子の特性評価方法	特願2005-239958号	2005/8/22	東崎 健一	教育学部	特許第4474550号	2010/3/19	【課題】 上記課題を解決し、Peltier係数、Seebeck係数、熱抵抗といった個々の定数を求める熱電素子の特性評価方法を提供すること。 【解決手段】 熱電素子の二つの接点の一方をほぼ一定温度に保ちながら二つの接点の間に交流電流を流すステップ、更に、二つの接点の間に直流電流を重畳させるステップを有する熱電素子の特性評価方法。 【選択図】図1	
55	アオヤギ由来のコンドロイチン硫酸	特願2005-251063号	2005/8/31	戸井田 敏彦	大学院薬学研究院	特許第4719878号	2011/4/15	【課題】より安価に、且つ大量に製造でき、尚かつ種々の有用な用途が期待できる新規なコンドロイチン硫酸およびその製造方法の提供。 【解決手段】アオヤギ(バカ貝)から得られ、非硫酸化GalNAc(%) : 22.0 ± 3.3、C6位一硫酸化GalNAc(%) : 10.7 ± 15.8、C4位一硫酸化GalNAc(%) : 12.5 ± 10.5、C4、C6位二硫酸化GalNAc(%) : 54.8 ± 5.3、C2位一硫酸化GlcA(%) : 23.6 ± 8.7であるが、好ましくは、非硫酸化GalNAc(%) : 22.0 ± 2.2、C6位一硫酸化GalNAc(%) : 10.7 ± 10.6、C4位一硫酸化GalNAc(%) : 12.5 ± 5.7、C4、C6位二硫酸化GalNAc(%) : 54.8 ± 1.6、C2位一硫酸化GlcA(%) : 23.6 ± 1.7を含んでなるコンドロイチン硫酸およびその製造方法。 【選択図】なし	なし
56	樹脂-シリカ複合構造体及びその製造方法	特願2005-257161号	2005/9/5	佐藤 智司	大学院工学研究科	特許第4801399号	2011/8/12	【課題】高い曲げ強度を持ち、例えば、人工骨などの用途に適した、優れた樹脂-シリカ複合構造体を提供する。 【解決手段】細孔直径が0.1 ~ 50 μmの連通孔を、50 ~ 80体積%の割合で有するシリカ多孔質構造体の上記連通孔に樹脂が、好ましくは、シリカ多孔質構造体に対して50体積%以上の割合で充填された構造を有することを特徴とする樹脂-シリカ複合構造体であり、細孔直径が0.1 ~ 50 μmの連通孔を、50 ~ 80体積%の割合で有するシリカ多孔質構造体の上記連通孔にモノマーを含浸せしめた後、重合することによって得ることができる。 【選択図】なし	なし

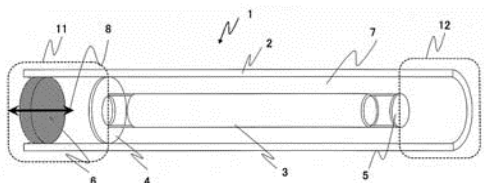
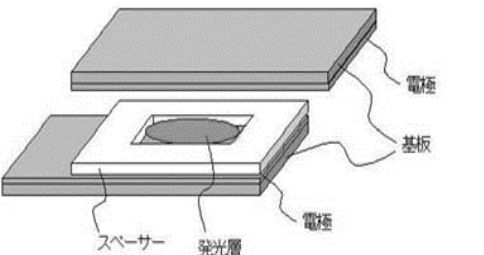
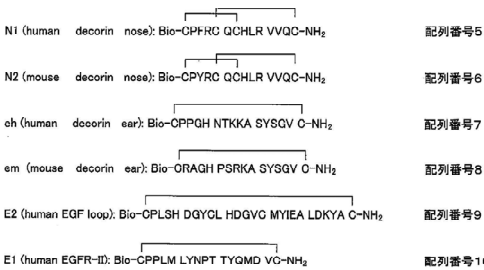
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
57	酸化亜鉛微粒子及びその集合体と分散溶液の製造方法	特願2005-260940号	2005/9/8	上川 直文	大学院 工学研究 科	特許第4304343号	2009/5/15	【課題】本発明は、中性溶液中で、中低温で加熱する、低環境負荷であり非常に簡便で高収率の酸化亜鉛ナノ粒子の製造方法を提供する。 【解決手段】硝酸亜鉛水和物とアンモニア水溶液を混合して水酸化亜鉛ゲルを得る工程と、該水酸化亜鉛ゲルをグリコール中に分散および加熱処理して、酸化亜鉛ナノ粒子を分散したゾルを得ることを特徴とする酸化亜鉛ナノ粒子の製造方法により上記課題を解決する。本発明は、中性溶液中で、中低温で加熱する、低環境負荷であり非常に簡便な製造方法を提供することができるので、光触媒、各種の表示装置のための透明導電性薄膜、蛍光体、色素増感太陽電池用電極材料、あるいはp型酸化物半導体の製造など、幅広い技術分野で応用が可能である。 また、様々な粒径や空隙率を有する酸化亜鉛ナノ粒子二次集合体を製造することが可能となり、ドーピングが可能が飛躍的に高まる。 【選択図】図1	
58	水耕栽培装置	特願2005-283931号	2005/9/29	佐藤 卓	園芸学部	特許第4759734号	2011/6/17	【課題】従来の栽培装置に比べ、長大な栽培ベッドにおいても、均一な培養液濃度を全栽培ベッドに供給でき、その結果、従来の栽培装置での栽培ベッドの上流と下流における作物の生育速度の差が解消し、従来困難であった均一な大きさの園芸作物を栽培することを可能にする。 【解決手段】本発明では従来のな一時傾斜(1)に加え、横方向の傾斜(二次傾斜)(2)を加え、さらに栽培ベッド(3)に沿ってドリッパイリゲーションホース(10)を設置することにより、培養液を横から供給することを可能にした。その結果、培養液は中央に設置された排水チャンネル(5)に向かって栽培ベッド上を斜め方向に流れて行く。そのため、ドリッパイリゲーションホース(10)から供給された培養液が、栽培ベッド(3)上を移動する距離が短く、植物体の根系を通過することによる培養液濃度の低下が無視できるまでに小さくなり、均一な大きさの植物体を栽培する水耕栽培装置が可能となる。 【選択図】図1	

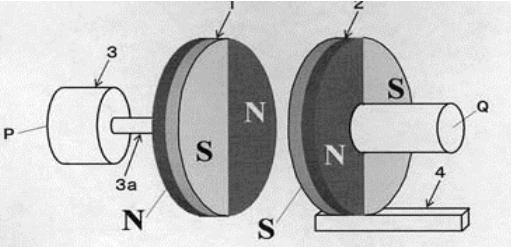
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
59	ビスイミダゾリン配位子及びそれを用いた触媒	特願2005-294597号	2005/10/7	荒井 孝義	大学院 理学研究科	特許第4747298号	2011/5/27	【課題】配位子としての多様性を指向し、汎用性あるビスイミダゾリン配位子の設計と合成をすること。特にその分子設計においては、自由度の高い配位子設計に重点を置き、有用な触媒的不斉反応の実現すること。 【解決手段】下記化学式(1)にて示される配位子とする。  (1) (ただし、X=N, C, S, Pのいずれかであり、R1, R2 はCH3, C2 H5, -(CH2)4 -, Phのいずれかであり、R3 はH, CH3 SO2, CH3 C6 H4 SO2, C6 H5 SO2, CH3 CO, C6 H5 CO, CH3, C2 H5, CH2 Ph, Phのいずれかであり、R4 はH, CH3, C2 H5, CH2 Ph, Ph, CH3 SO2, CH3 C6 H4 SO2, C6 H5 SO2, CH3 CO, C6 H5 COのいずれかである。ここで、Phは芳香環を示す。)	なし
60	流体の高分解能音速測定方法および装置	特願2005-301235号	2005/10/17	東崎 健一	教育学部	特許第4465473号	2010/3/5	【課題】圧力を変化させながら1ppm分解能で音速を測定することは物質やその中に含有される物質の体積や弾性率の微妙な変化を明瞭に知る事を可能にする。例えば、0.1%蛋白質水溶液中の蛋白質分子が圧力や温度によって0.1%体積変化する様子を検出するには1ppm程度の音速分解能が必要になり、その実現は有力な物性研究・材料評価手法を提供することを目的とする。 【解決手段】共鳴器内での音波の発生と検出を同一のトランスデューサーで行い、これにより音響キャビティ(音響共鳴器)は小型にし、計測システムはシンプルにする。さらに、必要な試料量を減らす事ができ(実施例では音路長3mm,試料量100μl)、加えて、温度安定化が容易になる。信号の発生・検出を単一トランスデューサーで兼ねる場合、入力信号や試料外の経路を伝播した音波信号をうまく取り除いて、試料中の共鳴音波信号のみを検出する。 【選択図】図1	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
61	脈動流を用いた強制振動型ヒートパイプ	特願2005-309862号	2005/10/25	田中 学	大学院工学研究科	特許第4810656号	2011/9/2	【課題】上記課題に着目し、熱輸送量の制御性と熱輸送能力の向上の両立を図り、装置の小型化が可能なヒートパイプを提供すること。 【解決手段】特殊二重管を形成する細管と、該細管内における第1の流路内に配置される振動機構と、細管内に充填される作動流体と、を有するヒートパイプであって、第1の流路内に、特殊二重管流路が形成されているヒートパイプとする。 また、特殊二重管流路に流れる前記作動流体は、内管流路において外管流路における作動流体と逆向きに流れ、特殊二重管の両端で熱交換することを特徴とするヒートパイプとする。 【選択図】 図1	
62	交流駆動電気化学発光素子	特願2005-325476号	2005/11/9	小林 範久	大学院工学研究院	特許第4366505号	2009/9/4	【課題】高速応答が可能であって、一対の電極の距離の自由度を確保した高輝度な電気化学発光素子を提供すること。 【解決手段】一対の電極と、該一対の電極の間に挟持される発光材料を含有する発光層と、を有する電気化学発光素子であって、一対の電極間に周波数50Hz以上の交流電圧を印加することにより発光層を発光させる電気化学発光素子とする。 【選択図】図1	
63	デコリン由来ペプチド	特願2005-336110号	2005/11/21	瀧口 正樹	大学院医学研究院	特許第4560612号	2010/8/6	【課題】 新規な細胞増殖調節剤を提供すること。 【解決手段】 次式： Cys Pro X1 Arg Cys Gln Cys His Leu Arg Val Val Gln Cys （配列番号1） [式中、X1はPheまたはTyrであり、1番目のCysと7番目のCys、および5番目のCysと14番目のCysは、それぞれジスルフィド結合している] または次式： Cys X2 X3 Pro Gly His X4 X5 X6 Lys Ala Ser Tyr Ser Gly Val Cys （配列番号2） [式中、X2はProまたはArgであり、X3はProまたはAlaであり、X4はAsnまたはProであり、X5はThrまたはSerであり、X6はLysまたはArgであり、1番目のCysと16番目のCysはジスルフィド結合している] で表されるペプチドを有効成分として含有するヒト癌細胞増殖抑制剤および線維芽細胞増殖促進剤が開示される。 【選択図】 図1	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

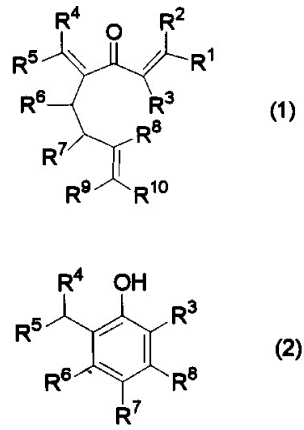
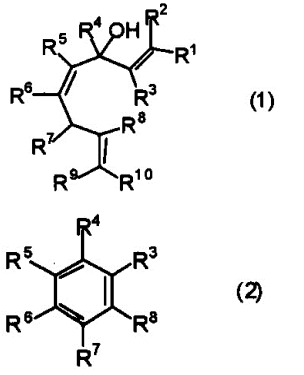
No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
64	振動抑制装置	特願2005-339621	2005/11/25	早乙女 英夫	大学院 工学研究 科	特許第4528974号	2010/6/18	【課題】永久磁石間の磁力を利用することで、定常的に電力損失を発生しない能動型振動抑制装置を提供する。 【解決手段】周方向に交互に磁極を異ならせて形成した回転可能な第1の永久磁石1と、その第1の永久磁石から軸方向に離れて配置された第1の永久磁石と同様に着磁された第2の永久磁石2と、その第2の永久磁石2を軸方向には移動自在で周方向には回転不能に支持する支持手段4と、からなり、第1及び第2の永久磁石間に働く磁力の斥力及び引力の大きさを、第1の永久磁石1に接続された電動機3の回転角度変化により調整し、永久磁石を用いることで電磁石のような磁力発生のための電力損失を発生させずに、第1及び第2の永久磁石間に生ずる外力による軸方向の振動を、能動的に制御された磁力により抑制する。 【選択図】図1	
65	新規不斉イリジウム触媒の製造方法とこれらを用いる光学活性β-ヒドロキシ-α-アミノ酸誘導体の製造方法	特願2005-356961号	2005/12/9	濱田 康正	大学院薬 学研究院	特許第4621918号	2010/11/12	【課題】医・農薬の中間体として有用である光学活性β-ヒドロキシ-α-アミノカルボン酸誘導体のアンチ体の効率的な製造方法を提供する。 【解決手段】式(1) $\text{R}^1-\text{C}(=\text{O})-\text{CH}(\text{NH}_2)-\text{CO}_2\text{R}^2 \quad (1)$ [式中、R¹は、置換若しくは無置換のC₁-20アルキル基又は置換若しくは無置換のC₄-12芳香族基を意味し、R²は、置換若しくは無置換のC₁-20アルキル基又は置換若しくは無置換のC₄-12芳香族基を意味する。]で表されるα-アミノアシル酢酸エステル化合物を、酸の存在下、触媒の不斉水素化反応により水素化することを特徴とする、式(2)又は式(3) $\text{R}^1-\text{CH}(\text{OH})-\text{CH}(\text{NH}_2)-\text{CO}_2\text{R}^2 \quad (2) \quad \text{R}^1-\text{CH}(\text{OH})-\text{CH}(\text{NH}_2)-\text{CO}_2\text{R}^2 \quad (3)$ [式中、R¹及びR²は、前記と同じ意味を示す。]で表される光学活性β-ヒドロキシ-α-アミノカルボン酸誘導体の製造方法。 【選択図】なし	なし

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

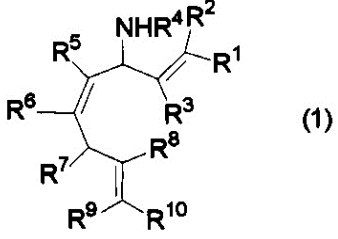
No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
66	有機透明導電体材料とその作製方法	特願2005-362376号	2005/12/15	星野 勝義	大学院 工学研究 院	特許第4552014号	2010/7/23	【課題】良好な透明度を有し、低コストで製造可能な有機透明導電性材料の製造方法の提供。 【解決手段】カルバゾールあるいはその誘導体を溶解した溶液を飽和カロメル参照電極に対し、電解電位+0.5～+1.8 Vの範囲で電解重合し、陽極上にポリカルバゾール膜(あるいはポリカルバゾール誘導体膜)を形成した後、ポリカルバゾールよりも小さな仕事関数をもつ金属を接触させ、化学量論比で反応させることにより、白色透明度が高い導電性ハイブリッド膜を得る有機透明導電性材料の作製方法。 【選択図】図1	
67	流体用密度測定装置および密度測定方法	特願2005-368470号	2005/12/21	東崎 健一	教育学部	特許第4336779号	2009/7/10	【課題】極めて簡単な構成で精密な密度測定を可能にする流体の流体用密度装置および密度測定方法を提供することを目的とする。特に、振動管密度計は困難であった、超臨界流体の正確な測定が可能にする。 【解決手段】測定試料を体内に含むはずみ車を吊るして、回転振動子とし、振動子の共振周波数変化より試料密度を算出するものである。従来の方法と比べて小型で、加振方法を工夫することによって高圧下にある流体の密度測定が容易に行えるようになった。また加振と振動検出を一つの素子で行うことによって装置をシンプルにし、信頼性を高めることができた。本方法は従来困難であった超臨界領域など流体の密度が環境により急激に変化する条件での高精度測定を可能にするに構成する。加えて、はずみ車は、用途に合わせて、様々な材料を選択できる。多孔質セラミックスや多孔質金属でも可能である。吸湿性の高い材料を選択すれば、高精度な湿度測定も可能である。 【選択図】図1	
68	位相共役鏡	特願2005-369037号	2005/12/22	尾松 孝茂	大学院 工学研究 院	特許第4649614号	2010/12/24	【課題】より高反射率、広帯域、高速応答、高光損傷閾値を示す位相共役鏡を提供すること。 【解決手段】バナデート混晶を用いてなる位相共役鏡で、そのバナデート混晶は、Nd:YVO₄、Nd:GdVO₄、Nd:LuVO₄及びNd:LaVO₄のうちの少なくともいずれか二つを含有してなることを特徴とする位相共役鏡とする。 【選択図】図1	

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
69	半導体集積回路	特願2006-553856号	2006/1/5	難波 一輝	大学院 工学研究 院	特許第4555968号	2010/7/30	【課題】 占有面積の増加を大幅にもたらしことなく、いわゆる2パターンテストが可能となる半導体集積回路を提供すること。 【解決手段】 複数のフリップフロップと、該複数のフリップフロップの各々に対応して設けられるセレクトと、を有する半導体集積回路であって、フリップフロップは、それぞれマスターラッチ及び該マスターラッチに接続されるスレイブラッチを有し、セレクトは、該セレクトが対応する前記フリップフロップの前記マスターラッチと電気的に接続されており、かつ、セレクトが対応するフリップフロップとは別のフリップフロップのマスターラッチとも接続されている半導体集積回路とする。 【選択図】図1	
70	電場による水のジェット流制御法とそれを応用した流体デバイス	特願2006-026356	2006/2/2	大坪 泰文	大学院 工学研究 科	特許第4517153号	2010/5/28	【課題】より取扱が容易な流体制御方法及び流体デバイスを提供すること。 【解決手段】水中に一对の電極を配置し、直流電圧を印加することにより水流を発生させる流体制御方法とする。また、水を収納可能なハウジングと、該ハウジング内に配置される一对の電極と、を有する流体デバイスとする。 【選択図】図1	
71	光-光スイッチング方法、光-光スイッチング素子およびその製造方法	特願2007-501621号	2006/2/2	坂東 弘之	大学院 工学研究 院	特許第4590645号	2010/9/24	制御光で信号光をオン／オフする光-光スイッチング方法において、二光子吸収特性を有する半導体に、光強度の低い信号光を照射しつつ、光強度の高い制御光を間欠的に照射し、該制御光の照射時には発生した二光子吸収により該信号光の通過を遮断し、該制御光の非照射時には該信号光を通過させる光-光スイッチング方法；二光子吸収特性を有する半導体、該半導体へ入力する制御光と信号光の伝播手段および該半導体を透過した信号光の伝播手段とからなる光-光スイッチング素子；基板上に二光子吸収特性を有する半導体を形成する工程および導波路を形成する工程からなる光-光スイッチング素子の製造方法。	なし

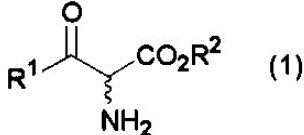
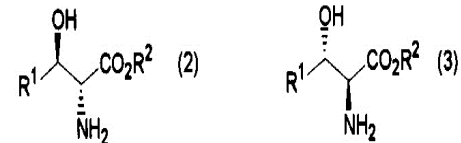
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
72	フェノール化合物の製造法	特願2006-39389号	2006/2/16	吉田 和弘	大学院 理学研究 科	特許第4576533号	2010/9/3	【課題】様々な置換様式をもつフェノール誘導体の効率的合成法の提供。 【解決手段】式(1)(R¹～R¹⁰;H、炭化水素基等)のトリエノンがルテニウム触媒下で反応、得た閉環生成物の2重結合を異性化し式(2)のフェノール誘導体を得る。  (1) (2) 【選択図】なし	なし
73	ベンゼン誘導体の製造方法	特願2006-039387号	2006/2/16	吉田 和弘	大学院 理学研究 科	特許第4590637号	2010/9/24	【課題】ベンゼン化合物を効率的、かつ、簡便に得る合成方法を提案すること。 【解決手段】式(1)で表されるトリエノールを、ルテニウムもしくはモリブデン触媒の存在下で反応させることを特徴とする式(2)で表されるベンゼン誘導体の製造方法。  (1) (2) 【選択図】なし	なし

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
74	アニリンおよびフェノール化合物の製造法	特願2006-039388号	2006/2/16	吉田 和弘	大学院理学研究科	特許第4765071号	2011/6/24	【課題】アニリン、フェノール化合物の合成方法を提供する。 【解決手段】一般式(1)  (1) で表されるトリエンアミンを、ルテニウムもしくはモリブデン触媒の存在下で反応させることで閉環生成物を得る。さらに、得られた生成物を酸化することによってアニリン誘導体を製造する方法。 【選択図】なし	なし
75	特発性肺線維症の検出マーカー、検出キット及び検出方法	特願2007-508057	2006/2/28	黒須 克志	大学院医学研究院	特許第4521575号	2010/6/4	本発明の目的は、容易に特発性肺線維症を検出するための検出マーカー、検出キット及び検出方法等を提供することである。 本発明は、抗annexin 1抗体、抗phosphoglycerate kinase 1抗体、抗annexin 4抗体、抗bax inhibitor 1抗体、抗cytochrome c oxidase subunit Va抗体、抗aldehyde dehydrogenase 1抗体、抗cytochrome c-1抗体、抗macrophage migration inhibitory factor抗体、抗annexin 2抗体、抗cytochrome c reductase core 1抗体、及び、抗heme oxygenase 1抗体から成る群から選択される、特発性肺線維症の血清中に存在する自己抗体、該自己抗体から成る特発性肺線維症の検出マーカー、検出キット、及び、検出方法等に関する。	なし

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
76	新規不斉ニッケル触媒の製造方法とこれらを用いる光学活性β-ヒドロキシ-α-アミノ酸誘導体の製造方法	特願2006-055350号	2006/3/1	濱田 康正	大学院薬学研究院	特許第4677562号	2011/2/10	【課題】医・農薬の中間体として有用である光学活性β-ヒドロキシ-α-アミノカルボン酸誘導体のアンチ体の効率的な製造方法を提供する。 【解決手段】式(1) 【化1】  【式中、R1 は、置換若しくは無置換のC1-20アルキル基又は置換若しくは無置換のC4-12芳香族基を意味し、R2 は、置換若しくは無置換のC1-20アルキル基又は置換若しくは無置換のC4-12芳香族基を意味する。】で表されるα-アミノアシル酢酸エステル化合物を、酸の存在下、触媒的不斉水素化反応により水素化することを特徴とする、式(2)又は式(3) 【化2】  【式中、R1 及びR2 は、前記と同じ意味を示す。】で表される光学活性β-ヒドロキシ-α-アミノカルボン酸誘導体の製造方法。 【選択図】なし	なし
77	有機薄膜トランジスタ及びそれを用いた半導体素子	特願2007-512797号	2006/3/29	渡辺 康之	先進科学センター	特許第4848522号	2011/10/28	オフ特性を向上させ、よりオンオフ比が高く信頼性の高い有機薄膜トランジスタ及びそれを用いた半導体素子を提供すること目的とする。 第一の電極、トンネル層としての機能を有する電荷注入障壁層(バリア層)、第一の有機半導体層、第二の電極、第二の有機半導体層、第三の電極を順次積層してなる積層構造を有する有機薄膜トランジスタ及びそれを用いた半導体素子とする。バリア層の厚さは、1nm以下であることが好ましく、0.1nm以上1nm以下であることがさらに好ましい。	なし

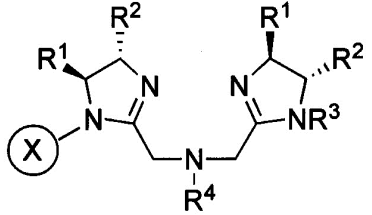
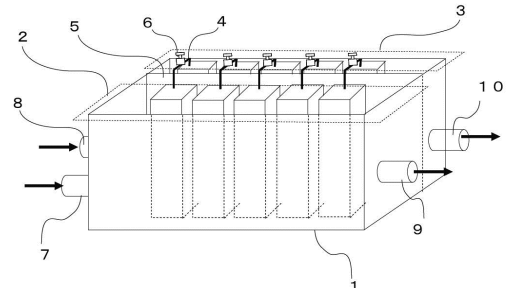
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
78	光酸発生材料、これを用いたフォトリソグラフィ材料、光パターニングまたは光リソグラフィ	特願2006-093877号	2006/3/30	高原 茂	大学院工学研究院	特許第4631059号	2010/11/26	【課題】レーザーダイレクトイメージング技術などに用い光開始系として、酸素阻害の影響がなく、自由度の高い高感度光酸発生系を提供する。 【解決手段】増感剤とオキシム系光酸発生剤が光電子移動を起こし、オキシム系光酸発生剤のラジカルアニオンから反応が開始される高感度増感光酸発生材料。ピロメテン系色素を増感剤とし、オキシム系光酸発生剤とした高感度増感光酸発生材料。光電子移動反応などによってオキシム系光酸発生剤分子から生成するラジカルアニオンが、N－O結合付近にラジカルスピ密度が局在化し、それにより、結合開裂が高効率で生じる該オキシム系光酸発生剤。上記高感度光酸発生材料を組み込んだフォトリソグラフィ材料。これらを用いた、光パターニング、光リソグラフィ。 【選択図】なし	なし
79	eIF4H発現抑制による癌細胞の増殖阻害方法	特願2006-109310号	2006/4/12	島田 英昭	大学院医学研究院	特許第4806772号	2011/8/26	【課題】癌、特に大腸癌に代表される消化器癌等のより有効で確実な検出・診断・治療を提供すること、及び、このような癌の遺伝子診断システムと遺伝子治療臨床研究システムの開発に利用される各種の生体分子の提供。 【解決手段】eIF-4Hの発現を抑制することから成る、癌細胞の増殖阻害方法、eIF-4Hに特異的な siRNAを活性成分として含有する医薬組成物、及び、eIF-4Hの発現量に基く、癌細胞増殖阻害活性を有する物質のスクリーニング方法等。 【選択図】図2	(A) siRNA sequences: R103: 5'-aacccacagagagagagag-3' R104: 5'-aacccacagagagagagag-3' (B) LOVO cell growth inhibition (Relative level (siRNA/con.)): Control: 1.00, R102: 0.55, R103: 0.33, R104: 0.66 (C) RKO cell growth inhibition (Relative level (siRNA/con.)): Control: 1.00, R102: 0.23, R103: 0.23, R104: 0.25 (D) LOVO cell growth inhibition bar chart (Cell growth (%)). Control: 100, R102: ~40, R103: ~40, R104: ~40 (E) RKO cell growth inhibition bar chart (Cell growth (%)). Control: 100, R102: ~40, R103: ~40, R104: ~40
80	ポリヌクレオチド試料の分析において感度を向上させる方法	特願2006-117137	2006/4/20	五ノ井 透	真菌医学研究センター	特許第4521556号	2010/6/4	【課題】ポリヌクレオチド試料の分析において、高感度な検出を可能にする手段を提供する。 【解決手段】ポリヌクレオチド試料の分析方法であって、担体に固定化されたプローブポリヌクレオチドに、融解温度調節剤が添加された被検ポリヌクレオチド試料を接触させ、被検ポリヌクレオチド試料に含まれるターゲットポリヌクレオチドをプローブポリヌクレオチドにハイブリダイズさせ、ハイブリダイゼーションに基づくシグナルを測定することを含む、前記分析方法。 【選択図】図1	Figure 1: Relative fluorescence intensity (%) for three spots (スポット1, スポット2, スポット3). Legend: Control (white), Betaine (black), DMSO (grey). Spot 1: Control ~100, Betaine ~350, DMSO ~180 Spot 2: Control ~100, Betaine ~330, DMSO ~180 Spot 3: Control ~100, Betaine ~420, DMSO ~190

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
81	プローブポリヌクレオチド固定化担体の再生方法	特願2006-120641	2006/4/20	五ノ井 透	真菌医学研究センター	特許第4524392号	2010/6/4	【課題】プローブポリヌクレオチドが固定化された担体を分析に使用した後、プローブポリヌクレオチドにハイブリダイズしたターゲットポリヌクレオチドを除去して、再生する手段を提供する。 【解決手段】プローブポリヌクレオチドが固定化された担体を用いてポリヌクレオチド試料を分析する方法において該担体を再生する方法であって、ターゲットポリヌクレオチドがプローブポリヌクレオチドにハイブリダイズした担体に、保湿剤の少なくとも1種を含む水性分散液を塗布する工程、および該担体を洗浄する工程を含む、前記方法。 【選択図】図1	ハイブリダイゼーション(1回目) (a) コントロール (b) ゼラチン処理 (c)
82	膀胱癌用抗癌剤の耐性検査マーカー、膀胱癌用抗癌剤の補助治療薬	特願2007-519048号	2006/5/31	高野 重紹	大学院医学研究院	特許第4621923号	2010/11/12	膀胱癌に対する抗癌剤の耐性を検査するためのマーカーを提供すること、更にはこれに基づき膀胱癌の補助治療薬を提供することとし、Annexin-II蛋白からなる膀胱癌用抗癌剤の耐性検査マーカー、および検体に対し免疫組織染色を行ってAnnexin-II蛋白を検出する方法とする。	なし
83	マイクロリアクター及びその製造方法	特願2006-183227号	2006/7/3	佐藤 智司	大学院工学研究科	特許第4500787号	2010/4/23	【課題】高い反応物流速が得られると共に、有効な触媒活性を有するマイクロリアクター及びその製造方法を提供する。 【解決手段】中空貫通孔を有し直径が10～1000μmの範囲内にある筒状多孔質シリカであって、筒状体を構成する多孔質シリカのナノ細孔直径が、好ましくは2～15nmの範囲内にあり、かつ、前記中空貫通孔の直径が0.1～100μmの範囲内にあることを特徴とする筒状多孔質シリカに触媒金属を担持したマイクロリアクターである。 【選択図】なし	なし

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
84	ビスイミダゾリン配位子及びそれを用いた触媒	特願2006-189109	2006/7/10	荒井 孝義	大学院 理学研究 科	特許第4517155号	2010/5/28	【課題】新規なビスイミダゾリン配位子及びそれを用いた触媒を提供すること。 【解決手段】下記化学式(1)にて示される配位子とする。  (1) (式中、R1、R2は、水素、アルキル基、フェニル基、若しくはナフチル基である(R1とR2は、結合を介して環を形成しても良い)。R3は、水素、トシル基、メシル基又はアルキル基である。R4は水素、アルキル基、又はフェニル基である。またXは固相担体であることを表し、独立にポリスチレンまたはポリアクリルアミドであることができる。なお、R1、R2が複数ある場合は、これらは異なっても同一でもよい。) 【選択図】なし	なし
85	ケミカルヒートポンプコンテナ	特願2006-195094	2006/7/18	小倉 裕直	大学院 工学研究 科	特許第5531334号	2014/5/9	【課題】小型化してもエネルギー効率の高いケミカルヒートポンプコンテナを提供すること。 【解決手段】 化学蓄熱材を充填した化学蓄熱反応器を有し、蓄熱時には温熱流体を加えることで吸熱反応により蓄熱し、放熱時には反応熱により温熱流体を発生する反応部と、溶液を充填した蒸発凝縮器を有し、蓄熱時には凝縮熱による温熱流体を発生し、放熱時には蒸発潜熱による冷熱流体を発生する蒸発凝縮部と、化学蓄熱反応器と蒸発凝縮器とを接続するパイプおよびバルブと、を有するケミカルヒートポンプコンテナであって、化学蓄熱反応器および蒸発凝縮器は、柱状または球状であることを特徴し、2CaSO4またはCa(OH)2のいずれかを用いるケミカルヒートポンプコンテナを提供すること。 【選択図】図1	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
86	メソ細孔性ポリマーの製造方法及びその製造装置	特願2006-213362号	2006/8/4	加納 博文	大学院理学研究科	特許第4815599号	2011/9/9	【課題】より製造が簡便なメソ細孔性ポリマーの製造方法を提供すること。 【解決手段】0.05mm以上10mm未満の距離において配置された一対の基板間において、二つ以上の官能基を有する芳香族低分子と、芳香族低分子の官能基と反応可能であるとともに架橋可能な官能基を有する架橋性低分子と、を反応させるメソ細孔性ポリマーの製造方法とする。また、その一対の基板間の距離は、0.1mm以上5mm以下であるメソ細孔性ポリマーの製造方法とする。 【選択図】図1	
87	有機薄膜トランジスタ及びその製造方法	特願2006-213890号	2006/8/4	中村 雅一	元大学院工学研究院	特許第5326100号	2013/8/2	【課題】より簡便な構成で、より高性能な有機薄膜トランジスタ及びその製造方法、更にはそれを用いた電子機器を提供すること。 【解決手段】ゲート電極と、ゲート電極を覆い、複数の凹部が形成されるゲート絶縁膜と、複数の凹部に配置されるソース電極及びドレイン電極と、ソース電極及びドレイン電極の間の領域に配置され、ソース電極及びドレイン電極に接続される有機半導体層と、ソース電極及び、ドレイン電極、を有する有機薄膜トランジスタとする。 【選択図】図1	
88	ジアミン配位子及びそれを用いた触媒	特願2006-217728号	2006/8/10	荒井 孝義	大学院理学研究科	特許第4654444号	2011/1/7	【課題】新規でより高い不斉収率で目的物を与える触媒及びそれに用いられる配位子を提供すること。 【解決手段】下記式(1)で示される配位子とする。 【化1】 (1) (R1～R5は独立に水素、アルキル基、ハロゲン基、アルコキシ基又は芳香環であり、R1～R5は同一であっても異なっても良い。また、R1、R2は連結して環を形成していても良い。) 【選択図】なし	なし

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
89	ピオロゲンナノ・マイクロワイヤーの製造方法及びピオロゲンナノ・マイクロワイヤー	特願2006-223182号	2006/8/18	星野 勝義	大学院工学研究院	特許第5028612号	2012/7/6	【課題】ピオロゲンナノ・マイクロワイヤー(ナノ・マイクロチューブを含む)の製造方法を提供すること。 【解決手段】ピオロゲン膜に対して電位掃引や電位印加処理などの工程を施すことを含むピオロゲンナノ・マイクロワイヤーの製造方法とする。この場合においてピオロゲンナノ・マイクロワイヤーを形成する工程は、電気化学的手法による電位印加処理であることが好ましく、電位範囲は銀/塩化銀電極に対して-1.5V以上0V以下、電解溶媒は元のピオロゲン膜も生成するナノワイヤーも溶解しない、用いるピオロゲンに依存する適当な疎水性・親水性バランスをもつ溶媒が好ましい。なお、ピオロゲン膜は、ミセル電解法により得ることができる。 【選択図】図1	
90	半導体集積回路	特願2006-266835号	2006/9/29	難波 一輝	大学院工学研究院	特許第5044778号	2012/7/27	【課題】面積の増大及び動作回路の低下を防止することができるエラートレラント方法及びそれを使用可能な半導体集積回路を提供すること。 【解決手段】第一の組み合わせ回路部と、第一の組み合わせ回路部に接続される第一の遅延回路部と、第二の組み合わせ回路部と、第一の組み合わせ回路部、第二の組み合わせ回路部、及び、第一の遅延回路部のそれぞれに接続される多数決回路部とを有する半導体集積回路とする。 【選択図】図1	
91	エラートレラントが可能な半導体集積回路	特願2006-270787号	2006/10/2	難波 一輝	大学院工学研究院	特許第4910141号	2012/1/27	【課題】面積の増大及び動作回路の低下を防止することができるエラートレラント方法及びそれを使用可能な半導体集積回路を提供すること。 【解決手段】第一の組み合わせ回路部と、前記第一の組み合わせ回路部に接続される第一のラッチ回路部及び第二のラッチ回路部と、第二の組み合わせ回路部と、前記第一の組み合わせ回路部に接続される第三のラッチ回路部と、前記第一のラッチ回路部、前記第二のラッチ回路部、及び、前記第三のラッチ回路部に接続される多数決回路部と、を有する半導体集積回路とする。 【選択図】図1	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
92	映像と音声のずれ時間を、高精度かつ簡便に計測する方法および計測装置	特願2007-513550号	2006/10/6	池田 宏明	元大学院工学研究院	特許第4065961号	2008/1/18	デジタル映像信号とデジタル音声信号との間の時間的なずれを、該デジタル映像信号と該デジタル音声信号から、それぞれの周波数領域における時系列データを抽出して、該周波数領域における時系列データの相互相関を統計的に同定して、該デジタル映像信号と該デジタル音声信号のずれ時間を計測することを特徴とするデジタル映像信号とデジタル音声信号との間の時間的なずれを計測する方法により、上記課題を解決する。	<pre> graph TD AA([対象デジタルビデオ]) --> BB[映像データと音声データの分離] BB --> CC[映像データ前処理] BB --> DD[音声データ前処理] CC --> EE[ずれ時間の同定処理] DD --> EE EE --> FF([ずれ時間の計測結果]) </pre> AA... OBJECT DIGITAL VIDEO BB... SEPARATION VIDEO DATA FROM AUDIO DATA CC... VIDEO DATA PRE-PROCESSING DD... AUDIO DATA PRE-PROCESSING EE... TIME DIFFERENCE IDENTIFICATION PROCESSING FF... TIME DIFFERENCE MEASUREMENT RESULT
93	フラレンナノウィスカーの製造方法	特願2006-284835	2006/10/19	落合 勇一	大学院工学研究院	特許第4769945号	2011/7/1	【課題】フラレンナノウィスカーを、従来より、大幅に、短時間での連続製造し、また従来困難であった、均一性、フラレンナノウィスカーの本数、長さの制御を実現する。 【解決手段】炭素フラレン類を飽和に溶解させた第1溶媒を含む溶液と、前記第1溶媒よりフラレンの溶解度が低い第2溶媒で、少なくとも2以上の界面を作り、それぞれの界面において2層分離状態を形成してフラレンナノウィスカーを析出する。さらに、炭素フラレン類を飽和に溶解させた第1溶媒を含む溶液と、前記第1溶媒よりフラレンの溶解度が低い第2溶媒との界面を、該第1溶媒を含む溶液の両端において形成する。 【選択図】図1	

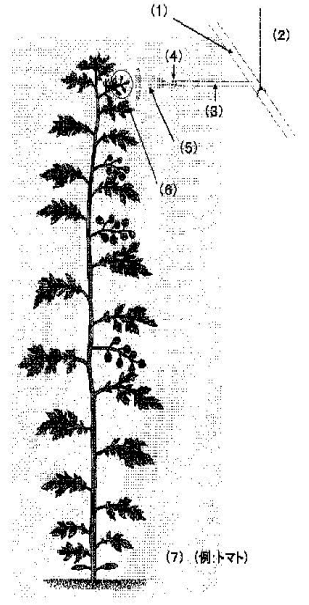
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
94	公開鍵認証プログラム及び電子署名プログラム	特願2006-286073	2006/10/20	多田 充	総合メディア基盤センター	特許第5017645号	2012/6/22	【課題】量子計算機に対して安全であり、認証方式の繰り返しが必要ない公開鍵認証プログラム、更には、量子計算機に対して安全であり、認証方式の並列合成を必要としない電子署名プログラムを提供すること。 【解決手段】コンピュータに、m行n列(m, nは0より大きい整数)の格子基底Bを生成する格子基底生成部と、n列の第一及び第二の係数ベクトルw_1, w_2を生成する係数ベクトル生成部と、前記格子基底B及び前記第一及び第二の係数ベクトルw_1, w_2に基づき1ノルムK_1, K_2を生成し、前記格子基底B及び1ノルムK_1, K_2を公開鍵として記録する公開鍵生成部と、前記第一及び第二の係数ベクトルw_1, w_2の一方を秘密鍵として記録する秘密鍵生成部と、して機能させるための公開鍵認証プログラムとする。 【選択図】図1	
95	カーボンナノ構造体を保持する複合材料及びその製造方法	特願2006-288625号	2006/10/24	金子 克美	元大学院理学研究科	特許第5028614号	2012/7/6	【課題】カーボン粒子等の活用効率をより高めた複合材料及びその製造方法を提供すること。 【解決手段】ポリマーエアロゲルの孔にカーボンナノ構造体を保持した複合材料とする、または、二つ以上の官能基を有する芳香族低分子と、この芳香族低分子の官能基と反応可能であるとともに架橋可能な官能基を有する架橋性低分子と、を反応させて複数の孔が形成されたポリマーエアロゲルを作製し、このポリマーエアロゲルの前記孔にカーボンナノ構造体を保持させる、複合材料の製造方法とする。 【選択図】図1	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
96	ベンゼン誘導体の製造方法及びそれに有用なシクロヘキセン誘導体の製造方法	特願2006-290467	2006/10/25	吉田 和弘	大学院理学研究科	特許第5417597号	2013/11/29	【課題】様々な置換様式をもつベンゼン誘導体を効率的、かつ、簡便に製造する方法を提供すること、更には、これに用いられるシクロヘキセン誘導体を製造する方法を提供することを目的とする。 【解決手段】 下記一般式(1)で表されるジエンを、ルテニウムもしくはモリブデン触媒の存在下で反応させる。 $ \begin{array}{c} R^9 \quad R^7 \quad R^5 \quad L^2 \quad R^3 \\ \diagdown \quad \diagup \quad \diagdown \quad \diagup \quad \diagdown \\ R^{10} \quad C=C \quad C=C \quad C=C \quad C=C \quad R^1 \\ \diagup \quad \diagdown \quad \diagup \quad \diagdown \quad \diagup \\ R^8 \quad R^6 \quad R^4 \quad L^1 \quad R^2 \end{array} \quad (1) $ 【選択図】なし	なし
97	導電性ポリマーの解重合方法及びその再重合方法	特願2006-292551号	2006/10/27	星野 勝義	大学院工学研究院	特許第5109118号	2012/10/19	【課題】新規な解重合、再重合可能な導電性ポリマー材料を製造する方法を提供すること。 【解決手段】導電性ポリマーを形成し、前記導電性ポリマーに対して負の電位を印加する導電性ポリマーの解重合方法とする。負の電位は、電位掃引処理又は定電位印加処理により行われることが好ましい。電位掃引処理は、飽和カロメル参照電極(SCE)を用いた場合、該参照電極に対し、電解電位-2V以上0V未満の範囲内で行うことが好ましく、定電位印加処理は、SCE参照電極を用いた場合、該参照電極に対し、電解電位-2V以上0V未満の範囲内で行われることが好ましい。 【選択図】図4	
98	防汚性物品および防汚性物品の製造方法	特願2006-296926	2006/10/31	斎藤 恭一	大学院工学研究科	特許第5076041号	2012/9/7	【課題】有効成分の脱落による防汚性低下の可能性が低く、優れた防汚性を有する防汚性物品およびその製造方法を提供する。 【解決手段】本発明の防汚性物品は、表面に下記式(1)で示される有機基を有することを特徴とする。 【化1】 $ \begin{array}{c} R^1 \quad R^2 \\ \diagdown \quad \diagup \\ N^+ \\ \\ \text{---} [\text{---}]_m \text{---} C(=O)O^- \end{array} \quad \cdots (1) $ (式中R1、R2は、炭素数1～4のアルキル基を示し、mは0～4の整数を示す。) 本発明の防汚性物品は、表面に式(1)で示される有機基を有するので、タンパク質が吸着安定化しにくく、優れた防汚性を示す。 【選択図】なし	なし

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
99	栽培植物の着果・生育促進方法および着果・生育促進装置	特願2007-513552号	2006/11/20	佐藤 卓	園芸学部	特許第4649622号	2010/12/24	栽培植物の着果に影響する部分を、該栽培植物の生育温度範囲であって、着果適正温度範囲に制御することを特徴とする栽培植物の着果促進方法。特に、栽培植物体の発達中の花房を、着果適正温度範囲に保持するように冷却することを特徴とする栽培植物の着果・促進方法および、栽培植物の着果に影響する部分を、該栽培植物の生育温度範囲または着果適正温度範囲に制御する手段を有することを特徴とする栽培植物の着果促進装置によって、上記課題を解決する。	 (7)... (EXAMPLE: TOMATO)
100	Th1細胞分化促進剤	特願2006-332387号	2006/12/8	中山 俊憲	大学院医学研究院	特許第5246730号	2013/4/19	【課題】BCG菌体中に含まれる、Th1免疫反応を増強し、Th2免疫反応を抑制する活性を有する成分を単離精製し、その特徴を明らかにし、Th1細胞分化促進剤やTh2細胞分化抑制剤として開発すること。 【解決手段】本発明は、BCG菌体由来のリポアラビノマンナン及び／又はリボマンナンを含有する、ヒトTh1細胞分化促進剤及びヒトTh2細胞分化抑制剤を提供する。本発明の剤は、癌等の予防・治療剤として、また花粉症等のアレルギー疾患の治療剤として有用である。 【選択図】なし	なし

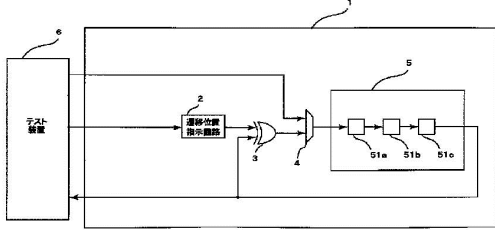
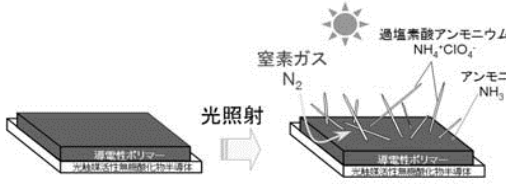
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
101	表示デバイス用粒子、電気泳動表示用液および表示デバイス	特願2006-344700号	2006/12/21	小倉 克之	元大学院工学研究院	特許第5057429号	2012/8/10	【課題】応答速度の速い電気泳動表示デバイスを提供すること。 【解決手段】非光透過性の粒子表面に下記一般式(1) $\left(\begin{array}{c} \text{Y} \quad \text{CN} \\ \diagdown \quad \diagup \\ \text{C}=\text{C} \\ \diagup \quad \diagdown \\ \text{CN} \end{array} \right) \quad \cdots \cdots (1)$ 〔Yは水素原子またはシアノ基〕 で表わされる官能基を少なくとも1個有する化合物を被覆してなる表示デバイス用粒子、同表示デバイス用粒子および分散媒からなる電気泳動表示用液ならびに同電気泳動表示用液を一組の対向電極板間に配置してなる電気泳動表示デバイスである。 【選択図】なし	なし
102	不飽和アルコール製造用触媒およびそれをを用いた不飽和アルコール製造法	特願2007-513553号	2007/1/19	佐藤 智司	大学院工学研究科	特許第4608662号	2010/10/22	不飽和アルコールの製造に適した触媒と、両末端ジオールから不飽和アルコールを副生成物の生成を抑制して、効率よく製造する方法を提供すること。 希土類金属酸化物を触媒100重量部中に10重量部以上含有することを特徴とする触媒とする。また、酸化テルビウム、酸化イットルビウムの少なくともいずれかの希土類金属酸化物を含有する触媒とする。更に希土類金属酸化物および担体物質に担持させた希土類金属酸化物を触媒に用いて不飽和アルコールを製造する方法とする。 【選択図】なし	なし
103	弾性表面波装置	特願2007-513554号	2007/1/26	橋本 研也	大学院工学研究科	特許第4581099号	2010/9/10	SH型SAWに対する影響を抑える一方、レーリー型SAWを効率よく抑制する弾性表面波装置を提供すること。 複数の線状電極を有する一対の反射器と、該一対の反射器の間に配置され、一対の共通電極とこの一対の共通電極のそれぞれに接続される複数の交差電極を有するすだれ変換子と、一対の反射器及びすだれ変換子の少なくともいずれかの上に配置される有機層と、を有する弾性表面波装置とする。 【選択図】図1	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
104	通信用アンテナ	特願2007-513555	2007/1/29	伊藤 公一	フロンティア医工学センター	特許第4500968号	2010/4/30	誘電体基板と、該誘電体基板の一方の面側に、ギャップ部を有して周回するよう形成されるストリップラインと、誘電体基板のストリップラインが形成される面とは反対の面に形成された導電膜と、ストリップラインと導電膜とを電氣的に接続する給電手段と、を有する通信用アンテナとする。また、そのストリップラインは、多角形状であることを特徴とする通信用アンテナとする。 【選択図】図1	
105	積層複合材料を用いるアクチュエータ	特願2007-513556号	2007/2/15	浅沼 博	大学院工学研究科	特許第5103627号	2012/10/12	大変形と高出力の両立を行う積層複合材料を用いたアクチュエータを提供する。そのため、熱膨張率の異なる一対の基板と、該一対の基板との間に挟持される絶縁層とをそれぞれ有する複数の積層複合材料と、該複数の積層複合材料の間に挟持される弾性層と、を有することを特徴とするアクチュエータとする。	
106	ロボットハンドおよびギアシステム	特願2008-500595号	2007/2/16	酒井 悟	大学院工学研究科	特許第5092128号	2012/9/28	Picking及びPlacingにアクチュエータを用いないロボットハンドを提供すること。 そのため、筒状の空間が形成されるシリンダボディと、シリンダボディの筒状の空間に配置される駆体ギア、重力ギア、駆体ギア及び重力ギアに組み合わせられる状態ギアと、軸及びこの軸に固定される板とを有し状態ギアに接続される出力バーと、シリンダボディに回転可能に結合される複数のアームと、複数のアームと回転可能に結合される受動拘束ハンドと、を有するロボットハンドとする。	
107	半導体集積回路及びそのテスト方法	特願2007-513558号	2007/2/28	難波 一輝	大学院工学研究科	特許第4734577号	2011/5/13	【課題】入力された圧縮テストパターンを伸長してテストを行うことが可能な半導体集積回路であって、より圧縮率の高い2パターンテストを行うことができるものを提供する。 テストパターン伸張回路と、テストパターン伸張回路の出力に接続され、複数の出力を有するデマルチプレクサと、デマルチプレクサの一方の出力に接続される記憶装置と、記憶装置の出力及びデマルチプレクサの他方の出力に接続されるマルチプレクサと、マルチプレクサの出力に接続されるテスト回路と、を有する半導体集積回路とする。 【選択図】図1	 8 TESTING APPARATUS 2 TEST PATTERN DECOMPRESSION CIRCUIT 7 TEST RESPONSE COMPRESSION CIRCUIT 4 STORAGE DEVICE

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

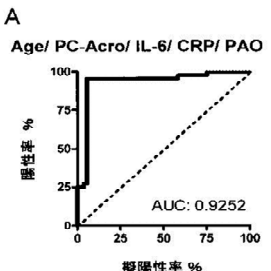
No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
108	流体組成物(届出時:高ダイラタント性を有する流体組成物)	特願2007-049867号	2007/2/28	大坪 泰文	大学院工学研究科	特許第5109122号	2012/10/19	【課題】低せん断速度下において低粘度であり、低せん断速度下における粘度と高せん断速度下における粘度との比がより大きなダイラタント流体組成物を提供すること。 【解決手段】溶媒と、ナノ粒子と、高分子と、を有する流体組成物であり、そのナノ粒子の平均粒径は、3nm以上30nm以下の範囲内にあり、そのナノ粒子を、1vol%以上20vol%以下の範囲内で含み、そのナノ粒子は、シリカ、アルミナ、酸化チタン又は炭酸カルシウムの少なくともいずれかを含むとする。 【選択図】なし	なし
109	半導体集積回路	特願2007-513559号	2007/3/1	難波 一輝	大学院工学研究院	特許第4769951号	2011/7/1	低速なテスト装置を用いた場合であっても高速な2パターンテストが実施可能な半導体集積回路を提供する。遷移位置指示回路と、遷移位置指示回路の出力に接続される排他的論理和ゲートと、排他的論理和ゲートの出力に接続されるマルチプレクサと、マルチプレクサの出力に接続されるテスト対象回路と、を有し、排他的論理和ゲートは、テスト対象回路の出力にも接続されている半導体集積回路とする。 【選択図】図1	 6 TESTING APPARATUS 2 SHIFT POSITION INSTRUCTING CIRCUIT
110	窒素固定化材料及びその製造方法並びに窒素固定化方法	特願2007-058585	2007/3/8	星野 勝義	大学院工学研究院	特許第5401666号	2013/11/8	【課題】窒素固定効率を顕著に向上させた光触媒活性無機酸化物半導体と導電性ポリマー接触複合材料の提供。 【解決手段】光触媒機能を持つ無機酸化物半導体と、溶媒可溶あるいは溶媒に分散可能な導電性ポリマーを接触複合化した複合化光触媒材料に光照射を講じ、空気中の窒素ガスをアンモニウム塩及びアンモニアとして固定化する。光触媒活性無機酸化物半導体に導電性ポリマー材料を接触させる際には、窒素固定化反応を担う酸素欠陥部位の数密度の減少を抑制するために塗布法を用いる。 【選択図】図1	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
111	組立式机上実験方法および装置	特願2007-513561号	2007/3/9	東崎 健一	教育学部	特許第4654448号	2011/1/7	極めて簡単な構成で、卓上程度の広さにあっても、異なる技術分野において、多様な実験目的を達成できる実験装置を提供することを目的とする。音・力・電気信号等の小型発生器と小型検出器を使用する。試料や測定用容器等も小型の物を使用する。基板上への要素部品の脱着とその移動を容易にするためにマグネットを多用している。システムはパソコンと電気信号の入出力装置や小型カメラを通して接続し、いろいろな情報をパソコンに取り込めると共に器具の制御ができるようにする。加えて、制御部は、実験に関する情報を表示する表示装置を備えたコンピュータを用い、または実験に関する情報は、実験情報サーバとインターネット通信回線を介して、表示することも可能である。該実験に関する情報は、ビデオソフトによる「実験手引き」として、実験目的に応じた実験モジュールの選択、実験手順を含み、実験者が、自立的に実験できるので、高い教育効果を期待することができる。 【選択図】図1	AA... PHOTODIODE CONNECTION THROUGH WIRE BB... LEAD WIRE
112	エラートレラント方法及びその方法を実現可能な半導体集積回路	特願2007-513560号	2007/3/16	難波 一輝	大学院工学研究院	特許第4555971号	2010/7/30	論理回路部に有用なソフトエラートレラント方法及びそれを実現する半導体集積回路であって、回路の動作速度低下を抑制しつつ、よりソフトエラー減衰能を高くする。 論理回路部が発生させるソフトエラーを含む信号をバスタージスタによって減衰させ、更にこれをシュミットトリガ回路によってマスクするエラートレラント方法、および、論理回路部と、該論理回路部と電気的に接続されるバスタージスタと、該バスタージスタと電気的に接続されるシュミットトリガ回路と、を有する半導体集積回路とする。 【選択図】図1	2 LOGIC CIRCUIT UNIT 3 SOFTWARE ERROR TOLERANT CIRCUIT UNIT 4 LATCH CIRCUIT

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
113	DGK α 阻害剤を含有する抗癌剤	特願2008-508605	2007/3/29	坂根 郁夫	大学院 理学研究 科	特許第5422204号	2013/11/29	【課題】 新規な抗癌剤を提供すること。 【解決手段】 DGKα阻害剤を有効成分として含有する抗癌剤、癌細胞のアポトーシス誘導剤メラノーマ細胞のアポトーシス誘導剤およびNF-κBの発現の抑制剤が開示される。DGKα阻害剤としては、抗DGKα抗体、DGKα遺伝子に対するアンチセンス・オリゴヌクレオチド、リボザイムおよびsiRNAが挙げられる。また、抗癌剤、癌細胞のアポトーシス誘導剤、メラノーマ細胞のアポトーシス誘導剤またはNF-κBの発現の抑制剤の候補物質を同定する方法であって、試験物質をDGKαを発現する細胞と接触させ、前記試験物質がDGKαの発現および／または機能を阻害するか否かを判定することを含む方法も開示される。	A AA 抗-DGKα BB 抗-DGKα CC 相対強度 (%) 80K 100 27 107 60K 100 31 102 AA CONTROL BB ANTI-DGKα CC RELATIVE INTENSITY (%) B AA アポトーシス (%) BB CONTROL TNF-α - + + - + + siRNA - - 対照 DGKα DGKα DGKγ BB AA APOPTOSIS (%) BB CONTROL
114	イミダゾリン配位子及びそれを用いた触媒	特願2007-120166号	2007/4/27	荒井 孝義	大学院 理学研究 科	特許第5131818号	2012/11/16	【課題】新規でより収率の高い触媒及びそれに用いられる配位子を提供すること。 【解決手段】 下記式(1)で示される配位子とする。 (1) (ここでR1、R2は、水素、アルキル基、フェニル基、若しくはナフチル基である(R1とR2は、結合を介して環を形成しても良い)。R3は、水素、トシル基、メシル基又はアルキル基である。R4は水素、アルキル基、又はフェニル基である。R5は水素、アルキル基、フェニル基、ハロゲン基、ニトロ基、アルコキシ基の少なくともいずれかであり、複数置換されていても良い。) 【選択図】なし	なし

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面																
115	アクロレイン、インターロイキン-6及びCRPの含有量、ポリアミノキシダーゼ活性又はポリアミノキシダーゼの蛋白質量、並びに、被験者の年齢を指標とした脳卒中・無症候性脳梗塞の検出方法	特願2007-132239号	2007/5/18	五十嵐 一衛	元大学院薬学研究院	特許第5339227号	2013/8/16	【課題】より精度の高い脳卒中・無症候性脳梗塞の検出又はスクリーニング方法等を提供すること。 【解決手段】被験者の生体サンプル中における、ポリアミンから生成されるアルデヒド体、インターロイキン-6、及びC反応性蛋白質の含有量、並びに、ポリアミノキシダーゼ活性又はポリアミノキシダーゼの蛋白質量を測定し、得られた測定値と被験者の年齢を指標として脳卒中又は無症候性脳梗塞を検出する方法、該検出方法を実施するためにキット、及び、該キットを含む、脳卒中又は無症候性脳梗塞を検出するためのシステム。 【選択図】図4	A Age/ PC-Acro/ IL-6/ CRP/ PAO  擬陽性率 % B <table><thead><tr><th></th><th>Age/ PC-Acro/ IL-6/ CRP/ PAO</th></tr></thead><tbody><tr><td>カットオフ値</td><td>0.4889</td></tr><tr><td>感度 (%)</td><td>95.5</td></tr><tr><td>特異度 (%)</td><td>94.3</td></tr><tr><td>陽性反応の中度 (%)</td><td>93.3</td></tr><tr><td>陰性反応の中度 (%)</td><td>96.2</td></tr><tr><td>陽性尤度比</td><td>16.86</td></tr><tr><td>陰性尤度比</td><td>0.06</td></tr></tbody></table>		Age/ PC-Acro/ IL-6/ CRP/ PAO	カットオフ値	0.4889	感度 (%)	95.5	特異度 (%)	94.3	陽性反応の中度 (%)	93.3	陰性反応の中度 (%)	96.2	陽性尤度比	16.86	陰性尤度比	0.06
	Age/ PC-Acro/ IL-6/ CRP/ PAO																								
カットオフ値	0.4889																								
感度 (%)	95.5																								
特異度 (%)	94.3																								
陽性反応の中度 (%)	93.3																								
陰性反応の中度 (%)	96.2																								
陽性尤度比	16.86																								
陰性尤度比	0.06																								
116	3次元画像構築装置及び方法並びにプログラム	特願2008-517981号	2007/5/31	五十嵐 辰男	大学院工学研究科	特許第4753104号	2011/6/3	観察対象である管状構造物内面の画像に基づき、疑似的な3次元画像を構築する3次元画像構築装置において、管状構造物の軸方向に延びる光軸を備えた撮像手段により、所定の照明条件下で、管状構造物内での移動に際して取得された管状構造物内面の各フレーム画像の所定範囲に対応した画素の輝度情報を抽出し、管状構造物内面の各フレーム画像の所定範囲に対応する画素の輝度情報を抽出し、輝度情報に基づき、深さ方向における各点と対物レンズとの相対的距離を算出し、管状構造物内面の各フレーム画像の所定範囲に対応する画素を相対的距離を反映しつつ展開配列し、展開配列後の画素を複数フレーム画像分組み合わせることで、管状構造物内面の3次元画像を構築する。	AA スタート #11 ビデオファイル読み込み #12 試験線及び深さ軸の設定 #13 ビデオファイルからの1フレーム画像抽出 #14 試験線上の画素のRGB値取得 #16 各画素の輝度算出 #17 試験線上における深さ方向の相対的距離算出 #18 試験線上の画素の展開配列 #19 全フレーム画像について#14～#17のステップが終了したか? NO YES #20 配列データ組合せによる3次元画像構築 #21 3次元グラフ表示 エンド BB AA START #11 VIDEO FILE READING-INTO #12 SETTING OF TEST LINE AND DEPTH AXIS #13 EXTRACTION OF ONE FRAME FROM VIDEO FILE #14 ACQUISITION OF R, G AND B VALUES OF PIXEL ON TEST LINE #16 CALCULATION OF BRIGHTNESS OF EACH PIXEL #17 CALCULATION OF RELATIVE DISTANCE INFORMATION IN DEPTH DIRECTION ON TEST LINE #18 DEVELOPMENT AND DISPOSITION OF PIXELS ON TEST LINE #19 ARE STEPS #14-#17 FOR IMAGES OF ALL FRAMES FINISHED? #20 FORMING OF THREE-DIMENSIONAL IMAGE BY COMBINATION OF DISPOSED DATA #21 DISPLAY OF THREE-DIMENSIONAL GRAPH BB END																

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
117	有機－無機ハイブリッド複合材料及びその製造方法	特願2008-520606	2007/6/6	荒井 孝義	大学院 理学研究 科	特許第5477617号	2014/2/21	新規でより有用な有機－無機ハイブリッド複合材料を提供する。配位官能基を表層に有するビーズに金属塩と架橋型配位子とを作用させて有機－無機ハイブリッド複合材料を製造する方法とする。また、有機－無機ハイブリッド層を表層に有するビーズを含んでなる有機－無機ハイブリッド複合材料とする。本発明に係る有機－無機ハイブリッド複合材料は、例えば触媒として産業上利用可能性があり、有用である。	
118	微小スポット形成方法および微小スポット形成装置	特願2007-172953	2007/6/29	尾松 孝茂	大学院 工学研究 院	特許第5470629号	2014/2/14	【課題】回折限界を超える微小スポットを形成することができる微小スポット形成方法を提供する。 【解決手段】超短パルスレーザービームを、少なくとも光軸を中心とする半径bの円の外側かつ光軸を中心とする半径a(>b)の円の内側の輪帯領域に対して、光軸を中心とする半径bの円の内側の領域に位相差 π を与える計算機ホログラムを表示させた液晶空間変調器に通過させることにより、遠視野像がベッセルモードとなるレーザービームに変換し、該レーザービームを対物レンズにより2光子吸収特性または多光子吸収特性を有する材料に集光する。 【選択図】図1	
119	酸化コバルト微粒子の製造方法	特願2008-526826号	2007/7/27	星野 勝義	大学院 工学研究 院	特許第5152921号	2012/12/14	新規な酸化コバルト微粒子の製造方法を提供する。コバルトナノ dendライトを焼成する工程を有する酸化コバルト微粒子の製造方法とする。この場合においてコバルトナノ dendライトを焼成する工程は、炉による焼成であることが好ましく、温度は200℃以上1495℃以下、焼成時間は5分以上2時間以下であることが好ましい。なお、コバルトナノ dendライトは、コバルトアンミン錯体の水溶液を電気分解することにより得ることができる。 【選択図】図2	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
120	ファントム及びそれを用いた測定装置	特願2007-202405号	2007/8/2	伊藤 公一	大学院工学研究科	特許第5234897号	2013/4/5	【課題】より人体内での温度上昇分布測定が可能となるファントム及びそれを用いた測定装置を提供すること。 【解決手段】孔が開けられた一対の板と、一対の板の間に充填されるひも形状又は細粒状のファントムと、を充てんしたファントム充填部と、ファントム充填部における一対の板の一方から液体を供給する液体供給部と、ファントム充填部における一対の板の他の一方から排出される液体を回収する液体回収部と、液体の温度又はファントムの温度を測定するための温度測定部を有する測定装置とする。 【選択図】図1	
121	ゾルの製造方法 (届出時:過酸化亜鉛)	特願2007-213144号	2007/8/17	上川 直文	大学院工学研究科	特許第5131824号	2012/11/16	【課題】より蛍光発光特性が改善された酸化亜鉛微粒子を含有するゾルの製造方法を提供すること。 【解決手段】水酸化亜鉛と陽イオンを、2価以上の多価アルコール及びアルキルエーテルの少なくともいずれかを含む溶液に分散し、加熱処理する、酸化亜鉛微粒子を含むゾルの製造方法とする。本発明によると、より蛍光発光特性を改善することが可能な酸化亜鉛微粒子を含有するゾルを提供することができるといった効果がある。 【選択図】図1	
122	胚性幹細胞から肝芽細胞を得る方法	特願2007-277285号	2007/10/25	富澤 稔	元医学部附属病院	特許第5257971号	2013/5/2	【課題】胚性幹細胞から目的の細胞を分化誘導し、かつ胚性幹細胞から分化した目的の細胞を含む細胞群から実質的に目的の細胞からなる細胞培養物を得る方法の提供。 【解決手段】(a)胚性幹細胞から胚様体を形成する工程、及び(b)該胚様体を下記の培地：・該培地は、目的の細胞の成育に必須である1以上の物質を実質的に含まない・該物質は、目的の細胞に存在しかつ該細胞群に含まれる目的の細胞以外の細胞には存在しない代謝酵素の産物である・該培地は、該代謝酵素が該産物を生成するための基質を含む、で培養する工程を含む方法。 【選択図】なし	なし

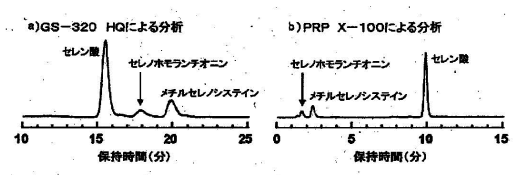
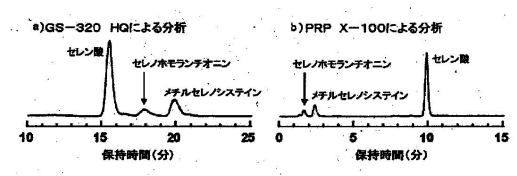
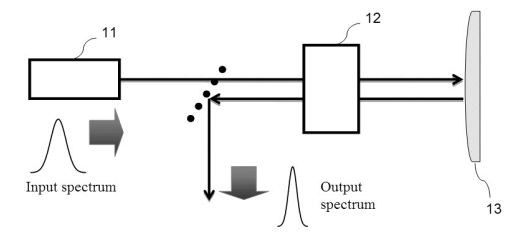
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
123	組立式実験装置を用いた教育システム	特願2007-320536号	2007/12/12	東崎 健一	教育学部	特許第5360792号	2013/9/13	【課題】本発明は、組立式実験装置を用いた効率的、効果的で教育効果の高いシステムであって、学習者・指導者の負担を軽減する教育システムを提供する。 【解決手段】実験に関するコンテンツを格納しネットワークを介して配信するサーバ(メンターサーバ)と、該サーバにネットワークを経由して接続され該コンテンツの配信を受ける端末(学習者端末)と、複数の目的の実験に共通して使用する汎用部品と、該汎用部品と組み合わせて特定の実験目的を構成する専用部品に分割し、該汎用部品と該専用部品を再構成して実験の目的を達成する組立式実験装置とを有し、該組立式実験装置による実験結果を、該学習者端末により、ネットワークを介して、上記メンターサーバへ送信することを特徴とする組立式実験装置を用いた教育システム。 【選択図】 図1	
124	光渦レーザービーム発振方法および光渦レーザービーム発振装置	特願2007-341079号	2007/12/28	尾松 孝茂	大学院工学研究院	特許第5035803号	2012/7/13	【課題】広い波長範囲で、高出力の光渦レーザービームを高い生成効率で発振でき、共振器から直接発振できる光渦レーザービーム発振方法および発振装置を提供する。 【解決手段】固体レーザー媒質と、該固体レーザー媒質を挟む2枚のシリンドリカルレンズを、反射ミラーと出力ミラーとを具備した光共振器内に配置し、励起光源からの励起光によって前記固体レーザー媒質を光励起することによりレーザービームを発振させるレーザービーム発振方法において、前記光励起により前記固体レーザー媒質内に熱レンズを形成させ、かつ該熱レンズと前記2枚のシリンドリカルレンズと前記光共振器とで高次モードに対して一定の共振条件を満足させ、低次モードに対しては該共振条件を満足させないことにより、高次モードのレーザービームの位相を90度変化させつつ、該高次モードのレーザービームを選択的に増幅、発振させる。 【選択図】図1	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
125	微粒子製剤	特願2008-554089	2008/1/18	森部 久仁一	大学院薬学研究院	特許第5515075号	2014/4/11	本発明の目的は、薬剤をより安定にミセル型微粒子として存在させることのできる微粒子製剤、及び微粒子又は微粒子製剤の安定化法を提供することである。本発明は、静脈への注射用薬等としての応用が可能な、アスコルビン酸誘導体、リン脂質誘導体等の界面活性剤、及び、薬剤を含む微粒子製剤、及び、界面活性剤からなる微粒子又は該微粒子に薬剤を含む微粒子製剤に、更にアスコルビン酸誘導体を含有させることから成る、該微粒子又は該微粒子製剤の安定化法に関する。	
126	排尿障害の改善及び/又は治療に使用するレーザーの用途	特願2008-12066	2008/1/22	内山 智之	元医学部附属病院	特許第5284650号	2013/6/7	【課題】治療に痛み・侵襲を伴わず、さらに薬の副作用等がない新たな排尿障害の改善及び/又は治療方法に関する材料を提供すること。 【解決手段】レーザー照射が、尿意の異常、頻尿、尿失禁、膀胱・骨盤部痛、排尿筋過活動などの排尿障害(特に、蓄尿障害)の改善及び/又は治療に適用できることを新たに見出した。さらに、排尿障害の改善及び/又は治療に用いる最適なレーザーの条件を見出した。 【選択図】なし	なし
127	有機色素及び有機半導体エレクトロニクス素子	特願2008-025859	2008/2/6	矢貝 史樹	大学院工学研究科	特許第5424441号	2013/12/6	【課題】会合様式に自由度をもたせた色素を提供する。 【解決手段】可視光吸収スペクトルが400～500nm付近と620nm付近との双方にピークを有する色素を提供する。この色素は、1, 6, 7, 12位が無置換ペリレンビスイミドと単一の置換基を有するシアヌル酸とを混合することによって製造する。この色素は、第1会合体(H会合体)と第2会合体(J会合体)との間で可逆的変換となる。 【選択図】図1	

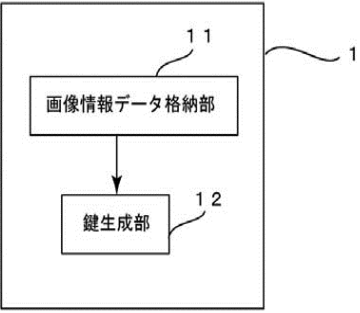
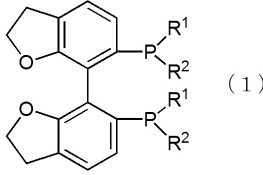
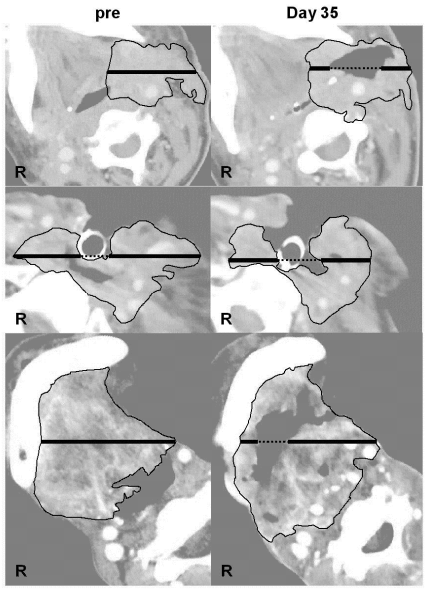
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
128	セレン含有化合物並びにこれを含む植物及び栄養剤	特願2009-509296号	2008/4/3	小椋 康光	大学院薬学研究院	特許第5583401号	2014/7/25	より有用な新規セレン含有化合物並びにこれを含む植物及び栄養剤を提供する。 下記式(1)で示されるセレノホモランチオン若しくはそのエステル又はそれらの塩とする。 $\begin{array}{c} \text{H}_2\text{N} \\ \\ \text{HOOC}-\text{CH}-\text{CH}_2-\text{CH}_2-\text{Se}-\text{CH}_2-\text{CH}-\text{CH}_2-\text{NH}_2 \\ \\ \text{COOH} \end{array} \quad (1)$ 【選択図】図1	 a) GS-320 HQによる分析 b) PRP X-100による分析
129	セレン含有化合物並びにこれを含む植物及び栄養剤	特願2009-509296号	2008/4/3	小椋 康光	大学院薬学研究院	特許第5583401号	2014/7/25	【要約】 【課題】より有用な新規セレン含有化合物並びにこれを含む植物及び栄養剤を提供すること。 【解決手段】下記式(1)で示されるセレノホモランチオン若しくはそのエステル又はそれらの塩とする。 $\begin{array}{c} \text{H}_2\text{N} \\ \\ \text{HOOC}-\text{CH}-\text{CH}_2-\text{CH}_2-\text{Se}-\text{CH}_2-\text{CH}-\text{CH}_2-\text{NH}_2 \\ \\ \text{COOH} \end{array} \quad (1)$ 【選択図】図1	 a) GS-320 HQによる分析 b) PRP X-100による分析
130	光増幅器及びそれを用いた光増幅システム	特願2008-141704	2008/5/29	尾松 孝茂	大学院工学研究院	特許第5733710号	2015/4/24	【課題】従来のピコ秒マスターレーザーとNdドーブバナデート結晶からなる光増幅器とを組み合わせた光増幅システムでは、5ps以下の短いパルス幅を保存したまま増幅して十分に高いレーザー出力を得ることができないという問題があった。 【解決手段】Gd及びYを有するNdイオンドーブバナデート混晶を用いたレーザー増幅器の構成を有する。また、このレーザー増幅器とレーザーとを用いた光増幅システムの構成を有することが好ましい。 【選択図】図1	 Input spectrum Output spectrum
131	精子機能の検査方法	特願2008-143590号	2008/5/30	年森 清隆	大学院医学研究院	特許第5092149号	2012/9/28	【課題】精子機能の評価に有用な、精度が高く且つ簡便で安価な検査方法を提供すること。 【解決手段】精子核DNA断片化を高い精度で検出する方法を見出し、精子機能を簡便に解析するために有用なデータ分類方法および精子機能検査方法を確立し、さらに、精子頭部空胞により精子機能の評価する方法およびその評価のためのデータ解析方法を確立し、これら方法に基づいて、精子核DNA断片化を指標とする精子機能検査方法、精子頭部空胞を指標とする精子機能検査方法、およびこれら検査方法を組み合わせてなる精子機能検査方法、並びに精子核DNA断片化検出方法、精子頭部空胞測定方法、男性不妊症の診断方法、および精子選別方法を提供する。 【選択図】なし	なし

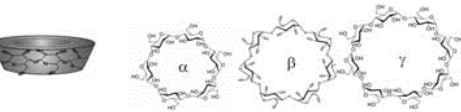
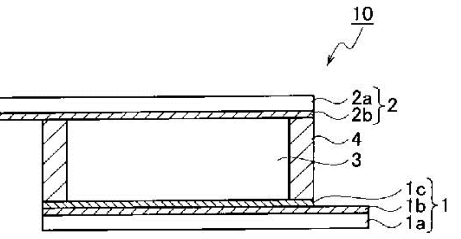
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
132	精子機能の検査方法	特願2012-166543	2008/5/30	年森 清隆	大学院医学研究院	特許第5557218号	2014/6/13	【課題】精子機能の評価に有用な、精度が高く且つ簡便で安価な検査方法を提供すること。 【解決手段】精子核DNA断片化を高い精度で検出する方法を見出し、精子機能を簡便に解析するために有用なデータ分類方法および精子機能検査方法を確立し、さらに、精子頭部空胞により精子機能の評価する方法およびその評価のためのデータ解析方法を確立し、これら方法に基づいて、精子核DNA断片化を指標とする精子機能検査方法、精子頭部空胞を指標とする精子機能検査方法、およびこれら検査方法を組み合わせてなる精子機能検査方法、並びに精子核DNA断片化検出方法、精子頭部空胞測定方法、男性不妊症の診断方法、および精子選別方法を提供する。 【選択図】なし	なし
133	ゲル状人体等価電磁ファントム	特願2008-182056	2008/7/11	伊藤 公一	フロンティア医工学センター	特許第5464396号	2014/1/31	【課題】温度変化による変性を抑え、長期間にわたって適切な電気特性及び粘度を保つことが可能な人体等価電磁ファントムを提供すること。 【解決手段】炭酸カルシウム、タルク、水及びキタンサンガムを含む人体等価電磁ファントムとする。なおこの手段において、増粘剤を含むことは好ましい一態様である。 【選択図】図2	
134	人体等価電磁ファントム	特願2008-182063	2008/7/11	伊藤 公一	フロンティア医工学センター	特許第5464397号	2014/1/31	【課題】より広帯域な周波数帯域に適応可能であって、より実際の人体の電気的特性に近く、より長期安定な人体等価電磁ファントムを提供すること。 【解決手段】第一の手段として、炭酸カルシウム、タルク、寒天、水、メタノール、塩化マグネシウム、及び食用油を含むファントムとする。また、第二の手段として、パラフィン、アルミニウム粉末、ポリエチレン粉末を固化した第一のファントムの周囲に、炭酸カルシウム、タルク、寒天、水、メタノール、塩化マグネシウム、及び食用油を含む第二のファントムを配置してなる人体等価電磁ファントムとする。 【選択図】図6	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
135	画像情報暗号化方法、画像情報暗号化装置、画像暗号化するためのコンピュータプログラム	特願2008-196933号	2008/7/30	吉村 博幸	大学院工学研究科	特許第5115930号	2012/10/26	【課題】より簡便な画像情報暗号化方法、それを用いた画像情報暗号化装置、更にはそれを実現するためのコンピュータプログラムを提供すること。 【解決手段】 画像情報データを格納する画像情報データ格納部と、前記画像情報データに基づき非整数次フーリエ変換を行い、鍵を生成する鍵生成部と、を有する画像情報暗号化装置とする。また、コンピュータに、画像情報データを格納する画像情報データ格納手段と、前記画像情報データに基づき非整数次フーリエ変換を行い、鍵を生成する鍵生成手段と、して機能させるためのコンピュータプログラムとする。 【選択図】図1	
136	ジホスフィン化合物、その遷移金属錯体およびその遷移金属錯体を含む触媒並びにホスフィンオキシド化合物及びジホスフィンオキシド化合物	特願2008-217233	2008/8/26	三野 孝	大学院工学研究科	特許第5454756号	2014/1/17	【課題】より選択性及び触媒活性に優れた触媒及びそれにいられる化合物を提供すること。 【解決手段】下記式(1)で示すジホスフィン化合物とする  【選択図】なし	なし
137	頭頸部癌の治療に用いる、腫瘍栄養動脈に投与される抗癌細胞組成物の使用	特願2009-534404	2008/9/26	堀口 茂俊	大学院医学研究院	特許第5807769号	2015/9/18	【課題】抗腫瘍活性を有する細胞や、抗腫瘍活性を示し得る細胞を活性化する抗原提示細胞を利用する癌の細胞免疫治療において、抗腫瘍活性を有する細胞を腫瘍組織に効率的に送り込み、そして、より強い抗腫瘍反応を惹起させ得る方法、およびより有効な腫瘍縮小効果を得られる方法を提供すること。 【解決手段】NKT細胞リガンドでin vitroにて活性化されたNKT細胞を含有する抗癌細胞組成物を腫瘍栄養動脈に投与し、かつ、NKT細胞リガンドで処理された抗原提示細胞を含有するNKT細胞刺激剤を上気道粘膜下に投与することを特徴とする、頭頸部癌の治療方法、頭頸部の抗癌治療における、該抗癌細胞組成物および該NKT細胞刺激剤の使用、該抗癌細胞組成物と該NKT細胞刺激剤とのキット、並びに該抗癌細胞組成物。 【選択図】図3	

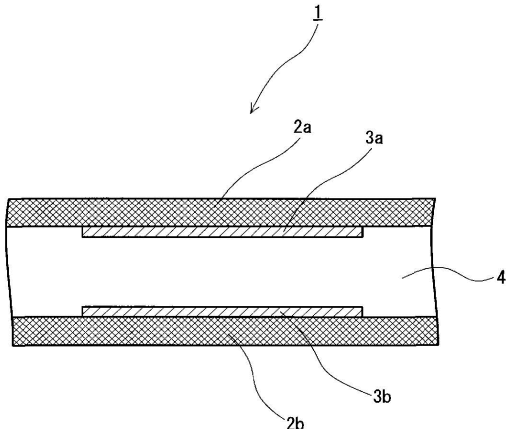
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面																				
138	薬剤及びその製造方法	特願2009-019182	2009/1/30	東 顕二郎	大学院薬学研究院	特許第5408703号	2013/11/15	【課題】ポリマーを包接したCDに対し様々な有効成分を含有することが可能であって、作製が容易で、さまざまな薬物に応用可能な薬剤及びその製造方法を提供すること。 【解決手段】シクロデキストリン誘導体と、シクロデキストリン誘導体を貫通する鎖状高分子と、シクロデキストリン誘導体に外部包接される有効成分と、を含む薬剤とする。また、シクロデキストリン誘導体に鎖状高分子を貫通させる工程、シクロデキストリン誘導体に有効成分を外部包接させる工程と、を有する薬剤の製造方法とする。 【選択図】図1	 <table><tr><th></th><th>α-CD</th><th>β-CD</th><th>γ-CD</th></tr><tr><td>MW</td><td>972</td><td>1135</td><td>1297</td></tr><tr><td>Water Solubility(25 °C)</td><td>14.5 g/100 ml</td><td>1.85 g/100 ml</td><td>23.2 g/100 ml</td></tr><tr><td>Glucose Monomers</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td></tr><tr><td>Internal Cavity Diameter</td><td>4.7-5.3 Å</td><td>6.0-6.5 Å</td><td>7.5-8.3 Å</td></tr></table>		α-CD	β-CD	γ-CD	MW	972	1135	1297	Water Solubility(25 °C)	14.5 g/100 ml	1.85 g/100 ml	23.2 g/100 ml	Glucose Monomers	6	7	8	Internal Cavity Diameter	4.7-5.3 Å	6.0-6.5 Å	7.5-8.3 Å
	α-CD	β-CD	γ-CD																										
MW	972	1135	1297																										
Water Solubility(25 °C)	14.5 g/100 ml	1.85 g/100 ml	23.2 g/100 ml																										
Glucose Monomers	6	7	8																										
Internal Cavity Diameter	4.7-5.3 Å	6.0-6.5 Å	7.5-8.3 Å																										
139	表示素子、それをを用いた光学シャッター及び表示素子装置	特願2009-019067	2009/1/30	小林 範久	大学院工学研究院	特許第5403506号	2013/11/8	【課題】電気化学的な酸化又は還元により透明及び黒色に変化することを特徴とする表示素子を提供する。 【解決手段】 第一の透明電極と、該第一の透明電極と対をなす第二の透明電極と、前記第一の透明電極及び前記第二の透明電極の間に配置された電解質層と、を有する表示素子であって、前記電解質層は、電気化学的な還元又は酸化とこれに伴う析出又は溶解とによって発消色する金属イオンを含む、電解質溶液又は固体電解質であり、前記金属イオンは、銀イオン、タングステニウム及びビスマスイオンからなる群から選ばれるものであり、第一の透明電極は、最外層に酸化ニッケル層を有する表示素子とする。 【選択図】 図1																					
140	滑膜細胞および細切軟骨片の軟骨修復における使用	特願2009-040841	2009/2/24	中川 晃一	元大学院医学研究院	特許第5373427号	2013/9/27	【課題】軟骨欠損の処置に適用される自家培養軟骨細胞移植術の問題点を解消し、該処置に有効な組成物および方法を提供すること。 【解決手段】滑膜細胞および細切軟骨片を含有する組成物の軟骨修復処置における使用、滑膜細胞および細切軟骨片を含有する軟骨修復用組成物、並びに次の工程(1)から(3)を含む軟骨修復のための処置方法：(1)軟骨修復処置を要する対象から採取された滑膜より滑膜細胞を調製する工程；(2)軟骨修復処置を要する対象から採取された軟骨を細切する工程；および(3)前記調製された滑膜細胞および前記細切軟骨片を同時に、軟骨修復処置を要する部位に充填する工程。 【選択図】なし	なし																				

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
141	光渦発生装置と方法	特願2009-042720	2009/2/25	尾松 孝茂	大学院工学研究院	特許第5254077号	2013/4/26	【課題】らせん状位相プレート、フォーク状ホログラム、空間光変調器等の特別な素子を用いることなく、高出力の光渦を簡便に発生させることができる光渦発生装置と方法を提供する。 【解決手段】ラージモードエアファイバー10と、増幅する第1波長のシードレーザー光13を出力するシードレーザー装置12と、ラージモードエアファイバーの一端側からシードレーザー光13をその光軸をコア10aの中心からずらして入射する入射光学系14と、シードレーザー光を励起する第2波長の励起レーザー光17を出力するポンプレーザー装置16と、ラージモードエアファイバーの他端側から励起レーザー光を他端のクラッド10bから入射しかつ他端のコア10aから出射するシードレーザー光13(光渦)を外部に出力する出射光学系18とを備える。 【選択図】図2	
142	シスプラチン効果増強剤及び抗癌剤キット	特願2009-44748	2009/2/26	丹沢 秀樹	大学院医学研究院	特許第5467259号	2014/2/7	【課題】シスプラチン耐性の癌腫または症例において、シスプラチン投与による治療効果を増強させる薬剤の提供。 【解決手段】臨床的にシスプラチン耐性の癌腫または症例、あるいはシスプラチンの投与を行う全ての症例に対して、ホスホジエステラーゼIIIb(PDE3B)阻害剤を併用投与し、シスプラチンの作用を増強させる。PDE3B阻害剤としては、シロスタゾール(CILOSTAZOL)が例示される。 【選択図】なし	なし
143	EM級増幅器及びこれを備えた機器	特願2009-048557号	2009/3/2	関屋 大雄	大学院工学研究院	特許第5207390号	2013/3/1	【課題】より省電力、小面積を達成し、より製造コストの安い増幅器及びこれを用いた機器を提供すること。 【解決手段】EM級増幅器であって、主回路は、第一の定電圧源に接続される入力端子と、これに接続される第一のインダクタと、これにドレイン領域が接続される第一のスイッチング素子と、第一のインダクタに接続され、第一のスイッチング素子と並列に接続される第一のキャパシタと、第一のインダクタに接続される第一のバンドパスフィルタと、これに接続され負荷に接続するための出力端子と、第一のバンドパスフィルタに接続される第二のキャパシタと、これに接続される第三のキャパシタと、入力端子に接続される第一の抵抗と、これに接続される第二の抵抗と、第二のキャパシタと前記第三のキャパシタを接続する配線、及び、第一の抵抗と第二の抵抗と第二のインダクタを接続する配線、に接続される第二のインダクタを有する。 【選択図】図1	

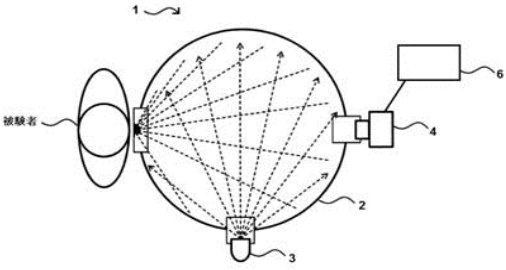
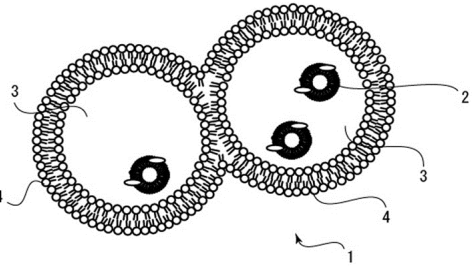
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
144	エレクトロクロミック表示素子	特願2009-60069	2009/3/12	星野 勝義	大学院 工学研究 院	特許第5273666号	2013/5/24	【課題】本発明の目的は、光散乱材料を併用したり、電極表面を加工することなく、簡便な構成で、均一な酸化還元反応が可能なエレクトロクロミック表示素子を提供することである。 【解決手段】本発明は、一対の電極と、前記一対の電極間に挟持された媒体層を有するエレクトロクロミック表示素子であって、前記一対の電極の少なくとも一方が透明電極であり、前記媒体層が特定のビオロゲン化合物、特定の支持電解質および溶媒を含み、前記電極間に電圧を印加することにより、(i)前記透明電極上に着色物質が析出して発色する領域および前記着色物質が溶解して消色する領域が、飽和カロメル電極に対して-1.0V以上1.0V未満の範囲にあり、かつ(ii)前記透明電極上に結晶が析出して白色層が形成される領域が、飽和カロメル電極に対して1.0V以上の範囲にあることを特徴とする。 【選択図】図1	
145	真菌の形質転換のためのプラスミドベクター、pCryptoRNAi	特願2009-075678	2009/3/26	川本 進	真菌医学 研究セン ター	特許第5525172号	2014/4/18	【課題】RNAi技法に用いられる病原性真菌の分子的研究を可能にするようなベクターを提供する。 【解決手段】真菌での第1のシグナルタンパク質の発現を制御することができる第1のプロモーターに作動可能に連結する第1のシグナルタンパク質配列と、第2のシグナルタンパク質の発現を制御することができる第2のプロモーターに作動可能に連結する第2のシグナルタンパク質配列と、第1のシグナルタンパク質配列3'非翻訳領域に位置する目的遺伝子のクローニングサイトとを有するプラスミドであって、目的遺伝子がクローニングサイトに挿入されると、該プラスミドが、第1のシグナルタンパク質と該目的遺伝子の両方をコードするmRNAを転写することができるプラスミドからなる。 【選択図】なし	なし

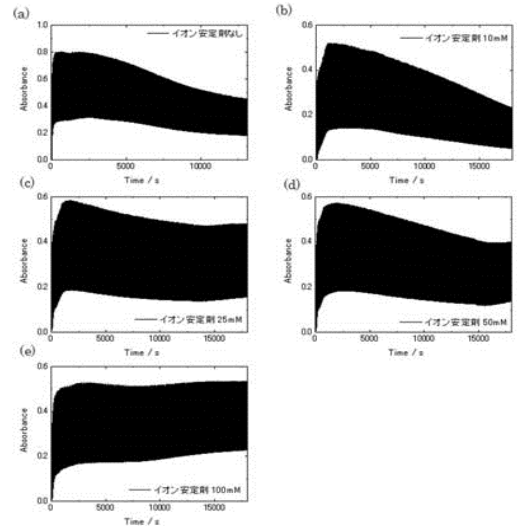
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
146	3次元画像生成装置、3次元画像生成方法、及びプログラム	特願2009-103217号	2009/4/21	五十嵐 辰男	フロンティア医工学センター	特許第5354494号	2013/9/6	【課題】解像度が高く且つ色情報を備えた有用性の高い3次元画像(例えば、仮想内視鏡画像)を生成する3次元画像生成装置を提供する。 【解決手段】被写体を撮像した2次元画像内の複数の画素のそれぞれについて、輝度情報に基づいて第3の座標軸上の座標を算出して3次元座標を求め(S304)、複数の画素の3次元座標に基づいて1以上の三角形で構成される3次元モデルを生成し(S305)、その3次元モデルに2次元画像のテクスチャを貼り付けることにより(S306)、2次元画像から3次元画像を生成する。 【選択図】図3	
147	有機透明導電体、有機透明導電体形成用インク及びそれらの製造方法	特願2009-107096	2009/4/24	星野 勝義	大学院工学研究院	特許第5688693号	2015/2/6	【課題】 良好な透明性と導電性を有し、かつ作製が容易な、透明導電体及び透明導電体形成用インクを提供する。 【解決手段】 下記一般式で表される少なくとも1種のN-アルキルカルバゾールを重合させて得られるポリ(N-アルキルカルバゾール)と、金属とを接触させる工程を含む透明導電体の製造方法。 $\text{C}_n\text{H}_{2n+1}$ N (式中、nは1以上の整数であり、アルキルの少なくとも1つの水素は、ヒドロキシ、カルボキシル、スルホ及びアミノから選択される少なくとも1種の基で置き換えられてもよい。) 【選択図】図3	

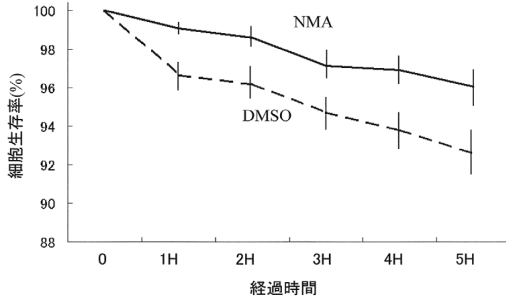
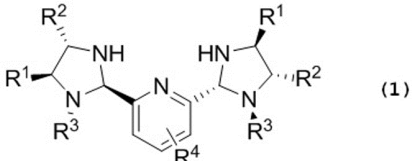
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
148	放射性標識薬剤	特願2011-511216	2009/4/28	荒野 泰	大学院薬学研究院	特許第5604680号	2014/9/5	【課題】標的に効率的に集積し、かつ、生体内での高い安定性を有する放射性標識薬剤、および該放射性標識薬剤を使用する診断および治療の提供。 【解決手段】標的分子と結合する化合物と結合させた配位子であって金属(例えばテクネチウムやレニウム)と多配位の錯体を形成する配位子と該金属の放射性核種とから形成される錯体を含み、標的部位への集積性が増加した放射性標識薬剤;診断用または治療用の該放射性標識薬剤;前記放射性標識薬剤の調製用配位子;前記配位子を含む薬剤と金属放射性核種を含む薬剤とを、別々の包装単位として含んでなるキット;および、前記放射性標識薬剤を使用することを特徴とする、放射性標識薬剤の標的部位への集積を増加させる方法。 【選択図】なし	なし
149	舌色撮影システム及び舌固定補助装置	特願2009-110623	2009/4/30	中口 俊哉	フロンティア医工学センター	特許第5641174号	2014/11/7	【課題】舌の光沢成分を十分に除去し、舌の動きを十分に抑制することのできる舌色撮影システム及び舌固定補助装置を提供すること。 【解決手段】第一の手段として、複数の開口部が形成された積分球と、積分球の複数の開口部のいずれかから前記積分球に光を照射する光源装置と、積分球の複数の開口部のいずれかから放出される光を撮影するカメラ装置と、を有する舌色撮影システムとする。第二の手段として、舌固定補助装置と、第一の偏光板を備えた光源装置と、第二の偏光板を備えたカメラ装置と、を有し、第一の偏光板の偏光透過容易軸と第二の偏光板の偏光透過容易軸とが直交している舌色撮影システムとする。 【選択図】図1	
150	蛍光組織マーカー及びその製造方法	特願2009-119338	2009/5/15	豊田 太郎	元大学院工学研究院	特許第5765695号	2015/6/26	【課題】臓器外側からでも位置の認識が可能であり、長時間局所的に留まることが可能な蛍光組織マーカー及びその製造方法を提供すること。 【解決手段】まず、リン脂質と近赤外蛍光色素が複合して形成されたベシクルを親水性溶媒に内包させ、乳化剤により複数のカプセルを形成、凝集させたベシクルクラスターを有する蛍光組織マーカーとする。または、第一の親水性溶媒に近赤外蛍光色素とリン脂質を加えて攪拌し、疎水性溶媒に、前記第一の親水性溶媒と乳化剤を加えて懸濁液を形成し、前記懸濁液と第二の親水性溶媒とを用いて遠心分離する、蛍光組織マーカーの製造方法とする。 【選択図】図1	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
151	テトラヒドロピリジン誘導体及びその製造方法	特願2009-152586	2009/6/26	荒井 孝義	大学院 理学研究 科	特許第5471069号	2014/2/14	【課題】テトラヒドロピリジン誘導体を合成する手法を確立すること。 【解決手段】 下記式(3)で示されるテトラヒドロピリジン誘導体。  (3) (ここでR2は、アリール基であり、R3はアリール基又はアルキル基である。) 【選択図】 なし	なし
152	エレクトロクロミック材料及びそれを用いたリライタブル表示装置。	特願2009-171032	2009/7/22	小林 範久	大学院 工学研究 院	特許第5544563号	2014/5/23	【課題】従来よりも素子の耐久性が向上し、これにより発色特性の持続性に優れたエレクトロクロミック材料、及びこの材料を用いたカラーリライタブル表示装置をてきようすること。 【解決手段】 エレクトロクロミック化合物と、対極反応剤と、イオン安定化剤とを有するエレクトロクロミック材料であって、イオン安定化剤は、1, 2-ジフェノキシタン(DPE)、テトラメチルベンジジン(TMB)、トライトンX(Triton-X)、テトラメチルパラフェニレンジアミン(TMPD)のいずれかを含む。 【選択図】図2	
153	酸化化ポリエチレンイミンを用いる細胞への核酸導入方法	特願2009-174234	2009/7/27	山口 直人	大学院薬 学研究院	特許第5697123号	2015/2/20	【課題】ポリエチレンイミン(PEI)のトランスフェクション効率の増加、およびその毒性の低減を達成する方法を見出し、トランスフェクション効率が高いPEIを提供し、さらにそのようなPEIを使用する効率的な細胞への核酸導入方法を提供すること。 【解決手段】酸化化PEIと核酸とを酸性条件下で混合し、得られた混合物で細胞を処理することを特徴とする細胞への核酸導入方法、並びに、酸化化PEI溶液からなる細胞への核酸導入試薬および該溶液を含む試薬キットを提供する。 【選択図】なし	なし

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
154	NKT細胞リガンドをパルスした抗原提示細胞による抗腫瘍療法の有効性の予測方法	特願2009-200911	2009/8/31	本橋 新一郎	大学院医学研究院	特許第5674082号	2015/1/9	【課題】NKT細胞リガンドをパルスした抗原提示細胞による抗腫瘍療法の有効性を予測する方法を提供すること。 【解決手段】対象患者へのNKT細胞リガンドをパルスした抗原提示細胞による抗腫瘍療法の適用による、 (a)対象患者から単離されたT細胞におけるLTB4 DHの発現レベル、 (b)対象患者から単離されたNK細胞におけるDP YSL3の発現レベル、及び (c)対象患者から単離されたNK細胞におけるC1 3orf15の発現レベル からなる群から選択される少なくとも1つの発現レベルの変化を測定することにより、NKT細胞リガンドをパルスした抗原提示細胞による抗腫瘍療法の有効性を予測することが可能となる。 【選択図】なし	なし
155	血液細胞の凍結保存剤	特願2009-270830	2009/11/27	大須賀 敏明	フロンティア工医学センター	特許第5773347号	2015/7/10	【課題】 血液細胞の凍結保存剤として、DMSOの使用に伴う副作用を回避しうる凍結保存剤を提供すること。 【解決手段】 N-メチルアセトアミドと、デキストランおよび／またはヒドロキシエチルスターチを含む血液細胞の凍結保存剤が開示される。好ましくは、凍結保存剤中のN-メチルアセトアミドの濃度は3～8%である。また好ましくは、血液細胞は造血幹細胞である。さらに、血液細胞を本発明の凍結保存剤とともに凍結することを含む、血液細胞の凍結保存方法も提供される。本発明の凍結保存剤は、血液細胞の凍結保存に有効であり、増殖能力を維持したまま細胞を半永久的に保存し、融解後に高い生存率を得ることができる。 【選択図】図2	
156	ビスイミダゾリジン配位子の製造方法とそれを用いた触媒。	特願2009-270898	2009/11/29	荒井 孝義	大学院理学研究科	特許第5574320号	2014/7/11	【課題】C2対称なビスイミダゾリジンを配位子とすることで、より複雑な配位場の構築を目指し、有用な触媒的不斉合成を実現する。 【解決手段】下記式(1)にて示される配位子とする。  【選択図】なし	なし

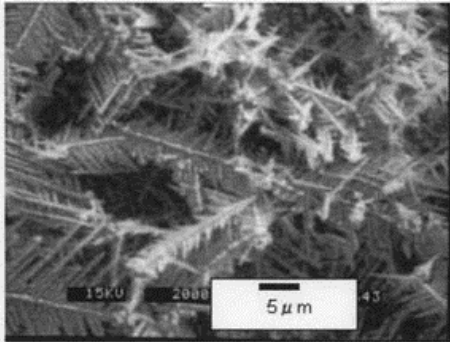
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
157	表面再現方法及び表面再現プログラム	特願2014-061451	2009/12/13	加藤 顕	大学院 園芸学研 究科	特許第5911114号	2016/4/8	【課題】建物や樹木といった実際の地上の構造物を対象としても正確に表面を再現することのできる表面再現方法及び表面再生プログラムを提供する。 【解決手段】複数の点からなる点群を複数の層に分割しS2、複数の層における複数の点に対し輪郭抽出処理を行いS3、輪郭抽出処理により抽出された複数の層における複数の点からなる点群を結合しS4、表面再現処理を行うS5。 【選択図】図1	
158	表面再現方法及び表面再現プログラム	特願2009-282331	2009/12/13	加藤 顕	大学院 園芸学研 究科	特許第5522367号	2014/4/18	【課題】建物や樹木といった実際の地上の構造物を対象としても正確に表面を再現することのできる表面再現方法及び表面再生プログラムを提供する。 【解決手段】複数の点からなる点群を複数の層に分割し、複数の層における複数の点に対し輪郭抽出処理を行い、輪郭抽出処理により抽出された複数の層における複数の点からなる点群を結合し、表面再現処理を行う、表面再現方法とする。また、コンピュータに、複数の点からなる点群を複数の層に分割し、複数の層における複数の点に対し輪郭抽出処理を行い、輪郭抽出処理により抽出された複数の層における複数の点からなる点群を結合し、表面再現処理を行わせるための表面再現プログラムとする。 【選択図】図6	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
159	鉄鋼スラグを原料とする ハイドロ複合体及びその 製造方法	特願2010-547534	2010/1/22	和嶋 隆昌	大学院 工学研究 科	特許第5610442号	2014/9/12	鉄鋼スラグに含まれる成分全体を有効利用することで、スラグ廃棄分を減らしつつ、ハイドロ複合体を製造可能な新規製造方法を提供する。鉄鋼スラグを含有する原料に、固体状塩基を添加・混合し、混合物を作製する、混合物作製工程と、混合物作製工程で得られた混合物を、100℃以上1000℃以下の温度で溶融させ溶融屑を作製する、溶融屑作製工程と、溶融屑作製工程で得られた溶融屑を、溶媒に添加して溶液とし、当該溶液からハイドロ複合体を生成させる、ハイドロ複合体生成工程と、を有する製造方法とする。	【図1】 AA IRON AND STEEL SLAG BB SOLID BASE S1 MIXTURE MANUFACTURING STEP S2 MOLTEN CHIPS MANUFACTURING STEP S3 HYDRO COMPOSITE PRODUCTION STEP S13 HYDROCALUMITE S23 HYDROGARNET S33 ZEOLITE
160	更年期障害の検査方法	特願2010-29562	2010/2/12	並木 隆雄	大学院医 学研究院	特許第5376376号	2013/10/4	【課題】更年期障害の自覚症状は、多様性で変化しやすく、客観的な検査方法が求められている。 【解決手段】各種ホルモンの中で抗ミュー管ホルモンの血清中濃度が更年期障害の客観的な指標となることを見出し本発明を完成した。本発明は、抗ミュー管ホルモンの血清中濃度を指標とする更年期障害の検査方法に関するものである。また、更年期症状スコアが特定の値以上である被験者の、血清中の抗ミュー管ホルモン濃度が基準値以下である場合、更年期障害と判定する更年期障害の検査方法に関する。 【選択図】図4	(A) AMH AMHの血清中濃度 (pmol/L) 患者 コントロール (B) FSH FSHの血清中濃度 (mIU/mL) 患者 コントロール (C) E2 E2の血清中濃度 (pg/mL) 患者 コントロール *P<0.05

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

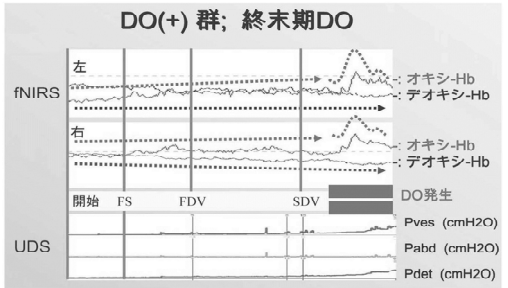
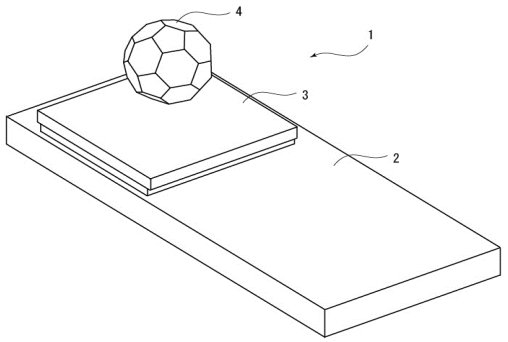
No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
161	成長因子に誘発されるユークロマチン化(euchromatinization)に必要な、SRC-ファミリーチロシンキナーゼの核局在	特願2010-032914	2010/2/17	山口 直人	大学院薬学研究院	特許第5733734号	2015/4/24	【課題】核のピクセルイメージングを使用してクロマチン構造変化を定量的に評価する方法を提供する。 【解決手段】核のピクセルイメージングは、核酸染色剤で処理した1つ又は複数の細胞の核の、1つ又は複数の画像をキャプチャし、染色強度は、その強度を定量する。1ピクセル当たりの染色強度の平均及び／又は標準偏差を、クロマチン凝縮レベル又はクロマチン構造変化を判定するために使用する。 【選択図】なし	なし
162	人工コラーゲンをを用いた軟骨培養用基材及び該基材を用いた軟骨再生治療方法	特願2011-511269	2010/2/23	鈴木 昌彦	フロンティア医工学センター	特許第5704344号	2015/3/6	本発明の課題は、安全性が高く、そして軟骨細胞の増殖促進効果を有する軟骨培養用基材及び軟骨再生治療方法を提供することである。 詳しくは、人工コラーゲン、特に人工コラーゲン水溶液を含む軟骨培養用基材が、軟骨細胞の増殖促進効果を有することを見出し、さらに該基材を軟骨欠損部位又は軟骨障害部位の周辺に関節内注入することによる軟骨再生効果を見出し、本発明を完成した。	なし
163	銅ナノ構造体の製造方法	特願2010-062120	2010/3/18	星野 勝義	大学院工学研究院	特許第5574158号	2014/7/11	【課題】ナノサイズの銅材料を製造するための、簡便な方法を提供することを課題とする。 【解決手段】銅アンミン錯体水溶液から銅ナノ構造体を製造する方法であって、前記銅アンミン錯体水溶液を、飽和カロメル参照電極に対し電解電位-1.2V~-3.0Vで電気分解することで陰極上に銅ナノ構造体を析出させることで、銅ナノ構造体を製造する。 【選択図】図1	

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
164	受精を阻害する化合物を同定する方法	特願2012-516883	2010/3/31	年森 清隆	大学院医学研究院	特許第6108338号	2017/3/17	受精を阻害する化合物を同定する方法が提供される。 本方法は、エクアトリンタンパク質と結合する化合物を選択することを含み得る。長鎖形態及び短鎖形態の2種類のエクアトリンタンパク質が、精巣中に存在し得る。 138位のO-グリコシル化スレオニン残基を含む101位～146位のマウスエクアトリンのアミノ酸配列は、受精を阻害する効果を有する抗エクアトリン抗体MN9により認識されるエピトープを含有する。加えて、MN9抗体はヒト精子とも結合する。このエピトープと結合する化合物は、受精を阻害することができる。両方の形態のマウスエクアトリン、及びヒトエクアトリンを使用して、受精を阻害する化合物を同定することができる。	A B IP: MN9
165	腫瘍特異性を有するリポソーム	特願2010-086071	2010/4/2	齋藤 謙悟	大学院医学研究院	特許第5817053号	2015/10/9	【課題】腫瘍細胞に特異的かつ効率的に吸着・摂取されるようなドラッグデリバリーシステム(DDS)製剤を提供すること。 【解決手段】シンドビスウイルスまたはその一部分を構成成分に含むリポソームからなる、腫瘍細胞内への薬物導入用ベクター、抗腫瘍効果を示す薬物が封入された該薬物導入用ベクターを含有する癌治療用組成物、標識物質が封入された該薬物導入用ベクターを含有する腫瘍細胞標識用組成物、抗腫瘍効果を示す薬物が封入された該薬物導入用ベクターを投与することを特徴とする癌治療方法、および標識物質が封入された該薬物導入用ベクターを投与することを特徴とする腫瘍細胞標識化方法。 【選択図】図3	

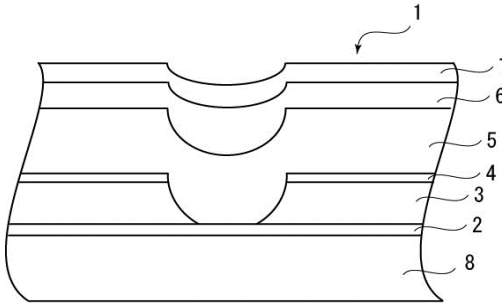
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
166	舌表面質感撮影システム	特願2010-114335	2010/5/18	中口 俊哉	フロンティア工学センター	特許第5454791号	2014/1/17	【課題】舌表面の光沢成分を十分に除去した色彩と、舌表面の光沢成分を分離して、それらの時間的変化を撮影することのできる舌表面質感撮影システムを提供すること。 【解決手段】複数の開口部が形成された積分球と、積分球の複数の開口部のいずれかから被験者に直接光が照射されないよう積分球に光を照射する拡散用光源装置と、積分球の複数の開口部のいずれかから被験者に直接光が当たり、舌表面に当たった鏡面反射光がカメラに入射するように光を照射する光沢用光源装置と、積分球の複数の開口部のいずれかから放出される光を撮影するカメラ装置と、光沢用光源装置とカメラ装置に接続され、光沢用光源装置の点灯・消灯を制御し、かつカメラ装置の撮影トリガーを制御し、かつカメラ装置が撮影した画像データを解析処理する情報処理部と、を有する舌表面質感撮影システムとする。 【選択図】図2	
167	劇症型炎症の予防および／または治療剤	特願2010-159031	2010/7/13	鈴木 和男	元大学院医学研究院	特許第5733601号	2015/4/24	【課題】劇症性炎症(特に、インフルエンザ感染に起因するもの)を予防および／または治療するための有効な手段を提供する。 【解決手段】本発明によれば、スピラマイシンもしくはジョサマイシン(ロイコマイシンA3)、またはこれらの製薬上許容されうる塩を有効成分として含有する劇症型炎症の予防および／または治療剤が提供される。 【選択図】図1	
168	ピロリジン誘導体及びその製造方法	特願2010-188941	2010/8/25	荒井 孝義	大学院理学研究科	特許第5569938号	2014/7/4	【課題】ピロリジン誘導体を合成する手法を確立すること。 【解決手段】下記式(2)で示されるピロリジン誘導体とする。 (2) (ここでR1は、アリール基又はアルキル基、R2はアリール基、R3はアルキル基又はアリール基である。) 【選択図】なし	なし

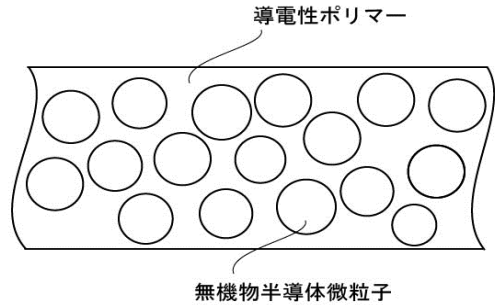
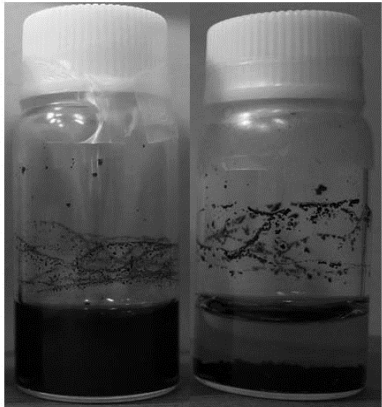
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
169	排尿障害の診断・病態解析に対する近赤外分析装置の用途	特願2010-189954	2010/8/26	内山 智之	元医学部 附属病院	特許第5843185号	2015/11/27	【課題】排尿障害の診断・病態解析において、非侵襲、非拘束かつ簡便な手法により、下部尿路の機能調節をより上位で支配している神経系の活動を測定することで、個々の症例で常に変化している排尿機能の状態をリアルタイムに把握するほか、中枢神経レベルでの病態をリアルタイムに解析しうる手段を提供する。 【解決手段】被験者の脳表層における血液中のヘモグロビン濃度パラメータを測定するための近赤外分析装置の使用方法が提供され、測定された前記ヘモグロビン濃度パラメータは、前記被験者が排尿障害の患者またはその高リスク者であるか否かの判定に用いられる。また、前記ヘモグロビン濃度パラメータは、例えば、酸素化ヘモグロビン濃度変化、脱酸素化ヘモグロビン濃度変化および総ヘモグロビン濃度変化を含む。そして、前記ヘモグロビン濃度パラメータの増減パターン等により、被験者は排尿障害の患者またはその高リスク者であるとの判定がなされる。 【選択図】図5	
170	乳酸菌および抗原物質を含み、口腔内に投与されることを特徴とする抗アレルギー剤	特願2010-190842	2010/8/27	稲嶺 絢子	大学院医 学研究院	特許第6019492号	2016/10/14	【課題】患者の負担が少なく、安全に行えるアレルギー疾患の発症予防および/または症状改善のための有用な薬剤および方法を提供すること。 【解決手段】乳酸菌および抗原物質を含み、口腔内に投与されることを特徴とする抗アレルギー剤、乳酸菌および抗原物質を含む組成物を口腔内に投与することを特徴とするアレルギー疾患治療方法、並びに乳酸菌および抗原物質の、抗アレルギー剤の製造における使用を提供し、より詳しくは、乳酸菌として抗原提示細胞上の抑制刺激分子PD-L2発現を増強する機能を有する乳酸菌、例えばLactobacillus paracasei W3110を使用する。 【選択図】なし	なし
171	表示装置及び表示装置用ホログラムプレート	特願2010-193939	2010/8/31	伊藤 智義	大学院 工学研究 科	特許第5725468号	2015/4/10	【課題】動的な表示を行うことができる表示装置および表示装置用ホログラムプレートを提供する。 【解決手段】表示装置において、複数の状態の発光が可能な光源装置と、光源装置の発光状態に対応した互いに異なる複数の光回折構造が記録されたホログラムプレートと、を有する。この場合において、光源装置は、カラー表示可能な液晶パネルを備えた液晶表示装置と、液晶表示装置の液晶パネルに光を照射する光源と、を有し、ホログラムプレートは透過型であって、かつ、前記液晶パネルに貼付されていることが好ましい。 【選択図】図2	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
172	造血幹細胞の効率的な誘導および増幅方法	特願2010-193828	2010/8/31	岩間 厚志	大学院医学研究院	特許第5794510号	2015/8/21	【課題】造血幹細胞および／または造血前駆細胞、特にヒトの造血幹細胞および／または造血前駆細胞を効率的に増幅する手段を提供すること。 【解決手段】転写因子Sox17をコードする遺伝子を発現させることを特徴とする造血幹細胞および／または造血前駆細胞の増幅方法、および該増幅方法により得られる細胞培養物、並びに転写因子Sox17をコードする遺伝子を含む発現ベクターからなる造血幹細胞および／または造血前駆細胞の増幅剤、該発現ベクターを含有する造血幹細胞および／または造血前駆細胞の増幅用組成物、および該発現ベクターを試薬として含有する増幅用試薬キットを提供する。 【選択図】なし	なし
173	脂肪蓄積抑制用組成物	特願2010-195679	2010/9/1	江頭 祐嘉合	大学院園芸学研究科	特許第6032662号	2016/11/4	【課題】カルニチン及び食物繊維を混合して摂取することにより、体重増加の抑制及び脂肪蓄積抑制の効果がある組成物を提供する。 【解決手段】カルニチン又はその塩と植物由来の多糖類を含む組成物、当該組成物を含む機能性又はダイエット用食品、飲料又は飼料、並びに脂肪蓄積抑制用医薬組成物、肥満改善用医薬組成物及びタボリック症候群治療用医薬組成物を提供する。これらの組成物は体重増加抑制及び脂肪蓄積抑制の効果がある。 【選択図】なし	なし
174	脂肪蓄積抑制用組成物	特願2015-077525	2010/9/1	江頭 祐嘉合	大学院園芸学研究科	特許第6032688号	2016/11/4	【課題】カルニチン及び食物繊維を混合して摂取することにより、体重増加の抑制及び脂肪蓄積抑制の効果がある組成物を提供する。 【解決手段】カルニチン又はその塩と植物由来の多糖類を含む組成物、当該組成物を含む機能性又はダイエット用食品、飲料又は飼料、並びに脂肪蓄積抑制用医薬組成物、肥満改善用医薬組成物及びタボリック症候群治療用医薬組成物を提供する。これらの組成物は体重増加抑制及び脂肪蓄積抑制の効果がある。 【選択図】なし	なし
175	有機半導体素子及びその製造方法	特願2010-197192	2010/9/2	中村 雅一	元大学院工学研究院	特許第5769144号	2015/7/3	【課題】より信頼性の高い有機半導体素子及びその製造方法を提供する。 【解決手段】連続的な第一の電極と、多数の孔が形成された絶縁層及び第二の電極と、連続的な有機半導体層と、連続的な第三の電極と、を有する有機半導体素子とする。また、基板に連続的な第一の電極を形成する工程、第一の電極上に荷電微粒子を分散付着させる工程、第一の電極及び前記分散付着した荷電微粒子上に絶縁層及び第二の電極を形成する工程、荷電微粒子を除去する工程、連続した有機半導体層を形成する工程、有機半導体層上に第三の電極を形成する工程、を有する有機半導体素子の製造方法とする。 【選択図】図1	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
176	窒素固定化材料及びそれを用いた窒素固定化方法	特願2010-198394	2010/9/3	星野 勝義	大学院 工学研究 院	特許第5725530号	2015/4/10	【課題】より窒素固定収率の高い窒素固定化材料及び窒素固定化方法を提供する。 【解決手段】本発明にかかる窒素固定材料は、光触媒機能を有する無機物半導体微粒子と、前記無機物半導体微粒子を覆う導電性ポリマーと、を有する。この場合において、無機物半導体微粒子は、酸化チタンナノ粒子であることが好ましい。またこの場合において、導電性ポリマーと前記無機物半導体微粒子の質量比は、前記導電性ポリマーの質量を1とした場合、1以上30以下であることが好ましい。また本発明に係る窒素固定化方法は、光触媒機能を有する無機物半導体微粒子と無機物半導体微粒子を覆う導電性ポリマーを窒素を含む雰囲気中に配置して光を照射する。 【選択図】図1	
177	機能性可溶化剤	特願2010-200397	2010/9/7	高原 茂	大学院 工学研究 院	特許第5888636号	2016/2/26	【課題】ナノカーボン材料などの難溶性材料を可溶化する可溶化剤があるが、高分子や界面活性剤が用いられ光機能性をもつものは少ない。単純な高分子や界面活性剤である場合には可溶化の目的は達せられるが、可溶化剤は残留し、最終的にナノカーボン材料と混合した材料となってしまう、ナノカーボン材料本来の物性をそこなうことがある。この機能を有効に利用するには可溶化するだけでなく一重項酸素のキャリアの機能などを有し、ナノカーボン材料の可溶化能力を制御できることが望まれる。 【解決手段】ナノカーボン材料との$\pi-\pi$相互作用などによつての親和性が高いアントラセン骨格にスルホ基などの溶解性をもつ置換基を有する誘導体を合成し、ナノカーボン材料を溶媒可溶化した。さらにアントラセン骨格に由来する一重項酸素の付加、脱離の反応性によつてをこの課題を解決した。 【選択図】図1	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
178	エルトリエータ用マイクロ流路システムおよび粒子分離方法	特願2010-223564	2010/10/1	関 実	大学院 工学研究 科	特許第5773380号	2015/7/10	【課題】従来のエルトリエーション装置において必要となる、高速で回転するロータ部分に対して外部ポンプを用いて送液するための接続機構を必要としないエルトリエータ装置を提供するとともに、装置自体がディスプレイザブルなエルトリエータシステムを提供する。 【解決手段】基板に流路が形成され、回転軸を中心に回転可能なエルトリエータ用マイクロ流路システムであって、流路は、入口、出口、前記入口に接続される入口溶液チャンバー、及び、入口と出口の間に形成される分離チャンバーを有し、入口と回転軸の間の距離は、出口と回転軸の間の距離よりも短く、分離チャンバーの入口と回転軸との間の距離は、分離チャンバーの出口と回転軸との間の距離よりも長いこととする。 【選択図】図1	
179	連続的2次元粒子分離装置および粒子分離方法	特願2010-223550	2010/10/1	関 実	大学院 工学研究 科	特許第5641213号	2014/11/7	【課題】粒子の分離・回収を行う際に、複雑な操作や高価な機器を必要としない、ディスプレイザブルな連続的2次元粒子分離装置を提供する。 【解決手段】(1)外部からの溶液の連続的な導入を可能とする導入口Iと、(2)溶液の連続的な回収を可能とする回収口Oを有する流路構造Cを有しており、さらにその流路構造Cが(3)ある地点Pにおける流路断面S1において、流路構造Cを流れる粒子の中心位置が、流路断面S1におけるある一点X1を中心とした直径3×R2の円の内部を通過するような地点Pを有し、(4)地点Pと、地点Pより下流の地点Qとの間に、大きさによって粒子を分離するための構造Eを有し、(5)地点Pと地点Qの間に、粒子の磁性、電荷、比重のうち、少なくとも1つの要因に応じて粒子を分離するための流路部分Fを有する連続的2次元粒子分離装置とする。 【選択図】図2	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
180	立体画像を作成する方法	特願2010-232028	2010/10/14	伊藤 智義	大学院 工学研究 科	特許第5645010号	2014/11/14	【課題】観測者が複数の方向から見た場合に異なる画像を認識することのできる立体画像を形成する方法を提供する。 【解決手段】複数の二次元原画像を用いて立体画像を作成する方法であって、各二次元原画像の所定の画素の輝度を掛け合わせた値に応じた値を立体画像の画素の濃度として計算する立体画像を作成する方法とする。なおこの場合において、各二次元原画像の所定の画素は、立体画像の画素から二次元原画像に下ろした垂線が二次元原画像と交差する位置における画素であることが好ましい。 【選択図】図1	
181	糖尿病の治療剤	特願2010-232400	2010/10/15	南野 徹	元大学院 医学研究 院	特許第5721211号	2015/4/3	【課題】糖尿病治療に有用な新規治療的耐糖能増強療法を開発する手段を提供する。 【解決手段】本発明では次の手段を提供する：セマフォリン3Eの特異的受容体であるプレグニンD1の膜外領域のアミノ酸配列からなるポリペプチド、該アミノ酸配列と相同性を有するアミノ酸配列からなるポリペプチド、および前記いずれかのポリペプチドを含むポリペプチドから選ばれるポリペプチドであって、セマフォリン3Eの耐糖能障害作用を阻害する作用を有するポリヌクレオチドを含む糖尿病の治療剤、並びに耐糖能増強剤；前記いずれかのポリペプチドをコードするポリヌクレオチドを含む糖尿病の治療剤、並びに耐糖能増強剤；前記ポリペプチドまたは前記ポリヌクレオチドを対象に投与することを含む、糖尿病の治療方法、並びに耐糖能の増強方法；およびセマフォリン3Eの耐糖能障害作用を阻害する効果を有する化合物の同定方法。 【選択図】図8D	ITT (n=4)
182	ピロール及びインドール誘導体とその製造方法	特願2010-241731	2010/10/28	荒井 孝義	大学院 理学研究 科	特許第5843186号	2015/11/27	【課題】3置換ニトロアルケンを用いたFriedel-Crafts/プロトン化反応およびそれにより得られるピロールおよびインドール誘導体の提供。 【解決手段】下記式(1)で示される配位子を用いて調製される金属触媒を用いて、ピロールおよびインドール誘導体を合成する。 (1) (ここで、Xは臭素、フッ素、ニトロ基、又はスルホニル基であり、Phはフェニル基、Tsはトシル基である。また、PhとTsは置換基を有していてもよい。) 【選択図】なし	なし

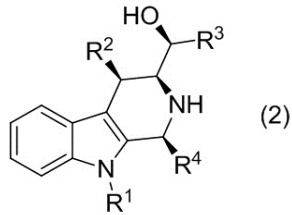
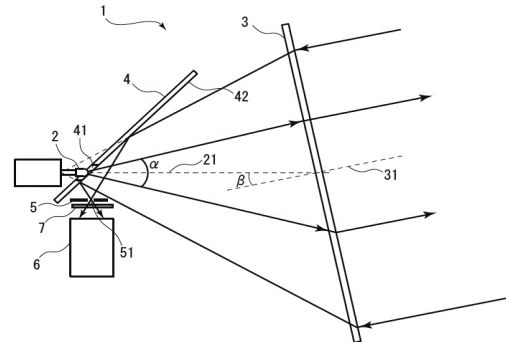
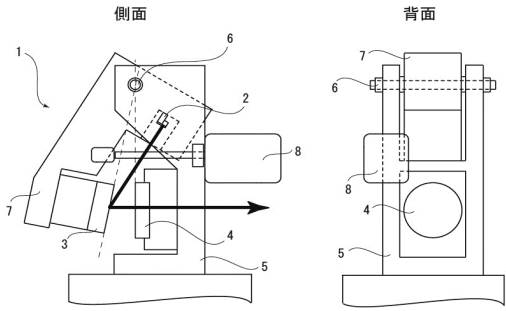
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
183	遺伝子スイッチおよび遺伝子回路の選択方法	特願2010-257816	2010/11/18	梅野 太輔	大学院 工学研究 科	特許第5757608号	2015/6/12	【課題】遺伝子スイッチや遺伝子回路の選択を短時間で行うことができ、且つ選択効率の高く漏出の少ない効果的な方法を提供すること。 【解決手段】チミジンキナーゼ、好ましくはヒトヘルペスウイルス由来チミジンキナーゼをコードする遺伝子配列とその上流に該遺伝子配列に作動可能に連結されたプロモータ配列とを少なくとも含む発現ベクターをセレクトとして使用することの特徴とする、遺伝子スイッチおよび遺伝子回路の選択方法。並びに、該方法に使用する発現ベクターを提供する。 【選択図】なし	なし
184	エンサイ由来肝炎抑制組成物	特願2010-274062	2010/11/19	江頭 祐嘉合	大学院 園芸学研 究科	特許第5765701号	2015/6/26	【課題】赤軸系のエンサイ由来の肝障害抑制組成物を提供する。 【解決手段】本発明の肝障害抑制剤は、植物由来の新しいマクロファージ活性化抑制作用による肝マクロファージの抗炎症効果を発揮することから、赤軸エンサイ由来の脂溶性の高い分画として医薬組成物としての利用が可能である。さらに、従来の肝障害予防、乃至は肝障害治療薬との合剤の利用も可能であり、経口投与によりその効果を発揮できるすぐれた肝障害抑制組成物であり肝障害抑制剤である。 【選択図】図6	赤軸エンサイヘキサン画分がNO産生量に及ぼす影響 縦軸の単位は、亜硝酸(μM)である。 平均値±標準誤差 ** : p<0.01…LPSのみ投与群に対し有意差あり
185	テルペン合成酵素遺伝子のスクリーニング方法	特願2010-258989	2010/11/19	梅野 太輔	大学院 工学研究 科	特許第5787341号	2015/8/7	【課題】既知／未知問わず、テルペン類を生物生産できるようにするためには、その合成酵素の遺伝子を取得する必要がある。また、その生物生産系の構築のためには、酵素活性の高いテルペン合成酵素変異体のスクリーニング方法が必要である。 【解決手段】テルペン合成酵素の「基質消費能」に基づき、テルペン合成酵素をスクリーニングする方法を提供する。具体的には、テルペン酵素群と同じ基質を原料とする種々の色素の生合成経路を細胞内に構築し、これらの細胞にテルペン合成酵素の遺伝子を導入して色素合成経路から原料を奪うことにより、細胞あたりの色素合成量が減少することを指標にした、テルペン合成酵素のスクリーニング方法を提供する。また、本発明の方法により得られたファルネシルニリン酸合成酵素変異体及びその遺伝子を提供する。 【選択図】図2	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
186	テルペン合成酵素遺伝子のスクリーニング方法	特願2015-066401	2010/11/19	梅野 太輔	大学院 工学研究 科	特許第5959127号	2016/7/1	【課題】既知／未知問わず、テルペン類を生物生産できるようにするためには、その合成酵素の遺伝子を取得する必要がある。また、その生物生産系の構築のためには、酵素活性の高いテルペン合成酵素変異体のスクリーニング方法が必要である。 【解決手段】テルペン合成酵素の「基質消費能」に基づき、テルペン合成酵素をスクリーニングする方法を提供する。具体的には、テルペン酵素群と同じ基質を原料とする種々の色素の生合成経路を細胞内に構築し、これらの細胞にテルペン合成酵素の遺伝子を導入して色素合成経路から原料を奪うことにより、細胞あたりの色素合成量が減少することを指標にした、テルペン合成酵素のスクリーニング方法を提供する。また、本発明の方法により得られたファルネシルニリン酸合成酵素変異体及びその遺伝子を提供する。 【選択図】図2	
187	断層測定装置	特願2011-541990	2010/11/22	椎名 達雄	大学院 工学研究 院	特許第5713319号	2015/3/20	同じ支持板の径(面積)であってもより光路長の変化を大きくすることのできる断層測定装置を提供する。光を放出する光源と、光源から放出された光を第一の光と第二の光に分割する光分割部材と、第一の光の光路を変化させる光路長可変部材と、第一の光と前記第二の光を結合させる光結合部材と、結合部材により結合した光の振幅を計測する振幅測定部材と、を有し、光路可変部材は、支持板と、支持板を支持し、かつ回転させる回転支持部材と、支持板の回転中心を通る直線に沿って支持板上に配置される第一の支持反射部材及び第二の支持反射部材と、第一の反射部材から反射された光を第二の反射部材に入射させる第一の固定反射部材と、第二の反射部材から反射された光を第二の反射部材に反射させて戻す第二の固定反射部材と、を有する断層測定装置とする。	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
188	テトラヒドロ-β-カルボリン誘導体及びその製造方法	特願2010-263276	2010/11/26	荒井 孝義	大学院 理学研究科	特許第5649170号	2014/11/21	【課題】テトラヒドロ-β-カルボリン誘導体を合成する手法を確立すること。 【解決手段】 下記式(2)で示されるテトラヒドロ-β-カルボリン誘導体。  (2) (ここでR1、R2は、アリール基、アルキル基、R3はアリール基である。) 【選択図】なし	なし
189	LEDライダー装置	特願2010-275798	2010/12/10	椎名 達雄	大学院 工学研究科	特許第5721069号	2015/4/3	【課題】小型化、軽量化が可能であって、よりブラインドエリアが小さく、性能も実際の装置として実用性のあるLEDライダー装置を提供する。 【解決手段】LEDライダー装置において、光を発するLED光源と、LED光源が放出する光を平行にするとともに、光のうち測定対象によって散乱されて戻る光を集光するレンズと、LED光源を配置するホールが形成され、LED光源の光軸に対し傾けて配置されるミラーと、ミラーにより反射した光を透過させるためのピンホールが形成された遮光フィルタと、遮光フィルタの前記ピンホールを透過した光を受ける受光装置と、を有する。 【選択図】図1	
190	外部共振器レーザ	特願2011-547736	2010/12/30	室 清文	元大学院 理学研究科	特許第5747355号	2015/5/22	同調域の減少と出力の低下を抑えたASE-Freeの外部共振器レーザを提供する。 入射される光を一部反射し、一部を透過するハーフミラーが固定された固定支持体と、固定支持体に軸を介して回転可能に支持され、かつ、光を放出するレーザチップ、レーザチップから放出された光をコリメートするコリメートレンズ、及びレーザチップから放出された光を回折させる回折格子、が固定されてなる回転支持体と、を有する外部共振器レーザとする。	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
191	疼痛の予防および／または治療剤のスクリーニング方法並びにこれに用いるためのキット	特願2011-004991	2011/1/13	山口 淳	大学院医学研究院	特許第6108261号	2017/3/17	【課題】疼痛の予防および／または治療剤をスクリーニングするための新規な手段を提供する。 【解決手段】本発明のいくつかの形態により、以下のものが提供される:BDNF遺伝子および／またはCGRP遺伝子の発現を抑制する物質を探索する工程を含む、疼痛の予防および／または治療剤のスクリーニング方法;当該スクリーニング方法に用いられる疼痛の予防および／または治療剤のスクリーニング用キットであって、BDNFタンパク質をコードするポリヌクレオチドおよび／またはCGRPタンパク質をコードするポリヌクレオチドを含む、キット;BDNFタンパク質および／またはCGRPタンパク質の発現を抑制する物質を探索する工程を含む、疼痛の予防および／または治療剤のスクリーニング方法;並びに、当該スクリーニング方法に用いられる疼痛の予防および／または治療剤のスクリーニング用キットであって、BDNFタンパク質および／またはCGRPタンパク質を含む、キット。 【選択図】図1	
192	デザイン支援プログラム	特願2014-189930	2011/1/24	日比野 治雄	大学院工学研究科	特許第5854411号	2015/12/18	【課題】パッケージ等のデザインにおいて、検討すべき課題を明確とするとともに、その定量的な評価をすることでデザイン開発の方向性に客観性を持たせるデザイン支援プログラムを提供する。 【解決手段】コンピュータに、(A)複数の課題種類データを表示させ、(B)複数の課題種類データ各々に対し数値データを付与し、(C)複数の課題種類データ及び複数の課題種類データに付与された数値データに基づき検討種類データを表示させ、(D)複数の検討種類データに対し検討結果データを入力させ、(E)検討結果データに基づき、評価データを作成し表示する。 【選択図】図1	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
193	デザイン支援プログラム	特願2011-012423	2011/1/24	日比野 治雄	大学院 工学研究 科	特許第5626683号	2014/10/10	【課題】パッケージ等のデザインにおいて、検討すべき課題を明確とするとともに、その定量的な評価を可能とすることでデザイン開発の方向性に客観性を持たせることのできるデザイン支援プログラムを提供する。 【解決手段】コンピュータに、複数の課題種類データを表示させ、複数の課題種類データ各々に対し数値データを付与し、複数の課題種類データ及び複数の課題種類データに付与された数値データに基づき検討種類データを表示させ、複数の検討種類データに対し検討結果データを入力させ、検討結果データに基づき、評価データを作成し表示する、デザイン支援プログラムとする。 【選択図】図1	
194	メカノクロミック発光材料	特願2011-018826	2011/1/31	矢貝 史樹	大学院 工学研究 科	特許第5697030号	2015/2/20	【課題】より高速又は簡便にものとの発光色に戻すことができ、さらに多色発光特性を有するメカノクロミック発光材料を提供する。 【解決手段】下記(1)又は(2)で示されるメカノクロミック発光材料。 (1) (2) 【選択図】図1	
195	微粒子の製造方法	特願2011-017820	2011/1/31	畠山 義清	大学院 工学研究 院	特許第5807893号	2015/9/18	【課題】イオン液体代替の、より環境負荷が小さく安定的に金属微粒子を製造する方法を提供する。 【解決手段】微粒子の製造方法は、液体高分子ポリエチレングリコールに貴金属、Si及びCdの少なくともいずれかをスパッタリングする。また、この手段において、貴金属は、金、銀、銅、白金の少なくともいずれかを含むことが好ましい。また、この手段において、高分子ポリエチレングリコールの数平均分子量は、200以上800以下の範囲にあることが好ましい。また、本手段において、スパッタリングの後、加熱処理を行うことが好ましい。 【選択図】図1	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面												
196	スエヒロタケによる真菌症の検査方法および検査用試薬	特願2011-022878	2011/2/4	亀井 克彦	真菌医学研究センター	特許第5769289号	2015/7/3	【課題】再現性や定量性に優れた、スエヒロタケによる真菌症の検査手段を提供する。 【解決手段】本発明の一形態によれば、生体試料中の、グルコアミラーゼタンパク質を特異的に認識する抗体を検出することを含む、スエヒロタケによる真菌症の検査方法が提供される。また、本発明の他の形態によれば、グルコアミラーゼタンパク質を特異的に認識する抗体を検出する物質を含む、スエヒロタケによる真菌症の検査用試薬が提供される。 【選択図】図3													
197	光触媒及びその製造方法	特願2011-032676	2011/2/17	魯 云	大学院工学研究科	特許第5733718号	2015/4/24	【課題】より簡便で高性能な可視光応答型光触媒を提供する。 【解決手段】本発明にかかる光触媒は、溶融した硝酸塩中でチタンを処理して製造される。また本発明にかかる光触媒の製造方法は、溶融した硝酸塩中でチタンを処理する。この場合において、硝酸塩は、硝酸カリウム、硝酸ナトリウム及び硝酸リチウムの少なくともいずれかを有することが好ましい。これによって、簡便で高性能な可視光応答型光触媒及びその製造方法を提供することができる。 【選択図】図1													
198	OATP1B3 mRNAの新規な選択的スプライシングバリエーション	特願2011-032501	2011/2/17	降幡 知巳	大学院薬学研究院	特許第5901046号	2016/3/18	【課題】新規ながんマーカーおよびその用途を提供する。より詳細には、新規ながんマーカー、当該がんマーカーの測定方法および測定用キット、これを用いたがんの検出方法、がんの検出用キット、がんの予防および／または治療剤のスクリーニング方法、並びに、がんワクチン等の医薬を提供する。 【解決手段】被検試料中のOATP1B3 mRNAの選択的スプライシングバリエーションの測定方法。当該測定方法は、生体から分離した被検試料中の、特定の塩基配列を含むmRNAを、他の塩基配列を含むmRNAと識別して測定することを含む。当該測定方法は、がんの検出やがんの予防および／または治療剤のスクリーニングに有用である。 【選択図】図5	<table><tr><th colspan="2">定量的リアルタイムPCRに用いたプライマー</th></tr><tr><th>プライマー</th><th>塩基配列 (5'→3')</th></tr><tr><td>etSLC01B3 Left 59-76</td><td>TTGGCTTGGGCTCAGAGA (配列番号: 21)</td></tr><tr><td>etSLC01B3 Right 130-151</td><td>TGCCAAGAACATCTGCTAGTTT (配列番号: 22)</td></tr><tr><td>SLC01B3 F153 for real-time</td><td>AACAGCAGAGTCAGCATCTTCAG (配列番号: 23)</td></tr><tr><td>SLC01B3 R194 for real-time</td><td>AACATCTTGAATCCATTGCAGC (配列番号: 24)</td></tr></table> F:フォワード; R:リバース	定量的リアルタイムPCRに用いたプライマー		プライマー	塩基配列 (5'→3')	etSLC01B3 Left 59-76	TTGGCTTGGGCTCAGAGA (配列番号: 21)	etSLC01B3 Right 130-151	TGCCAAGAACATCTGCTAGTTT (配列番号: 22)	SLC01B3 F153 for real-time	AACAGCAGAGTCAGCATCTTCAG (配列番号: 23)	SLC01B3 R194 for real-time	AACATCTTGAATCCATTGCAGC (配列番号: 24)
定量的リアルタイムPCRに用いたプライマー																					
プライマー	塩基配列 (5'→3')																				
etSLC01B3 Left 59-76	TTGGCTTGGGCTCAGAGA (配列番号: 21)																				
etSLC01B3 Right 130-151	TGCCAAGAACATCTGCTAGTTT (配列番号: 22)																				
SLC01B3 F153 for real-time	AACAGCAGAGTCAGCATCTTCAG (配列番号: 23)																				
SLC01B3 R194 for real-time	AACATCTTGAATCCATTGCAGC (配列番号: 24)																				
199	球形あるいは非球形ポリマー粒子の合成方法	特願2011-34052	2011/2/19	関 実	大学院工学研究科	特許第5843089号	2015/11/27	【課題】重合操作を必要とせず、非球形あるいは球形の単分散なポリマー粒子を簡便に合成する手法を提供する。 【解決手段】水に溶解する水溶性有機溶媒に対し、水に不溶なポリマーを溶解することで、ポリマー溶液を調製し、前記ポリマー溶液を、水溶液中に分散することによって液滴を形成し、前記液滴中に含まれる前記水溶性有機溶媒が、前記水溶液中に溶解することによって、ポリマー粒子が形成される、球形あるいは非球形ポリマー粒子の合成方法を用いる。 【選択図】図2													

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
200	光渦レーザービーム発振装置及び発振方法	特願2011-043386	2011/2/28	尾松 孝茂	大学院 工学研究 院	特許第5831896号	2015/11/16	【課題】より小型化が可能な光渦レーザー発振装置及び光渦レーザー発振方法を提供する。 【解決手段】本発明の一観点に係る光渦レーザー発振装置は、固体レーザー媒質と、固体レーザー媒質に光を供給する光源と、固体レーザー媒質と前記光源との間に配置される集束レンズと、固体レーザー媒質を中心に等距離に配置される反射ミラー及び出力ミラーと、を有する。また本発明の一観点に係る光渦レーザー発振方法は、光源から励起光を固体レーザー媒質に照射して光を励起し、固体レーザー媒質が励起した光を、固体レーザー媒質を中心に等距離に配置される反射ミラー及び出力ミラーで共振させて発振する。 【選択図】図1	
201	表示装置	特願2012-504549	2011/3/11	中村 一希	大学院 工学研究 院	特許第5761673号	2015/6/19	本発明は、素子構造の複雑化を防止し、携帯性を不必要に低下させることなく、高品質な表示装置を提供する。 本発明の表示装置は、電極(21、31)が形成され、互いに対向して配置される一対の基板(2、3)と、前記一対の基板(2、3)の間に挟持された材料層(4)を有し、前記材料層(4)は、電圧の印加により変色する発色材料(41)と、光励起によって発光する発光材料(42)とを含んでいる。	
202	光電変換装置及びその特性検査方法	特願2012-504552	2011/3/14	吉川 明彦	大学院 工学研究 院	特許第5892607号	2016/3/4	結晶欠陥による特性劣化を抑制する光電変換装置、および光電変換装置に内在する結晶欠陥の検出方法を提供する。そのため、本発明に係る光電変換装置は、光電変換部と、前記光電変換部に含まれる転位不活性部と、を備える。	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
203	会話支援装置および会話支援方法	特願2011-061826	2011/3/20	大武 美保子	大学院 工学研究 科	特許第5799410号	2015/9/4	【課題】会話量計測評価手法に特徴を備えた会話支援装置および方法を提供する。 【解決手段】各参加者の発言時間を1発言毎に各参加者に関連付けて取得する手段と、1発言毎に、発言時間を用いて得点を計算して参加者に関連付けて取得する得点計算手段と、各参加者の得点を累積加算して各参加者の累積得点を取得する手段と、各参加者の累積得点の平均値を計算する手段と、各参加者の累積得点から最小累積得点を特定し、当該最小累積得点と前記平均値との差を計算する手段と、前記差が予め設定した閾値を超えるか否かを判定し、超えている時に「発言を促す」ことを決定する手段と、「発言を促す」ことが決定された時に、前記最小累積得点に関連する参加者に対して発言を促す出力を行う手段と、を備えている。 【選択図】図1	
204	熱電変換材料及びその製造方法	特願2011-064076	2011/3/23	魯 云	大学院 工学研究 科	特許第5697032号	2015/2/20	【課題】熱電変換材料において、熱電変換特性をより高める。 【解決手段】本発明の熱電変換材料は、Ti5O9及びTi6O11からなるTi酸化物のほか、WC粒子を含んで構成されている。このTi5O9及びTi6O11からなるTi酸化物としては、例えば、一般式TiO_x(1.80 ≤ x < 1.84)で表されるTi酸化物としてもよい。具体的には、Ti5O9及びTi6O11からなるTi酸化物は、Ti5O9、Ti6O11のうちいずれか1以上としてもよい。また、Ti5O9及びTi6O11を含むTi酸化物が好ましい。 【選択図】図1	
205	一酸化窒素を探知するための形質転換用組換えベクター、およびこれを用いた一酸化窒素センサ細胞	特願2011-101623	2011/4/28	清水 健	大学院医 学研究院	特許第6037259号	2016/11/11	【課題】生細胞中のNO濃度を測定することができる手段を提供する。 【解決手段】発光タンパク質をコードする発光遺伝子と、前記発光遺伝子の発現を誘導する一連の遺伝子セットとを含み、前記遺伝子セットが、調節遺伝子norRと、前記調節遺伝子norRによって前記発光遺伝子の転写を誘導するプロモーター部位と、を含むことを特徴とする、一酸化窒素を探知するための形質転換用組換えベクター; 上記組換えベクターを用いて宿主を形質転換してなる形質転換体からなる一酸化窒素センサ細胞; 上記センサ細胞におけるシグナル変化を測定することを含む、細胞内の一酸化窒素を検出または定量する方法。並びに、一酸化窒素の産生を検出または定量したい被検細胞と、上記一酸化窒素センサ細胞とを近接配置し、当該一酸化窒素センサ細胞におけるシグナル変化を測定することを含む、被検細胞が産生する一酸化窒素を検出または定量する方法。 【選択図】図4	EHEC EDL933(pRPL3)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
206	聴診トレーニングシステム及び模擬聴診器	特願2011-117530	2011/5/26	中口 俊哉	フロンティア医工学センター	特許第5754708号	2015/6/5	【課題】模擬患者の呼吸動作を測定する装置を使わず簡易な構成で安価な本聴診トレーニングシステムを提供する。 【解決手段】本聴診トレーニングシステムは、位置表示手段1dを備えた採音部、チューブ及び耳管からなる模擬聴診器1、採音部位置を検知する位置検知手段2、生体音データベース3、生体音再生手段4及び再生呼吸音の繰り返しタイミングを表示するタイミング表示手段5からなる。データベースは、予め真の患者から胸の位置に対応付けて録音された生体音を情報として保有している。また、生体音再生手段は音声再生器4aを備えており、位置検知手段が検知した採音部位置に応じてデータベースから所定の生体音情報を取り出し音声再生器から再生生体音を発し、それを実習生は耳管を通して聞く。そして、タイミング表示手段は模擬患者がそれを見て自分の呼吸動作を再生呼吸音に合わせる。 【選択図】図1	
207	ケミカルヒートポンプ及び熱回収方法	特願2011-121711	2011/5/31	小倉 裕直	大学院工学研究科	特許第5783525号	2015/7/31	【課題】系内に反応媒体以外の気体を流入させることなく、かつ、ポンプ等の追加エネルギーを投入することなく、攪拌機構を有する反応速度が高いケミカルヒートポンプを提供すること。 【解決手段】第一の開閉弁108を開いて、生成反応により生じた反応器100と蒸発器300との差圧により、主蒸発器300から気体状の反応媒体を反応器100に導入して、導入により発生する気流により反応器100内の反応物及び未反応の反応材を攪拌し、第二の開閉弁107を開いて、分解反応により生じた反応器100と主凝縮器200との差圧により、主凝縮器200に分解反応により脱離した気体状の反応媒体を排出し、排出により発生する気流により反応器100内の分解反応で得られた反応材及び未分解の反応物を攪拌する。 【選択図】図1	本発明のケミカルヒートポンプの一例を示す装置概略図

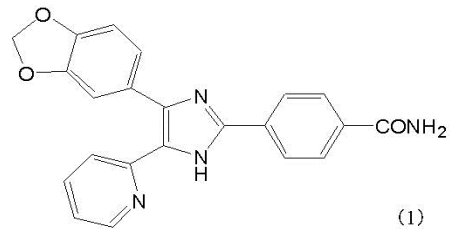
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
208	被験化合物の肝毒性を評価する方法および肝毒性を有する化合物のスクリーニング方法	特願2011-152087	2011/7/8	関根 秀一	大学院薬学研究院	特許第5846570号	2015/12/4	【課題】生体内において被験化合物への胆汁酸存在下における被験化合物の代謝物の影響を含め、例えば、BSEPの胆汁酸輸送機能に及ぼす影響と、これによって引き起こされる肝障害の程度の定量的な予測を可能とする手段を提供する。 【解決手段】本発明のいくつかの形態により、以下のものが提供される：以下の(a)および(b)の工程を含む、被験化合物の肝毒性を評価する方法：(a)胆汁酸の存在下で、培養肝細胞に被験化合物を接触させる工程；(b)被験化合物を接触させた培養肝細胞の障害の程度を測定する工程。以下の(c)および(d)の工程を含む、肝毒性を有する化合物のスクリーニング方法：(c)上記の方法を用いて被験化合物の肝毒性を評価する工程；(d)得られた評価結果を胆汁酸の非存在下における評価結果と比較して、胆汁酸存在下における肝毒性が有意に上昇している場合に、前記被験化合物は肝毒性を有する化合物であると判定する工程。 【選択図】図1	
209	断層測定装置	特願2011-181363	2011/8/23	椎名 達雄	大学院工学研究院	特許第5911087号	2016/4/8	【課題】同じ支持板の径(面積)であっても、より光路長の変化を大きくすることのできる断層測定装置を提供する。 【解決手段】断層測定装置を、光を放出する光源と、光源から放出された光を第一の光と第二の光に分割する光分割部材と、第一の光の光路を変化させる光路可変部材と、第一の光と前記第二の光を結合させる光結合部材と、結合部材により結合した光の振幅を測定する振幅測定部材と、を有し、光路可変部材は、支持板と、支持板を支持し、かつ回転させる回転支持部材と、支持板上に配置される支持反射部材と、支持反射部材から反射された光を再度前記支持反射部材に入射させる第一の固定反射部材と、支持反射部材から再度反射された支持反射部材に反射して戻す第二の固定反射部材と、を有するものとする。 【選択図】図4	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

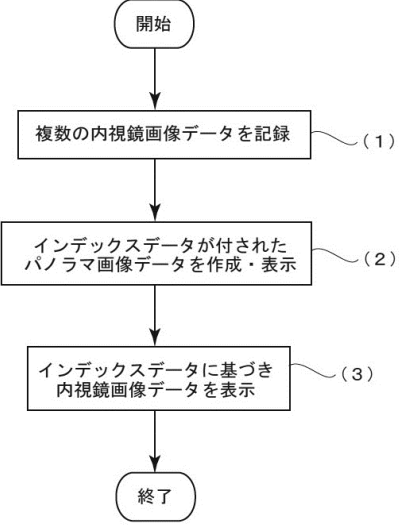
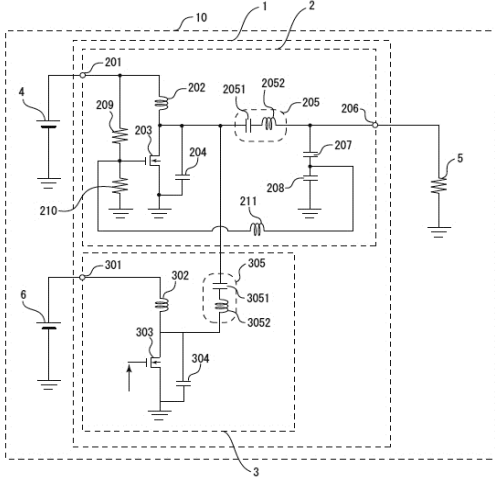
No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
210	断層測定装置及び断層測定方法	特願2011-185073	2011/8/26	椎名 達雄	大学院 工学研究 院	特許第5854396号	2015/12/18	【課題】同じ支持板の径(面積)であっても、より光路長の変化を大きくすることのできる断層測定装置を提供する。 【解決手段】断層測定装置を、光を放出する光源と、光源から放出された光を第一の光と第二の光に分割する第一の光分割部材と、第一の光の光路を変化させる光路可変部材と、第一の光と前記第二の光を結合させる光結合部材と、結合部材により結合した光の振幅を測定する振幅測定部材と、を有し、光路可変部材は、支持板41と、支持板を支持し、かつ回転させる回転支持部材と、第一の光を第三の光と第四の光24に分割する第二の光分割部材と、支持板上に配置される支持反射部材43と、支持反射部材から反射された第三の光を再度支持反射部材に入射させる第一の固定反射部材45と、支持反射部材から反射された第四の光を再度支持反射部材に入射させる第二の固定反射部材48を有するものとする。 【選択図】図5	
211	断層測定装置	特願2011-185483	2011/8/29	椎名 達雄	大学院 工学研究 院	特許第5791043号	2015/8/14	【課題】同じ支持板の半径(面積)であっても、より光路長の変化を大きくすることのできる断層測定装置を提供する。 【解決手段】断層測定装置の光路可変部材を、第一の支持板及び第二の支持板と、第一の支持板を回転可能に支持する第一の回転支持部材と、第二の支持板を回転可能に支持する第二の回転支持部材と、第一の支持板に配置された第一の支持反射部材と、第二の支持板に配置された第二の支持反射部材と、固定反射部材とを有し、第二の支持反射部材に反射された第一の光が第一の支持反射部材に入射及び反射され、第一の支持反射部材に反射された第一の光が固定反射部材に入射され、第一の支持板と第二の支持板が反対向きに回転するものとする。 【選択図】図2	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
212	ヒト多能性幹細胞からの造血幹細胞の効率的な誘導方法	特願2011-189582	2011/8/31	岩間 厚志	大学院医学研究院	特許第5928681号	2016/5/13	【課題】多能性幹細胞、特にヒト多能性幹細胞から長期骨髓再構築能を持つ造血幹細胞を効率的に分化誘導し、増幅する手段を提供する。 【解決手段】下記式等のトランスフォーミング増殖因子-β (TGF-β) 阻害剤からなる、多能性幹細胞から造血幹細胞および／または造血前駆細胞への分化誘導促進剤、該TGF-β 阻害剤を含む多能性幹細胞から造血幹細胞および／または造血前駆細胞への分化誘導促進用組成物、該TGF-β 阻害剤を試薬として含む多能性幹細胞から造血幹細胞および／または造血前駆細胞への分化誘導促進用試薬キット、並びに該TGF-β 阻害剤を使用することを特徴とする多能性幹細胞から造血幹細胞および／または造血前駆細胞への分化誘導方法、および該分化誘導方法により得られる細胞培養物。  (1) 【選択図】なし	なし
213	女性の排尿障害の治療剤	特願2011-189583	2011/8/31	内山 智之	元医学部附属病院	特許第6031722号	2016/11/4	【課題】女性の排尿障害の治療に適用することができ、かつ副作用の少ない安全な薬剤を提供すること。 【解決手段】シロドシン若しくはその薬理学的に許容される塩またはそれらの溶媒和物を有効成分として含み、女性の排尿障害患者、特に蓄尿障害を有する女性の排尿障害患者、好ましくは蓄尿障害および排出障害を有する女性の排尿障害患者、さらに好ましくはそのような女性の排尿障害患者であって低血圧、例えば起立性低血圧を合併する患者に投与することの特徴とする、排尿障害治療剤を提供する。 【選択図】なし	なし

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
214	マルチレベルインバータ回路	特願2011-193412	2011/9/5	佐藤 之彦	大学院 工学研究 科	特許第5927640号	2016/5/13	【課題】4レベル以上のダイオードクランプ形マルチレベルインバータであっても、DCリンクコンデンサの電圧均一性を確保することのできるマルチレベルインバータ回路を提供する。 【解決手段】本発明に係るマルチレベルインバータ回路は、共振形スイッチトキャパシタコンバータを用いることを特徴のひとつとする。また、マルチレベルインバータ回路は、マルチレベルインバータ部と、マルチレベルインバータ部とDCリンクコンデンサ部を介して接続されるRSCC部と、を有することを特徴とする。 【選択図】図1	
215	パノラマ画像作成プログラム	特願2011-218587	2011/9/30	五十嵐 辰男	フロンティア 医工学セ ンター	特許第5835797号	2015/11/13	【課題】元の画像データにアクセス容易であって、医療分野に適したパノラマ画像作成プログラムを提供する。 【解決手段】コンピュータに、複数の内視鏡画像データを記録する内視鏡画像データ記録手段、複数の内視鏡画像データに基づき、各画素の位置に対応したインデックスデータが付されたパノラマ画像データを作成し、表示するパノラマ画像データ作成表示手段、インデックスデータに基づき、複数の内視鏡画像データのいずれかを内視鏡画像として表示させる内視鏡画像データ表示手段、として機能させるためのパノラマ画像作成プログラムとする。 【選択図】図1	

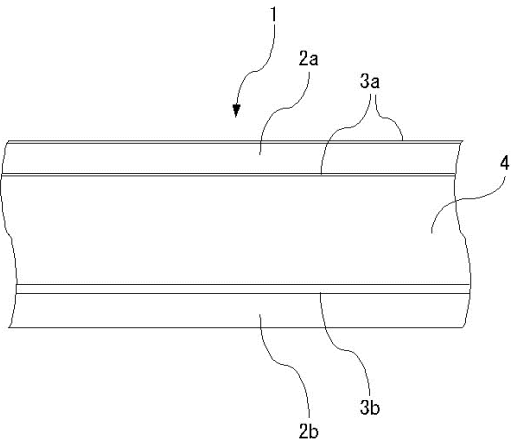
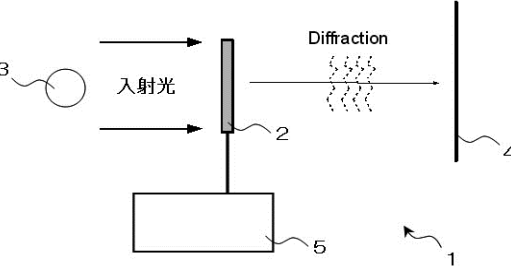
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
216	パノラマ画像作成プログラム	特願2015-211797	2011/9/30	五十嵐 辰男	フロンティア医工学センター	特許第6128664号	2017/4/21	【課題】元の画像データにアクセス容易であって、医療分野に適したパノラマ画像作成プログラムを提供する。 【解決手段】コンピュータに、複数の内視鏡画像データを記録する内視鏡画像データ記録手段1、複数の内視鏡画像データに基づき、各画素の位置に対応したインデックスデータが付されたパノラマ画像データを作成し2、表示するパノラマ画像データ作成表示手段3、インデックスデータに基づき、複数の内視鏡画像データのいずれかを内視鏡画像として表示させる内視鏡画像データ表示手段、として機能させるためのパノラマ画像作成プログラム。 【選択図】図1	
217	遺伝子スイッチおよび遺伝子回路の高速開発方法	特願2012-541895	2011/11/2	梅野 太輔	大学院工学研究科	特許第5904494号	2016/3/25	遺伝子スイッチおよび該遺伝子スイッチを含む遺伝子回路が作動することにより発現される転写調節因子によって発現調節される遺伝子配列とその上流に該遺伝子配列に作動可能に連結されたプロモータ配列とを少なくとも含む発現ベクターをセレクタ(selector)として使用することを特徴とする、遺伝子スイッチおよび遺伝子回路の選択方法並びに、該選択方法に使用する発現ベクターを提供し、それにより、遺伝子スイッチや遺伝子回路の選択方法であって、短時間で行うことができ且つ選択効率が高く漏出しの少ない効果的な選択方法を可能にする。	なし
218	EM級増幅器	特願2011-246009	2011/11/9	関屋 大雄	大学院工学研究院	特許第5773364号	2015/7/10	【課題】高調波歪みを容易に低減させることのできるEM級増幅器を提供する。 【解決手段】本発明にかかるEM級増幅器は、主回路と、主回路に信号を入力する補助回路と、を有するEM増幅器であって、主回路は、プッシュプル構造を有することを特徴とする。この場合において、限定されるわけではないが、プッシュプル構造は、第一の主基礎回路と、第一の主基礎回路と同様な構造の第二の主基礎回路と、第一の主基礎回路と第二の主基礎回路に接続される負荷回路と、を有して構成される。 【選択図】図1	

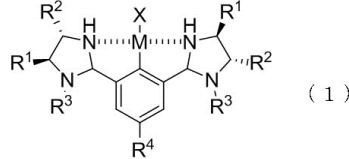
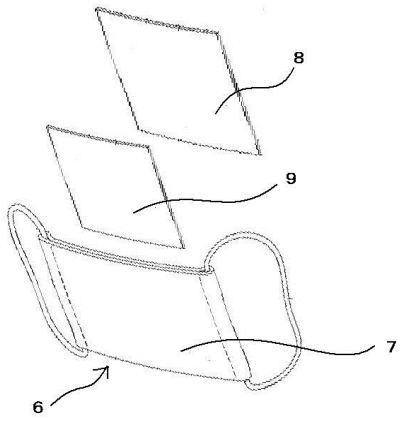
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
219	コラーゲンの産生促進剤、プロテオグリカン産出促進剤及び軟骨細胞の遊走促進剤	特願2016-138743	2011/11/28	鈴木 昌彦	フロンティア医工学センター	特許第6260913号	2017/12/22	【課題】安全性が高いコラーゲンの産生促進剤、プロテオグリカン産出促進剤及び軟骨細胞の遊走促進剤を提供する。 【解決手段】人工コラーゲンを含む肩の腱板細胞、アキレス腱細胞、骨芽細胞及び筋細胞のコラーゲンの産生促進剤。PHG単位が1～12回の繰り返し配列であるペプチド及び特定された4つの配列番号のいずれか1つのペプチドを含むコラーゲン産出促進剤及びプロテオグリカン産出促進剤及び細胞の遊走促進剤。 【選択図】なし	なし
220	断層像測定装置	特願2011-263126	2011/11/30	椎名 達雄	大学院工学研究院	特許第5867855号	2016/1/15	【課題】光学素子の欠陥を簡便に発見、測定することのできる断層像測定装置を提供する。 【解決手段】本発明の一手段にかかる断層像測定装置は、測定対象からの光を屈折させて集光させる第一のレンズと、第一のレンズを透過した光の光路長を調整する光路調整部と、光路調整部からの光を撮像素子上に集光させる第二のレンズと、を有し、光路調整部は、回転板と、回転板を駆動する駆動部と、回転板上に配置される回転反射部材と、を有することを特徴とする。 【選択図】図1	
221	エレクトロクロミック表示素子及びエレクトロクロミック表示素子の製造方法	特願2011-266341	2011/12/5	星野 勝義	大学院工学研究院	特許第5888644号	2016/2/26	【課題】ビオロゲン化合物に置換基を導入する工程が必要のため、エレクトロクロミック表示素子の生産性が低下するという課題があった。 【解決手段】本発明の一観点に係るエレクトロクロミック表示素子は、電極が形成された一対の基板と、前記一対の基板の間に挟持された媒体と、を有するエレクトロクロミック表示素子であって、電極の少なくとも一つは、ITOナノ粒子及びビオロゲン化合物を含む膜である。 また、他の一観点に係るエレクトロクロミック表示素子の製造方法は、基板にITOナノ粒子及びビオロゲン化合物を含む分散液を塗布する塗布工程と、塗布工程の後に前記基板を乾燥する乾燥工程と、を有する。 【選択図】図1	

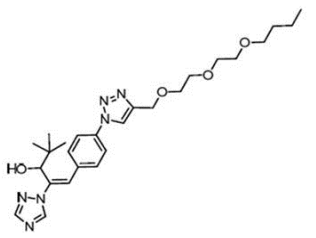
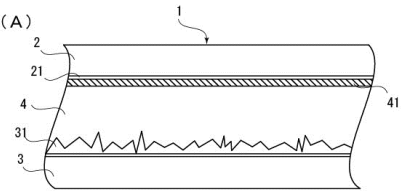
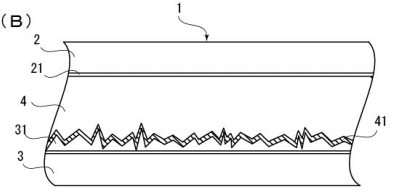
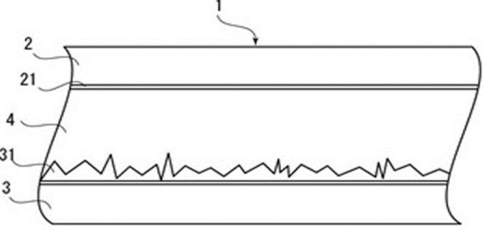
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
222	エレクトロクロミック表示素子の製造方法及びエレクトロクロミック表示素子	特願2011-267414	2011/12/6	星野 勝義	大学院工学研究院	特許第5901009号	2016/3/18	【課題】消え残りを低減したエレクトロクロミック表示素子及びエレクトロクロミック表示素子の製造方法を提供する。 【解決手段】 本発明の一観点に係るエレクトロクロミック表示素子の製造方法は、ITOナノ粒子を基板上に塗布する塗布工程と、基板を焼成する焼成工程と、を有する。 また、本発明の他の一観点に係るエレクトロクロミック表示素子は、一対の基板と、基板の対向する一対の面にそれぞれ形成される電極と、一対の基板間に挟持される媒体層と、を有するエレクトロクロミック表示素子であって、媒体層はピオロゲン化合物を含み、電極の少なくとも一方は、ITOナノ粒子を焼成した膜である。 【選択図】 図1	
223	ホログラムデータ作成プログラム	特願2011-269483	2011/12/8	下馬場 朋禄	大学院工学研究科	特許第6074784号	2017/1/20	【課題】ズームレンズ等の画像拡大のための光学素子の数を減らすことが可能となり、しかも拡大縮小における回折計算処理の負担をより軽減できるプロジェクタ装置用のホログラムデータ作成プログラムを提供する。 【解決手段】本発明の一観点に係るホログラムデータ作成プログラムは、コンピュータに、元画像データにシフトフレネル回折計算処理を施してホログラムデータを作成させることを特徴とする。この観点によるとシフトフレネル回折計算処理によって、元画像データの拡大又は縮小を行うことができるようになる。 【選択図】図1	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
224	ビスイミダゾリジピンサ ー型錯体、及び、ビス イミダゾリジピンサー型 錯体並びにそれらの製造 方法	特願2011-290447	2011/12/29	荒井 孝義	大学院 理学研究 科	特許第5866709号	2016/1/15	【課題】ビスイミダゾリジピンサー型錯体の合成手法を確立すること。 【解決手段】 下記式(1)に示されるビスイミダゾリジピンサー型錯体。  (1) (ただし、R1、R2はCH3、-(CH2)4-, Phのいずれかであり、R3はH、CH3SO2、CH3C6H4SO2、C6H5SO2、CH3CO、C6H5CO、CH3、C2H5、CH2Ph、Phのいずれかであり、R4はH、tBu、CH3、Br、NO2のいずれかであり、XはCl、Br、I、OTf、ClO4、BF4、PF6のいずれかであり、MはPd、Ni、Rh、Ir、Ruのいずれかである。ここで、Phは芳香環を示す。) 【選択図】 なし	なし
225	シナムアルデヒドを用 いたインフルエンザ予防 用マスク、インフルエン ザ予防方法及び該予防装 置	特願2012-015998	2012/1/28	並木 隆雄	大学院医 学研究院	特許第6233678号	2017/11/2	【課題】インフルエンザウイルスの予防に必要なシナムアルデヒドの空気中の濃度範囲の設定及び該濃度範囲を基にしたシナムアルデヒドを用いたインフルエンザ予防方法及び該予防装置を提供する。 【解決手段】インフルエンザ予防用マスク6では、通気性を有する布又はシートなどからなるマスク本体7に、鼻孔及び又は口を覆う通気性を有する布又はシート等からなる鼻孔及びまたは口の接触部8、シナムアルデヒドもしくはシナムアルデヒドを主成分とするシナモン抽出物を塗布又は含浸させた布又はシートなどからなる吸着層9、又は、シナムアルデヒドもしくはシナムアルデヒドを主成分とするシナモン抽出物を収納可能な袋形状態を有する。 【選択図】図6	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
226	植物の乾燥耐性付与方法及びそれに用いられる植物乾燥耐性付与剤	特願2012-022583	2012/2/4	近藤 悟	大学院 園芸学研 究科	特許第5866710号	2016/1/15	【課題】簡易に使用することができ、灌水において気孔の開放を十分に行わせることのできる植物の乾燥耐性付与の方法を提供すること、更にはこれに用いられる植物乾燥耐性付与剤を提供する。 【解決手段】下記式で示される化合物及びその誘導体並びにそれらの塩の少なくともいずれかを散布する植物の乾燥耐性付与方法とする。  【選択図】なし	なし
227	調光素子及びそれを含む製品	特願2013-502419	2012/3/2	小林 範久	大学院 工学研究 院	特許第5751560号	2015/5/29	本発明は、透過型でも使用が可能であり、高いコントラスト比を可能とする高品質な鏡面状態を有する調光素子及びそれを含む製品を提供することを目的とする。 本発明に係る調光素子は、一対の基板(2, 3)と、一対の基板(2, 3)の対向する面に形成され、一方がナノオーダーの凹凸のある透明電極(31)である一対の電極(21, 31)と、一対の電極(21, 31)の間に挟持され、電解質、銀を含むエレクトロクロミック材料及びメディエータを含む電解質層(4)と、を有することを特徴とする。また本発明に係る装置は、上記調光素子を少なくとも一部に含む。	 
228	調光素子及びそれを含む製品	特願2015-096125	2012/3/2	小林 範久	大学院 工学研究 院	特許第6004384号	2016/9/16	【課題】本発明は、透過型でも使用が可能であり、高いコントラスト比を可能とする高品質な鏡面状態を有する調光素子及びそれを含む製品を提供することを目的とする。 【解決手段】本発明に係る調光素子は、一対の基板(2, 3)と、一対の基板(2, 3)の対向する面に形成され、一方がナノオーダーの凹凸のある透明電極(31)である一対の電極(21, 31)と、一対の電極(21, 31)の間に挟持され、電解質、銀を含むエレクトロクロミック材料及びメディエータを含む電解質層(4)と、を有することを特徴とする。また本発明に係る装置は、上記調光素子を少なくとも一部に含む。 【選択図】図1	

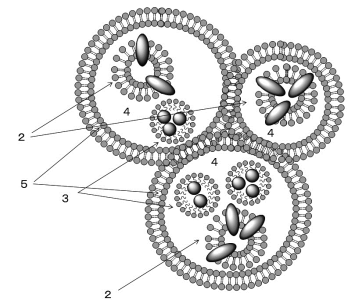
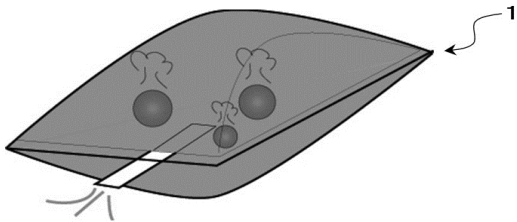
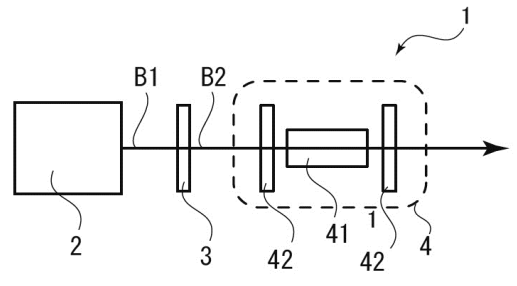
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
229	調光素子及びそれを含む製品	特願2016-165588	2012/3/2	小林 範久	大学院工学研究院	特許第6341577号	2018/5/25	【課題】本発明は、透過型でも使用が可能であり、高いコントラスト比を可能とする高品質な鏡面状態を有する調光素子及びそれを含む製品を提供することを目的とする。 【解決手段】本発明に係る調光素子は、一対の基板(2, 3)と、一対の基板(2, 3)の対向する面に形成され、一方がナノオーダーの凹凸のある透明電極(31)である一対の電極(21, 31)と、一対の電極(21, 31)の間に挟持され、電解質、銀を含むエレクトロクロミック材料及びメディエータを含む電解質層(4)と、を有することを特徴とする。また本発明に係る装置は、上記調光素子を少なくとも一部に含む。 【選択図】図1	
230	癌の予防剤および／または治療剤	特願2012-048422	2012/3/5	松下 一之	大学院医学研究院	特許第6057408号	2016/12/16	【課題】より多くの癌に特異的に発現している融合タンパク質(または、癌細胞に特異的にみられるタンパク質相互作用)を見出し、癌細胞特異的に治療効果を発揮できる癌の予防・治療手段を提供する。 【解決手段】本発明の一形態によれば、SAP155阻害剤、FIR-SAP155阻害剤、およびFIRΔexon2-SAP155阻害剤からなる群から選択される1種または2種以上を有効成分として含有する癌の予防剤および／または治療剤が提供される。また、本発明の他の形態によれば、試験物質を、SAP155、FIR、およびFIRΔexon2の少なくともいずれかと接触させる工程と、前記試験物質がSAP155、FIR、およびFIRΔexon2の少なくともいずれかの機能、あるいは、SAP155とFIRとの結合、またはSAP155とFIRΔexon2との結合の少なくともいずれかを阻害するか否かを判定する工程とを含む、癌の予防剤および／または治療剤の候補物質の同定方法が提供される。 【選択図】図7	
231	光両性物質発生剤	特願2012-052227	2012/3/8	高原 茂	大学院工学研究院	特許第5946084号	2016/6/10	【課題】光両性物質発生剤についてはほとんど知られてなく、スルファニル酸イミド化合物以外の化学構造をもつ光両性物質発生剤は知られていなかった。スルファニル酸イミド化合物は、中性分子であり、水溶性に乏しく水系溶媒では用いることができなかった。また、その光分解の効率も高いものではなかった。 【解決手段】フォトレジスト材料で良く知られ、また広く応用されている光酸発生剤の化学構造であるオニウム塩に注目し、この化学構造をもつ光両性物質発生剤を創出することに着目し、光によって酸塩基を効率よく制御できる水溶性の光両性物質発生剤を設計、合成した。これにより水溶液のpHの光制御を可能とした。 【選択図】図1	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
232	心血管イベントの発症リスクの検査方法	特願2012-099112	2012/4/24	舘野 馨	大学院医学研究院	特許第6004322号	2016/9/16	【課題】心血管イベント発症のリスクを低コストで判定することが可能な検査方法を提供する。 【解決手段】心血管イベント発症のハイリスク群として知られている重症下肢虚血の患者のうち加療後に心血管イベントを発症した症例では、初診時の血小板数が低い傾向にある。また、動脈硬化性疾患を有する患者の末梢血管内皮前駆細胞数が血小板数と正に相関する知見に基づき、心血管イベントの発症リスクを検査するための方法として、被検体から採取した血液試料中の血小板の量を測定する工程を含む。 【選択図】図4	
233	折りたたみ可能な立体構造物及びその製造方法	特願2012-102510	2012/4/27	伊藤 智義	大学院工学研究科	特許第5910966号	2016/4/8	【課題】立体から平面への折りたたみが容易であって、球体や卵型、回転楕円体等といった密封された立体を作り出すことのできる折りたたみ可能な立体構造物の製造方法、その立体構造物を提供する。 【解決手段】立体モデルを貫通する基軸を設定し、立体モデルと前記基軸が交差する近傍の軸点2点を定め、軸点2点の間にn個の中間点を定め、軸点2点のいずれかを通る一対の頂平面を定め、n個の中間点のいずれかを通り、基軸に垂直なn個の第一平面を定め、各々が基軸を含み互いに平行でないm個の第二平面を定め、頂平面、第二平面及び立体モデルの交差点又はその近傍点である頂平面点を複数定め、第一平面、第二平面及び立体モデルの交差点又はその近傍点である面上点を複数定め、一の頂面上のそれぞれの頂平面点を、他方の頂面上のそれぞれの頂平面点と面上点を経由して結び構造モデルを定める、折りたたみ可能な立体構造物の製造方法とする。 【選択図】図1	
234	折りたたみ可能な立体構造物及びその製造方法	特願2016-016779	2012/4/27	伊藤 智義	大学院工学研究院	特許第6192134号	2017/8/18	【課題】立体から平面への折りたたみが容易であって、球体や卵型、回転楕円体等といった密封された立体を作り出すことのできる折りたたみ可能な立体構造物の製造方法、その立体構造物を提供する。 【解決手段】立体モデルを貫通する基軸を設定し、立体モデルと前記基軸が交差する近傍の軸点2点を定め、軸点2点の間にn個の中間点を定め、軸点2点のいずれかを通る一対の頂平面を定め、n個の中間点のいずれかを通り、基軸に垂直なn個の第一平面を定め、各々が基軸を含み互いに平行でないm個の第二平面を定め、頂平面、第二平面及び立体モデルの交差点又はその近傍点である頂平面点を複数定め、第一平面、第二平面及び立体モデルの交差点又はその近傍点である面上点を複数定め、一の頂面上のそれぞれの頂平面点を、他方の頂面上のそれぞれの頂平面点と面上点を経由して結び構造モデルを定める、折りたたみ可能な立体構造物の製造方法とする。 【選択図】図1	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
235	医療用組織マーカー及びその製造方法	特願2013-520507	2012/5/31	林 秀樹	フロンティア医工学センター	特許第5959118号	2016/7/1	臓器外側からでも位置の認識が可能であり、長時間局所的に留まることが可能であって、かつ、マーキングした位置の臓器全体の中での位置の把握が容易となる医療用組織マーカー及びその製造方法を提供する。 そのため、本発明にかかる医療用組織マーカーは、リン脂質及び近赤外蛍光色素が複合して形成されたベシクルと、前記リン脂質及びX線造影剤が複合して形成されたエマルジョンを含み、前記ベシクルと前記エマルジョンを親水性溶媒に内包させ、乳化剤により複数のカプセルを形成、凝集させたクラスターを有する。	
236	青果物用容器及びこれを用いた青果物の保存方法	特願2012-127599	2012/6/4	小川 幸春	大学院園芸学研究科	特許第6011780号	2016/9/30	【課題】炭酸ガス供給が可能で、青果物の含有する成分の変化の少ない青果物用容器及び青果物の保存方法を提供する。 【解決手段】 本発明の一観点に係る青果物用容器は、逆止弁を備え、内部に野菜が収納されるとともに炭酸ガスが充填されてなる。この観点において、限定されるわけではないが、青果物用容器は、ガス透過性の低い高分子化合物からなる袋であることが好ましい。また、本発明の他の一観点に係る青果物の保存方法は、青果物用容器に野菜を収納し、逆止弁を備えた前記青果物用容器内に炭酸ガスを充填させる。またこの場合において、限定されるわけではないが、青果物用容器は、ガス透過性の低い高分子化合物からなる袋であることが好ましい。 【選択図】図1	
237	光渦レーザー発振方法及び光渦レーザー発振装置	特願2013-519522	2012/6/7	尾松 孝茂	大学院工学研究院	特許第6103597号	2017/3/10	高出力化が可能であって、広い周波数範囲で、かつ、整数以外の量子数の光渦であっても発生させることができる光渦レーザー発振装置を提供する。 本発明の一観点に係るレーザー装置は、レーザー光を発するレーザー光源と、レーザー光源が発するレーザー光に基づき励起光渦を発する光渦発生部と、光渦発生部が発する前記励起光渦を共振させてシグナル光とアイドラー光に分割する光共振部と、を有する。この場合において、光共振部は、非線形媒質と、前記非線形媒質を挟む一対の共振器ミラーとを有することが好ましく、非線形媒質は、KTiOPO4、周期分極反転LiNbO3、及び周期分極反転LiTaO3の少なくともいずれかを含むことが好ましい。	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
238	炭素数50のカロテノイドの製造方法	特願2013-519547	2012/6/8	梅野 太輔	大学院工学研究科	特許第5987176号	2016/8/19	本発明は、変異型フィトエン不飽和化酵素遺伝子により形質転換された細胞を培地で培養し、培養物から炭素数50のカロテノイドを得ることを手段とする、効率よく炭素数50のカロテノイドを不飽和化して種々の炭素数50のカロテノイドを製造する方法を提供する。前記変異型フィトエン不飽和化酵素遺伝子は、炭素数50のカロテノイド骨格化合物を不飽和化する活性の増強した変異型フィトエン不飽和化酵素をコードするよう変異が導入されたものである。	
239	炭素数50のカロテノイドの製造方法	特願2016-121343	2012/6/8	梅野 太輔	大学院工学研究院	特許第6164710号	2017/6/30	【課題】炭素数55又は60のカロテノイドを製造する方法の提供。 【解決手段】アミノ酸配列233番目のフェニルアラニンセリンへ置換した変異型ジapoフィトエン合成酵素遺伝子。変異型ジapoフィトエン合成酵素遺伝子及び変異型ファルネシルニリン酸合成酵素遺伝子、又はヘキサプレニルニリン酸合成酵素遺伝子により形質転換された細胞を培地で培養し、培養物から炭素数55又は60のカロテノイドを得る方法。 【選択図】図1	
240	有機透明導電体、有機導電体形成用インク及びそれらの製造方法	特願2012-131454	2012/6/10	星野 勝義	大学院工学研究院	特許第6150239号	2017/6/2	【課題】より良好な透明性を有する透明導電体及び透明導電体形成用インクを提供する。 【解決手段】本発明の一観点に係る透明導電体の製造方法は、少なくとも1種のN-アリールカルバゾールを重合させて得られるポリ(N-アリールカルバゾール)と、金属とを接触させる工程を含むことを特徴とする。また、本発明の一観点に係る透明導電体は、少なくとも1種のN-アリールカルバゾールを重合させて得られるポリ(N-アリールカルバゾール)と、金属とを接触させる工程によって作製されるものである。 【選択図】図1	

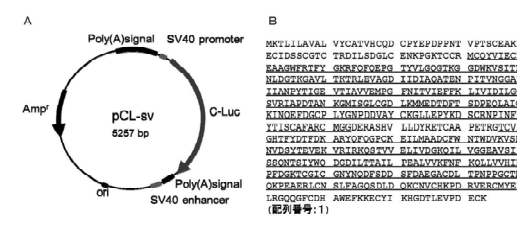
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
241	ガリウム標識薬剤	特願2013-520596	2012/6/15	荒野 泰	大学院薬学研究院	特許第5971867号	2016/7/22	標的分子に結合する化合物と結合させたトリサリチルアルジミノメチル エタノール(tri-salicylaldimino methyl-ethanol)と、ガリウム67またはガリウム68とから形成される錯体構造を有する錯体を含み、標的部位への集積性および安定性が増加した放射性ガリウム標識薬剤;診断用または治療用の前記放射性ガリウム標識薬剤;前記放射性ガリウム標識薬剤の調製用配位子;前記配位子を含む薬剤とガリウム67またはガリウム68を含む薬剤とを、別々の包装単位として含んでなるキット;および、放射性ガリウム標識薬剤の製造方法を提供する。	
242	生物農薬用容器及び生物農薬の保存方法	特願2012-148966	2012/7/2	大山 克己	環境健康フィールド科学センター	特許第5988241号	2016/8/19	【課題】生物農薬の貯蔵、輸送、および、保管の少なくとも一つで利用し、かつ、放飼にも使用する、品質保存可能な生物農薬用容器及びそれを用いた生物農薬の保存方法を提供する。 【解決手段】本発明の一観点に係る生物農薬用容器は、水または水溶液を収納し水蒸気を供給する水蒸気供給容器と、生物農薬の出入口と換気孔を有する内容器と、水蒸気供給容器及び内容器を出し入れするための開閉可能な出入口を有し、水蒸気供給容器及び内容器を収容する外容器と、を備える。また本発明の他の一観点に係る生物農薬の保存方法は、水または水溶液を収納し水蒸気を供給する水蒸気供給容器と、生物農薬の出入口と換気孔を有する内容器と、水蒸気供給容器及び内容器を出し入れするための開閉可能な出入口を有し、水蒸気供給容器及び内容器を収容する外容器と、を用い、内容器に生物農薬を収納し、水蒸気供給容器から水蒸気を供給させる。 【選択図】 図1	
243	セラミド誘導体およびこれを用いたゴルジ体標識化蛍光プローブ	特願2013-529018	2012/8/13	西田 篤司	大学院薬学研究院	特許第6120222号	2017/4/7	【課題】ゴルジ体を選択的に蛍光標識するための、細胞障害性が低く細胞内安定性に優れた手段を提供する。 【解決手段】本発明によれば、下記化学式1: 〔化学式1〕 式中、R1は、炭素原子数1～12のアルキル基であり、R2は、炭素原子数1～20のアルキル基であり、nは、1～20の整数である、で表されるセラミド誘導体、およびこれを用いたゴルジ体標識化蛍光プローブが提供される。 【選択図】図4	

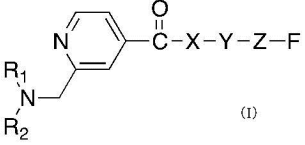
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面																																			
244	自然評価方法及び自然評価プログラム	特願2012-183244	2012/8/22	高橋 輝昌	大学院 園芸学研 究科	特許第6156788号	2017/6/16	【課題】より短時間で、専門家でなくても判定可能であり、より物質循環特性を反映した自然評価方法及び自然評価プログラムを提供する。 【解決手段】 本発明の一の観点に係る自然評価プログラムは、コンピュータに、植物量データに対する微生物活性データを求める手順を実行させることを特徴とする。この場合において、限定されるわけではないが、複数の調査区の各々において、前記植物量データ及び前記微生物活性データを求めることが好ましく、また、複数の調査区は、複数の基準区及び少なくとも一つの調査対象区を含み、前記調査対象区における前記植物量データに対する前記微生物活性データが、前記複数の基準区における前記植物量データに対する前記微生物活性データの許容範囲内であるか否かを評価することが好ましい。 また、本発明の他の一観点に係る自然評価方法は、植物量データに対する土壌中の微生物活性データを求めることを特徴とする。 【選択図】 図2																																				
245	肝がん幹細胞阻害剤	特願2012-224722	2012/10/10	千葉 哲博	大学院医 学研究院	特許第6206939号	2017/9/15	【課題】肝がん幹細胞の阻害に効果を有する化合物、および肝がん治療用組成物を提供すること。 【解決手段】培養系および免疫不全マウスを用いた異種移植モデルにおいて用量依存性に肝がん細胞の増殖抑制効果およびアポトーシス誘導作用を示し、かつ、肝がん幹細胞に対しても阻害効果を示すジスルフィラム若しくはその薬理学的に許容される塩またはそれらの溶媒和物からなる肝がん幹細胞阻害剤、並びに該肝がん幹細胞阻害剤を有効成分として含む肝がん治療用組成物を提供する。 【選択図】なし	なし																																			
246	排尿障害の判定方法	特願2012-230368	2012/10/17	内山 智之	元医学部 附属病院	特許第6296432号	2018/3/2	【課題】排尿障害の判定方法を提供する。 【解決手段】(1)膀胱容量測定及びVASを用いて膀胱知覚を段階化することによって、蓄尿期の尿意の動向を定量的に測定できる。(2)蓄尿期の終了時のVAS値から蓄尿期の開始時のVAS値を引いた値を、蓄尿期の終了時の膀胱容量から蓄尿期の開始時の膀胱容量から引いた値で割った傾きの値は各排尿障害に特有の値を示す。 【選択図】図2	<table><tr><td></td><td></td><td>FS</td><td>FDV</td><td>NDV</td><td>通常最大尿量</td><td>MDV</td></tr><tr><td>DO例</td><td>膀胱容量</td><td>116</td><td>177</td><td>256</td><td>318</td><td>414</td></tr><tr><td></td><td>VASスケール</td><td>2</td><td>4</td><td>5</td><td>10</td><td>12.5</td></tr><tr><td>膀胱知覚増強例 (Sensory Urgency)</td><td>膀胱容量</td><td>116</td><td>151</td><td>151</td><td>241</td><td>300</td></tr><tr><td></td><td>VASスケール</td><td></td><td>5</td><td>7</td><td>10</td><td>11</td></tr></table>			FS	FDV	NDV	通常最大尿量	MDV	DO例	膀胱容量	116	177	256	318	414		VASスケール	2	4	5	10	12.5	膀胱知覚増強例 (Sensory Urgency)	膀胱容量	116	151	151	241	300		VASスケール		5	7	10	11
		FS	FDV	NDV	通常最大尿量	MDV																																						
DO例	膀胱容量	116	177	256	318	414																																						
	VASスケール	2	4	5	10	12.5																																						
膀胱知覚増強例 (Sensory Urgency)	膀胱容量	116	151	151	241	300																																						
	VASスケール		5	7	10	11																																						

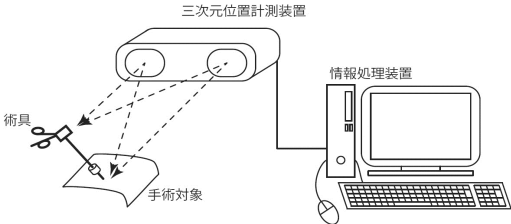
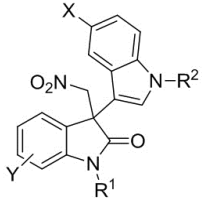
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
247	脳送達用キャリアおよびその用途	特願2012-253363	2012/11/19	降幡 知巳	大学院薬学研究院	特許第6108265号	2017/3/17	【課題】新規なペプチド性薬剤脳送達用キャリアを提供する。 【解決手段】本発明の一形態によれば、以下の(a)および(b)のいずれかに記載のポリペプチドからなる、脳送達用キャリアが提供される: (a) 配列番号: 1に記載のアミノ酸配列を含むポリペプチド。 (b) 配列番号: 1に記載のアミノ酸配列において、1または数個のアミノ酸が付加、欠失、挿入もしくは置換されたアミノ酸配列を含むポリペプチドであって、脳移行活性を有するポリペプチド。 【選択図】図1	
248	ビスオキサゾリジン配位子およびそれを用いた触媒	特願2012-263878	2012/11/30	荒井 孝義	大学院理学研究科	特許第5971804号	2016/7/22	【課題】ビスオキサゾリジン配位子の製造方法とそれを用いた触媒反応を確立すること。 【解決手段】 下記式(1)又は(2)に示されるビスオキサゾリジン配位子。  (ただし、R1はCH3、CH(CH3)2、CH2CH(CH3)2、CH(CH3)C2H5、C(CH3)3、Ph、CH2Ph、のいずれかであり、R2はCH3、C2H5、Ph、のいずれかであり、R3はH、CH3、Br、NO2のいずれかでである。ここで、Phは芳香環を示す。) 【選択図】なし	なし

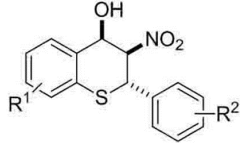
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
249	非特異的腎集積が低減された放射性標識ポリペプチド作製用薬剤	特願2013-547226	2012/11/30	荒野 泰	大学院薬学研究院	特許第6164556号	2017/6/30	本発明は、下式(I)で示される化合物、標的部に結合できるポリペプチドを結合させた該化合物、または前記化合物の薬理学的に許容される塩、並びに、標的部に結合できるポリペプチドを結合させた該化合物またはその薬理学的に許容される塩と放射性同位体とから形成される錯体構造を有する錯体を含む放射性標識薬剤を提供する: 【化1】  (I) ここで、R1は水素原子、メチル基、またはカルボキシメチル基であり、R2はCH2-CH2-NH-CH2-COOH、CH2-CH2-N(CH2-COOH)2、CH2-CH2-NH2、CH2-CH2-NHR3、カルボキシメチル基、またはCH2-CH2-NR3R4であって、R3およびR4はそれぞれ異なってもよいアルキル基であり、X、Y、およびZはいずれもそれぞれ異なってもよいアミノ酸であり、Fはポリペプチドと結合することができる官能基である。本発明に係る化合物は、簡便な操作で製造でき、かつ標的部位への高い集積性を有し非特異的腎集積が低減された放射性標識薬剤を与える。	
250	人工ポリクローナル免疫グロブリン組成物	特願2012-276866	2012/12/19	鈴木 和男	元大学院医学研究院	特許第6120133号	2017/4/7	【課題】治療効果および安全性が高く、かつ安定的な大量供給が可能な人工ポリクローナル免疫グロブリン組成物を提供すること。 【解決手段】免疫グロブリンの重鎖可変領域と重鎖定常領域1とヒンジ部分(VH-CH1-hinge)とからなる単鎖可変断片(ScFv、single chain variable fragmentともいう)であって、該重鎖可変領域が互いに異なる複数種の単鎖可変断片であり、特定のアミノ酸配列で表される204のポリペプチドを有効成分として含む人工ポリクローナル免疫グロブリン組成物を提供する。 【選択図】なし	なし
251	人工多能性幹細胞から分化した肝細胞を含む細胞群から、肝細胞からなる細胞培養物を得る方法	特願2012-286978	2012/12/28	富澤 稔	大学院医学研究院	特許第6057418号	2016/12/16	【課題】人工多能性幹細胞(induced pluripotent stem cells: 以下、iPS細胞と略称する)から分化誘導した肝細胞と未分化のiPS細胞とを含む細胞群から、実質的に肝細胞からなる細胞培養物を得る方法を提供する。 【解決手段】iPS細胞から分化誘導した肝細胞と未分化のiPS細胞とを含む細胞群を、血清または血清代替物質を含む組成の培地で培養する工程を含む、該細胞群から実質的に肝細胞からなる細胞培養物を分別して得る。 【選択図】なし	なし

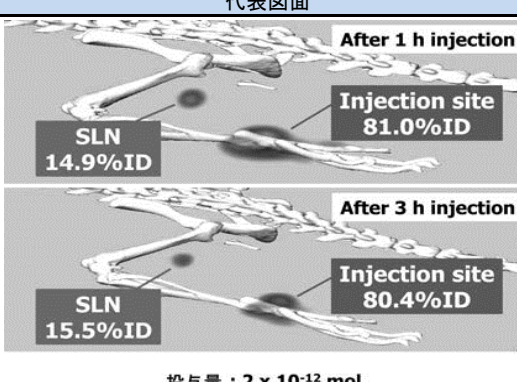
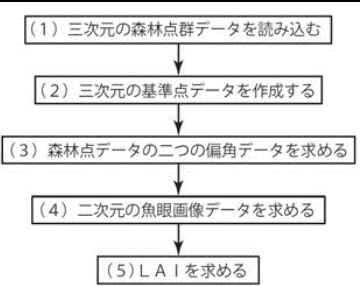
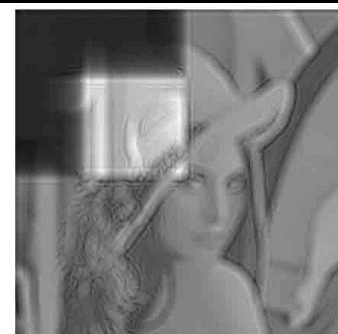
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
252	手術工程解析プログラム	特願2013-017972	2013/1/31	中村 亮一	フロンティア医工学センター	特許第6143259号	2017/5/19	【課題】手術の作業環境に及ぼす影響を最小限にとどめ、より少ない種類のデータで信頼性の高い手術工程を解析することのできるプログラムを提供する。 【解決手段】本発明の一観点に係る手術工程解析プログラムは、コンピュータに、術具先端位置情報データを複数記録する手順、複数の術具先端位置情報データに基づき術具先端位置分布データを作成する手順、を実行させる。 また、本発明の他の一観点に係る手術工程解析プログラムは、コンピュータに、手術前術部データを記録する手順、術具先端位置情報データを複数記録する手順、複数の術具先端位置情報データに基づき手術済術部データを作成する手順、手術前術部データ及び手術済術部データに基づき進捗データを算出させる手順、を実行させる。 【選択図】 図5	
253	非対象光学活性ビスインドール化合物及びその塩の少なくともいずれかをを用いてWntシグナル伝達を阻害する方法及びそれを有効成分として含むWntシグナル伝達阻害剤	特願2013-032667	2013/2/21	荒井 孝義	大学院理学研究科	特許第6085881号	2017/2/10	【課題】新規なWnt/β-cateninシグナル伝達阻害剤を創出する。 【解決手段】下記式(1)で示される光学活性非対象ビスインドールを有効成分として含むWntシグナル伝達阻害剤。  (1) ここでR1およびR2は、おのおの独立して、H、Me、Et、Bn、Ts、Ms、Ac、Bz、MOM、MEM、SEM、Allocを用いることができる。また、XおよびYは、おのおの独立して、H、Me、Et、Bn、ハロゲン、アルコキシ、アミノ、アシル基、ニトロ基を用いることができる。XおよびYは、インドールもしくはオキシインドール骨格のベンゼン環上であれば、いずれ位置に複数結合していてもかまわない。 【選択図】なし	なし

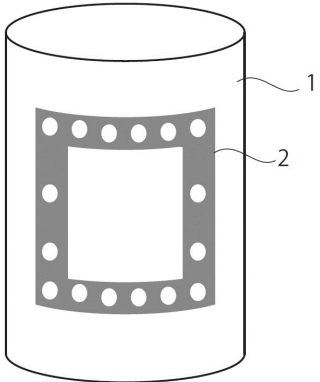
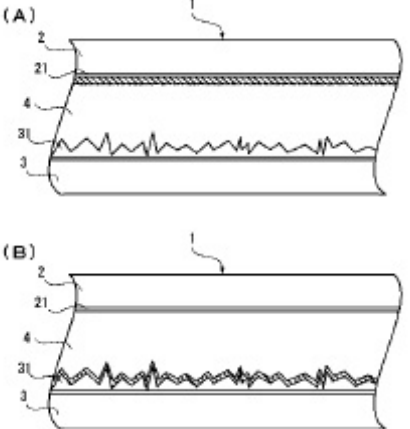
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
254	光学活性チオクロマン誘導体とその製造方法	特願2013-044110	2013/3/6	荒井 孝義	大学院理学研究科	特許第6061223号	2016/12/22	【課題】チオクロマン誘導体を合成する手法を確立すること。 【解決手段】 下記式(2)で示されるチオクロマン誘導体。  (2) (ここでR1およびR2は、おのおの独立して、H、Me、Et、tBu、ハロゲン、アルコキシ、ニトロ基を用いることができる。R1およびR2は、いずれ位置に複数結合していてもかまわない。) 【選択図】なし	なし
255	ヒト多能性幹細胞から肝前駆細胞への分化誘導方法	特願2013-058148	2013/3/21	富澤 稔	大学院医学研究院	特許第6150108号	2017/6/2	【課題】ヒトiPS細胞から大量の肝前駆細胞を短期間で製造する方法を開発する。 【解決手段】本発明は、胎児や成人の肝細胞が保有し、ヒト人工多能性幹細胞が非保有の転写因子の遺伝子を組合せてヒト人工多能性幹細胞へ導入し、増殖、分化させるための増殖促進剤の組合せを含む培地中で基質に接着して単層培養させることにより、ヒト人工多能性幹細胞から肝前駆細胞へ短期間で大量に分化誘導し得る分化誘導法、該方法で製造された肝前駆細胞、該細胞を含む肝臓への移植用細胞組成物を提供する。前記転写因子としてFOXA2、GATA4、HEXおよびC/EBPαが、前記増殖促進剤としてオンコスタチンM、上皮成長因子、レチノイン酸、デキサメタゾン、インシュリン、トランスフェリンおよび亜セレン酸イオンが挙げられる。 【選択図】なし	なし
256	マクロファージマンノース受容体を認識する新規多糖金属錯体化合物、及び、その医薬組成物	特願2013-057776	2013/3/21	荒野 泰	大学院薬学研究院	特許第6163698号	2017/6/30	【課題】煩雑な操作を必要とせず、簡便に製造可能であり、マスクング等の問題を解消し、マンノース受容体を有する細胞が集簇する臓器又は組織に対して正確な診断が可能な新規金属錯体化合物、及び、これを含有する医薬組成物を開発する。 【解決手段】マンノースを成分として含む多糖化合物に、金属錯体を形成するためのリンカーが結合し、金属と金属錯体を形成している多糖金属錯体化合物、その溶媒和物、又は塩を製造し、マンノース受容体を有する細胞が集簇及び／又は存在する臓器、組織及び／又は病変を高集積で正確に検出するための、新規金属錯体化合物、及び、それらの塩、並びに、それらを含有する医薬組成物を提供する。 【選択図】なし	なし

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
257	マクロファージマンノース受容体を認識する新規多糖金属錯体化合物、及びその医薬組成物	特願2017-093989	2013/3/21	荒野 泰	大学院薬学研究院	特許第6329302号	2018/4/27	【課題】煩雑な操作を必要とせず、簡便に製造可能であり、マスキング等の問題を解消し、マンノース受容体を有する細胞が集簇する臓器又は組織に対して正確な診断が可能な新規金属錯体化合物、及び、これを含有する医薬組成物を開発する。 【解決手段】マンノースを成分として含む多糖化合物に、金属錯体を形成するためのリンカーが結合し、金属と金属錯体を形成している多糖金属錯体化合物、その溶媒和物、又は塩を製造し、マンノース受容体を有する細胞が集簇及び／又は存在する臓器、組織及び／又は病変を高集積で正確に検出するための、新規金属錯体化合物、及び、それらの塩、並びに、それらを含有する医薬組成物を提供する。 【選択図】図4	
258	魚眼画像データ作成プログラム及びLAI算出プログラム	特願2014-560625	2013/3/29	加藤 顕	大学院園芸学研究科	特許第6044052号	2016/11/25	本発明の一観点にかかる魚眼画像データ作成プログラムは、コンピュータに、三次元の森林点群データを読み込むステップ、三次元の基準点データを作成するステップ、基準点データを基準として、森林点群データを構成する森林点データの少なくともいずれかの二つの偏角データを求めるステップ、森林点データの二つの偏角データに基づき二次元の魚眼画像データを作成するステップ、魚眼画像データに基づいてLAIを求めるステップ、を実行させる。 【選択図】図1	
259	S-1による癌化学療法の投与効果の判定方法	特願2013-071040	2013/3/29	丹沢 秀樹	大学院医学研究院	特許第6175711号	2017/7/21	【課題】テガフル、ギメラシル、およびオテラシルカリウムの3成分を有効成分として配合した抗癌剤(以下、S-1と略称する)による癌の化学療法を施行する前に、その治療効果を迅速、簡便、かつ正確に判定する方法を提供する。 【解決手段】診断対象者から採取した生体由来試料における、デコリン遺伝子の発現を測定するステップaと、測定結果として得られた該遺伝子の発現量に基づいてS-1の投与効果を判定するステップbと、を含むS-1化学療法における投与効果判定方法。 【選択図】なし	なし
260	回折画像データ作成プログラム	特願2013-081685	2013/4/9	下馬場 朋禄	大学院工学研究院	特許第6241864号	2017/11/17	【課題】不必要なサンプリングを削減し、計算時間の短縮、メモリ使用量の削減を行うことのできる回折画像データ作成プログラムを提供すること。 【解決手段】本発明にかかる回折画像データ作成プログラムは、コンピュータに、元画像データに不等間隔フーリエ変換を用いて回折画像データを作成させることを特徴の一つとする。なおこの場合において、限定されるわけではないが、サンプリングマップデータを用いて不等間隔フーリエ変換を行うことが好ましく、さらには、サンプリングマップデータは複数の象限に分割され、不等間隔フーリエ変換において、象限の境界から各画素までの距離の算出を行うことが好ましい。 【選択図】図5	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

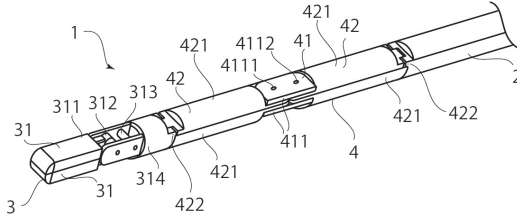
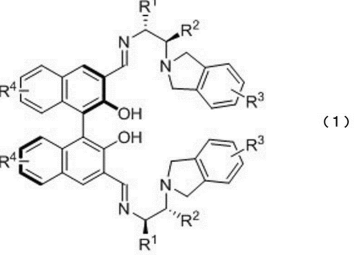
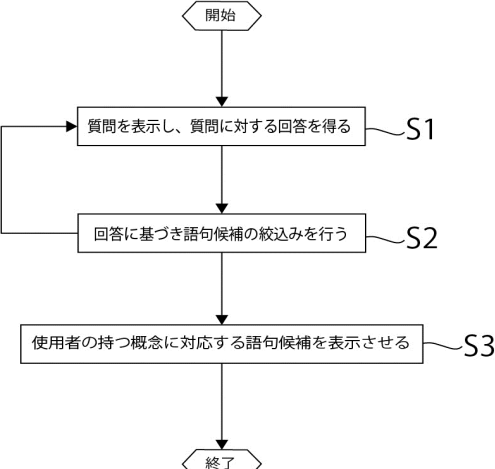
No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
261	テルペン合成酵素をコードする遺伝子のスクリーニング方法	特願2013-104412	2013/5/16	梅野 太輔	大学院工学研究院	特許第6205642号	2017/9/15	【課題】テルペンの生物大量生産系を構築するために使用される、テルペン生産経路に関わる酵素群およびそれらの変異体の探索方法を提供すること。 【解決手段】テルペン合成酵素の「基質消費能」に基づき、テルペン合成酵素をスクリーニングする方法を提供する。具体的には、酵素活性および／またはその発現が野生型酵素と比較して増強されたテルペン合成酵素変異体を導入した細胞に被検遺伝子を導入して培養し、細胞に導入した被検遺伝子のうち生存した細胞に導入した被検遺伝子を選択することにより、テルペン合成に関わる酵素をコードする遺伝子および／またはその変異体をスクリーニングする方法を提供する。 【選択図】なし	なし
262	マーカー、マーカーが付された物体、マーカー解析方法、及び画像作成方法。	特願2013-111267	2013/5/27	眞鍋 佳嗣	大学院工学研究院	特許第6213949号	2017/9/29	【課題】曲面を有する物体に付された場合であっても精度よく検出することのできるマーカー、マーカーが付された物体、マーカー解析方法、及び画像作成方法を提供する。 【解決手段】一列に配列される複数の点からなり略平行に配置される一対の第一の点群と、第一の点群の列に対し略垂直方向な方向に一列に配置され複数の点からなり略平行に配置される一対の第二の点群と、を備える。物体1は、一列に配列される複数の点からなる第一の点群と、第一の点群に対し略垂直方向に配置された複数の点からなる第二の点群と、を備えたマーカー2が付される。マーカー解析方法は、画像データに基づき第一の点群データ及び第二の点群データを取得し、方向データを求める。画像作成方法は、方向データを求め、挿入画像データに曲面変換処理を行い、さらに曲面挿入画像データを作成し合成する。 【選択図】図1	
263	調光素子の調光方法	特願2014-518678	2013/5/28	小林 範久	大学院工学研究院	特許第6256881号	2017/12/15	透過型でも使用が可能であり、高いコントラスト比を可能とする高品質な鏡状態を有し、更に、多色表示を可能とする調光素子の調光方法を提供する。このため本発明に係る調光素子の調光方法は、一対の基板と、一対の基板の対向する面に形成される一対の電極と、一対の電極の間に挟持され、銀を含むエレクトロクロミック材料及びメディエータを含む電解質層と、を有する調光素子に対し、一対の電極間に印加する印加電圧を、一の調光期間において変化させる。	

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
264	血管組織およびその作製方法	特願2014-531532	2013/6/20	関 実 山田 真澄	大学院工学研究院	特許第6241890号	2017/11/17	少なくとも部分的に細胞によって構成される血管組織を生体外において作製するための既存の手法において必須であった、複雑な位置制御装置および操作、および、多段階にわたる煩雑なプロセスを必要とせず、簡便な操作によって、層状構造、中空構造、分岐構造のすべての構造を兼ね備えた機能的な血管組織を作製する新規手法を提供するとともに、その新規手法によって得られる血管組織を提供する。多価の金属カチオン又は多価の金属カチオンを含む無機塩、を含む素材によって構成される流路構造に対し、細胞を懸濁させた第1のアルギン酸ナトリウム水溶液を導入し、前記流路構造の内壁に細胞を含む第1のアルギン酸ハイドロゲル層を形成した後、前記流路構造内に残存するゲル化していない前記第1のアルギン酸ナトリウム水溶液を除去する、血管組織の作製方法を利用する。	
265	視野制限画像データ作成プログラム及びこれを用いた視野制限装置	特願2013-141794	2013/7/5	吉岡 陽介	大学院工学研究院	特許第6206949号	2017/9/15	【課題】日常的な行為に近い状態で中心視と周辺視を区別して視野を制限、評価できる視野制限画像データ作成プログラム及びこれを用いた視野制限装置を提供する。 【解決手段】上記課題を解決する一の観点にかかる視野制限画像データ作成プログラムは、実行することによってコンピュータに、眼球運動データを取得する手段、眼球運動データに基づき視野制限画像データを作成する手段、視野制限画像データを表示させる手段として機能する。 また、本発明の他の一観点に係る視野制限装置は、使用者の眼球を撮影する眼球運動撮影用カメラ装置と、使用者の前面に配置されるディスプレイ装置と、眼球運動撮影用カメラ装置が取得した画像データに基づき眼球運動データを取得し、眼球運動データに基づき視野制限画像データを作成し、視野制限画像データを表示させる視野制限画像データ作成装置と、を備える。 【選択図】 図1	

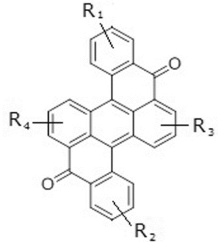
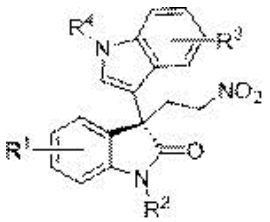
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

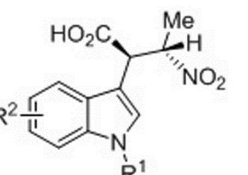
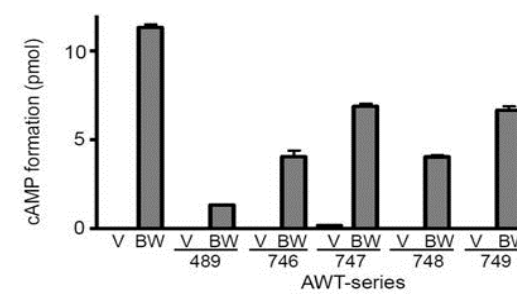
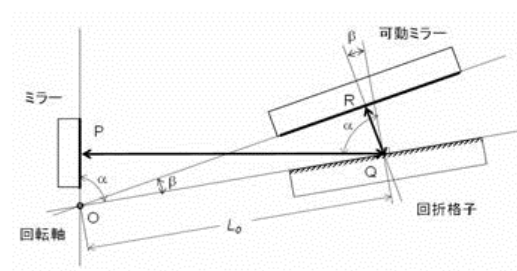
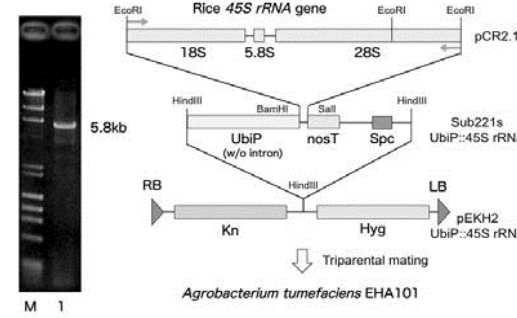
No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
266	電子機器	特願2014-528144	2013/7/29	小倉 裕直	大学院工学研究院	特許第6128659号	2017/4/21	発熱部品の温度上昇を抑制し得る新規な手段を備える電子機器を提供する。発熱部品を備える電子機器(20)において、発熱部品(11)が発する熱によって吸熱反応を示す化学蓄熱材を収容した反応室(1)、化学蓄熱材の吸熱反応によって生じる凝縮性成分を凝縮または蒸発させるための凝縮蒸発室(3)、および凝縮性成分が反応室(1)と凝縮蒸発室(3)との間を移動可能に反応室(1)と凝縮蒸発室(3)とを連絡する連絡部(5)を備えるデバイス(またはケミカルヒートポンプ)(10)を設ける。	図1
267	手術支援プログラム及び手術支援システムの作動方法	特願2013-157208	2013/7/29	羽石 秀昭	フロンティア医工学センター	特許第6327695号	2018/4/27	【課題】カテーテル手術において、リアルタイムで、より術者に血管部位を認識しやすくする手術支援プログラム及び手術支援方法を提供する。 【解決手段】手術支援プログラムは、コンピュータに、画像データを一周期において複数取得する事前画像データ取得ステップ、取得した画像データから血管部位データを取得する血管部位データ取得ステップ、取得した血管部位データを、順次取得する画像データに対応させて合成画像データを作成する合成画像データ作成ステップ、を実行させる。また、他の一観点に係る手術支援方法は、画像データを一周期において複数取得する事前画像データ取得ステップ、取得した画像データから血管部位データを取得する血管部位データ取得ステップ、取得した血管部位データを、順次取得する画像データに対応させて合成画像データを作成する合成画像データ作成ステップ、を備える。 【選択図】図1	
268	金属光沢を有する膜及びこれが形成されてなる物品並びに金属光沢を有する膜の製造方法	特願2014-528210	2013/7/31	星野 勝義	大学院工学研究院	特許第6308624号	2018/3/23	より製造が容易で、経時劣化の少ない、金属光沢を有する膜及びこれが形成されてなる物品並びに金属光沢を有する膜の製造方法を提供する。そのため本発明の一観点に係る金属光沢を有する膜は、チオフェン重合体を含むことを特徴とする。また、本発明の他の一観点に係る金属光沢を有する膜の製造方法は、酸化剤を用いてチオフェンを重合してチオフェン重合体を含む溶液とし、チオフェン重合体を含む溶液を物品に塗布して乾燥させることを特徴とする。また本発明の他の一観点に係る金属光沢を有する膜が形成されてなる物品は、チオフェン重合体を含むことを特徴とする。	FIG. 1: AA Film BB Article

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
269	手術用器具	特願2013-167175	2013/8/10	中村 亮一	フロンティア医工学センター	特許第6202430号	2017/9/8	【課題】非侵襲性を確保しつつ、操作性・強度に優れ、パーツ脱落のおそれも少なく、器具の形態変化の手順がより簡単な手術用器具を提供する。 【解決手段】本発明にかかる手術用器具1は、主軸部2と、重ねあわされて開閉可能な挟み部材を有する第一の把持部3と、前記主軸部2に対し前記第一の把持部3を折り曲げる折曲部41と、前記折曲部41の両側に備えられる一対の第二の把持部4と、を有する。またこの場合において、第二の把持部は、それぞれが重ねあわされて開閉可能な挟み部材を備える請求項1記載の手術用器具。 【選択図】 図1	
270	ピナフトール骨格を有するビスアミノイミン配位子及び触媒	特願2013-169911	2013/8/19	荒井 孝義	大学院理学研究院	特許第6085884号	2017/2/10	【課題】柔軟性に富み、個々の反応に柔軟に対応する反応場を供給する配位子及びそれを用いた触媒の提供。 【解決手段】式(1)で示される配位子。[R1～R4は水素又は各種置換基]  (1) 【選択図】なし	なし
271	思い出し支援用プログラム、思い出し支援方法、及び思い出し支援装置。	特願2013-170009	2013/8/19	黒岩 真吾	大学院工学研究院	特許第6386703号	2018/8/17	【課題】喚語困難者であっても、自身で喚語を可能とする思い出し支援用プログラム、思い出し支援方法、及び、思い出し支援装置を提供する。 【解決手段】本発明に係る思い出し支援用プログラムは、コンピュータに、質問を表示し質問に対する回答を得る手順、使用者の持つ概念に対応する語句候補を表示させる手順、を実行させる。また、本発明に係る思い出し支援方法は、質問を表示し質問に対する回答を得る手順、使用者の持つ概念に対応する語句候補を表示させる手順を含む。また、本発明に係る思い出し支援装置は、質問を表示する質問表示部、質問に対する回答を入力する回答入力部、使用者の持つ概念に対応する語句候補を表示させる語句候補表示部と、を備える。 【選択図】図1	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
272	可溶化剤及びこれを用いたカーボンナノ材料層の形成方法	特願2013-185686	2013/9/6	高原 茂	大学院工学研究院	特許第6164587号	2017/6/30	【課題】カーボンナノ材料の可溶化剤及びこれを用いたカーボンナノ材料層の形成方法を提供。 【解決手段】アントラセン誘導体である可溶化剤。  該可溶化剤及び溶媒を含む溶液にカーボンナノ材料を溶解し塗布する形成方法。 【選択図】なし	
273	光学活性非対称ビスインドール化合物及びその製造方法	特願2013-185950	2013/9/9	荒井 孝義	大学院理学研究院	特許第6188066号	2017/8/10	【課題】光学活性非対称ビスインドール化合物を合成する手法を確立すること。 【解決手段】 下記式(2)で示される光学活性非対称ビスインドール化合物。  (2) (ここでR1およびR3は、おのの独立して、H、ハロゲン、アルキル基、又はアルコキシ基である。またR1およびR3は、インドールもしくはオキシインドール骨格のベンゼン環上であれば、いずれ位置に複数結合していてもかまわない。また、R2は、エステル基であり、R4はH、Me、Et、Bn、Boc、MOM、MEM、SEM、又はAllocである。) 【選択図】なし	なし

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
274	インドール化合物、DPプロスタノイド受容体アンタゴニスト、及びDPプロスタノイド受容体アンタゴニストの使用。	特願2013-192422	2013/9/17	荒井 孝義	大学院理学研究院	特許第6168520号	2017/7/7	【課題】新規なDPプロスタノイド受容体アンタゴニストの提供。 【解決手段】下記式(1)で示される光学活性非対象インドール化合物。  (1) (R1は、H、Me、Et、Bn、Ts、Ms、Ac、Bz、MOM、MEM、SEM、Allocを示す。R2は、H、Me、Et、Bn、ハロゲン、アルコキシ、アミノ、アシル基、ニトロ基を示し、インドール骨格の炭素上いずれの位置に複数結合していてもよい。) 【選択図】図1	
275	外部共振器レーザ	特願2014-536892	2013/9/19	室 清文	元大学院理学研究科	特許第6206974号	2017/9/15	広帯域にわたってモードホップフリーな波長同調を可能にする波長可変レーザを提供する。 上記課題を解決するため、Littman型外部共振器半導体レーザにおいて、回転軸と回折格子面に一定のオフセットを与えることにより、レーザチップの群速度分散を補償し、広帯域なモードホップフリー同調を可能にする。より具体的には、光を放出するレーザチップと、レーザチップから放出されたビームをコリメートするレンズと、コリメートされた光を回折させる回折格子が固定されてなる支持体と、回折格子で回折されたビームを反射する可動ミラーと、を有し、可動ミラーを前記可動ミラーの表面が属する面と回折格子の表面が属する面の交線を回転軸として回転させるLittman型の外部共振器レーザ配置から、回折格子を前記可動ミラーから遠ざかる方向に所定量平行移動させた外部共振器レーザとする。	
276	形質転換体及びその作出方法	特願2013-197595	2013/9/24	中村 郁郎	大学院園芸学研究科	特許第6410335号	2018/10/5	【課題】植物等の真核生物の生長量(バイオマス)を数倍に増大する形質転換体の作出方法および当該技術により作出された形質転換体を提供する。 【解決手段】本発明の真核生物の形質転換体の作出方法は、RNAポリメラーゼIIにより転写される遺伝子のプロモータ配列に、異なる種から単離した45S rRNA遺伝子の少なくとも一部を連結した構築物を含む形質転換用ベクターを用いる。 また、本発明の真核生物の形質転換体は、RNAポリメラーゼIIにより転写される遺伝子のプロモータ配列に、異なる種から単離した45S rRNA遺伝子の少なくとも一部を連結した構築物を含む形質転換用ベクターを用いて作出される。 【選択図】図1	 図1 イネの45S rRNA遺伝子のPCR増幅(左)とバイナリーベクターの構築(右)

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

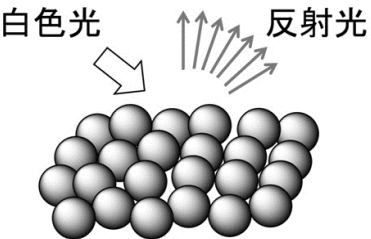
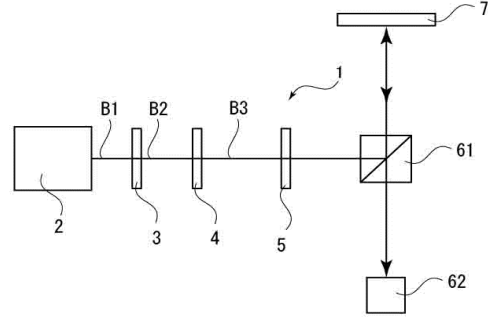
No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
277	エレクトロクロミック表示素子及びその製造方法	特願2013-200664	2013/9/26	星野 勝義	大学院工学研究院	特許第6274490号	2018/1/19	【課題】汎用性が高く、レアメタルを用いずとも消え残りが少ない良好な表示を可能とするエレクトロクロミック表示素子及びその製造方法を提供する。 【解決手段】 本発明の一観点に係るエレクトロクロミック表示素子の製造方法は、酸化スズナノ粒子及び酸化亜鉛ナノ粒子の少なくともいずれかの導電性ナノ粒子とピオロゲン化合物とを含む溶液を調製する調整工程と、溶液を基板上に塗布する塗布工程を有する。 また、本発明の他の一観点に係るエレクトロクロミック表示素子は、一対の基板と、基板の対向する一対の面にそれぞれ形成される電極と、一対の基板間に挟持される媒体層と、を有するエレクトロクロミック表示素子であって、電極の少なくとも一方は、酸化スズナノ粒子及び酸化亜鉛ナノ粒子の少なくともいずれかの導電性ナノ粒子とピオロゲン化合物とを含む膜を有する。 【選択図】 図1	
278	脳循環障害の予防剤および／または治療剤	特願2013-208586	2013/10/3	桑原 聡	大学院医学研究院	特許第6386713号	2018/8/17	【課題】脳梗塞等の脳循環障害を予防および／または治療するための有効な手段を提供する。 【解決手段】本発明によれば、パルミチン酸レチノールを有効成分として含有する、脳循環障害の予防剤および／または治療剤が提供される。 【選択図】図2	
279	不随意運動の予防及び／又は治療組成物	特願2013-209692	2013/10/4	伊豫 雅臣	大学院医学研究院	特許第6381883号	2018/8/10	【課題】不随意運動の予防及び／又は治療組成物、特にジストニアの予防及び／又は治療組成物を提供すること。 【解決手段】ドパミンD2／D3受容体アゴニストであるプラミペキソール塩酸塩水和物を、不随意運動を生じる遅発性ジストニア発症患者に投与することにより、遅発性ジストニアを改善できることを確認して、本発明の不随意運動の予防及び／又は治療組成物(特に、ジストニアの予防及び／又は治療組成物)を完成した。 【選択図】なし	なし

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
280	燃料電池	特願2013-211926	2013/10/9	泉 康雄	大学院理学研究院	特許第6213958号	2017/9/29	【課題】二酸化炭素を発生させることなく、より簡便な構成により電気を発生することのできる光触媒を用いた水を燃料とする燃料電池を提供する。 【解決手段】燃料電池11は、酸水溶液2と、窒素ガスまたは酸素ガス3と、酸水溶液2中に浸される一対の電極4と、酸水溶液2中の水を分解する光触媒5と、酸水溶液2、窒素ガスまたは酸素ガス3、一対の電極4及び光触媒5を収容し、少なくとも一部が透過性を有する部材で構成される収容部材6と、を有する。 【選択図】図1	
281	笑い促進プログラム及び笑い促進装置	特願2013-214285	2013/10/13	大武 美保子	大学院工学研究院	特許第6206913号	2017/9/15	【課題】笑うきっかけを提供することによって笑いを促進する笑い促進プログラム及び笑い促進装置を提供する。 【解決手段】本発明の一観点に係る笑い促進プログラムは、コンピュータに、顔画像データに基づき笑顔度データを算出し、前記笑顔度データに基づき笑い声データの再生の可否の判断を行い、前記笑い声データを再生すると判断した場合、前記笑い声データを再生させる。また、本発明の他の一観点に係る笑い促進装置は、撮像装置と、スピーカーと、前記撮像装置及び前記スピーカーを制御する情報処理装置と、を備えた笑い促進装置であって、前記情報処理装置は、顔画像データに基づき笑顔度データを算出する笑顔度データ算出部と、前記笑顔度データに基づき笑い声データの再生の可否の判断を行う笑い可否判断部と、前記笑い声データを再生すると判断した場合、前記笑い声データを再生する笑い声再生部と、を有する。 【選択図】図1	
282	内視鏡用の穿刺針	特願2013-228683	2013/11/1	上里 昌也	大学院医学研究院	特許第6430697号	2018/11/9	【課題】超音波内視鏡下穿刺吸引生検法(EUS-FNA)を行う際に、病変部が小さい場合や硬度が高い場合であっても、効果的に組織採取を行うことができる穿刺針を提供する。また、超音波内視鏡下穿刺吸引生検法(EUS-FNA)であっても、免疫染色に十分な組織を得ることができる穿刺針を提供する。更に、1回当たりの組織採取量を向上させて穿刺回数を減少させることができる穿刺針を提供する。 【解決手段】少なくともチューブ状に形成された鞘部材と、当該鞘部材の中を進退自在に挿通された針部材とを有する穿刺針であって、当該針部材の先端側には、当該針部材の軸回りの回転によって組織を採取する回転刃が設けられている事の特徴とする穿刺針を提供する。 【選択図】図5	

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
283	細胞評価用ハイドロゲル基材、細胞評価用ハイドロゲル基材の作製方法および細胞評価手法	特願2015-500323	2014/2/17	関 実	大学院工学研究院	特許第6296620号	2018/3/2	従来技術と比較してより生体内環境に近い条件下において、正確に癌細胞の浸潤挙動を評価するために、3次元的な環境であり、かつ複数種の細胞が共存する新規細胞培養系を構築する。そのため、ハイドロゲルによって構成され、ファイバー状、あるいは、シート状の形態を有し、長さ方向の軸に対して垂直な平面における断面Sの内部において、周縁部が断面Sの周縁部に接しておらず、かつ、第一の細胞が存在する、領域Aを有し、さらに、領域Aは、断面Sにおける領域A以外の領域Bと比較して、弾性率の低いハイドロゲルによって構成されている、細胞評価用ハイドロゲル基材を用いる。	(a) 癌細胞以外の細胞 (AA) 癌細胞 (BB) (b) 培養 (CC) AA Non-cancer cells BB Cancer cells CC Incubate
284	光渦発生装置及びこれに用いられる連続螺旋型位相板並びに光渦発生方法	特願2014-039285	2014/2/28	宮本 克彦	大学院工学研究院	特許第6188079号	2017/8/10	【課題】テラヘルツ帯の光渦を発生させることができる連続螺旋型位相板、及び光渦発生方法を提供する。 【解決手段】連続螺旋型位相板は、テラヘルツ帯域において透過性を有するオレフィンポリマー樹脂により構成される。この場合において、段差部の厚みは$1\mu\text{m}$以上$500\mu\text{m}$以下の範囲であることが好ましい。また、他の一観点に係る光渦発生方法は、テラヘルツ帯域において透過性を有するオレフィンポリマー樹脂により構成される連続螺旋型位相板にテラヘルツ波長範囲のレーザー光を照射して光渦を発生させる。 【選択図】図2	
285	放射性核種標識オクトレオチド誘導体	特願2014-047025	2014/3/11	荒野 泰	大学院薬学研究院	特許第6410339号	2018/10/5	【課題】オクトレオチドの2官能性キレート化合物、さらに、ソマトスタチン受容体に結合する安定な放射性金属との錯体化合物を有効成分とする臓器疾患又は消化管神経内分泌腫瘍の診断用又は治療用の薬剤を開発する。 【解決手段】EDTA、DTPA、シクロヘキシルDTPA、DOTA及びNOTAの骨格炭素にp-ベンジルカルボン酸誘導体を導入することにより、オクトレオチド誘導体に固相合成法で、金属との錯体形成部位とは独立したカルボン酸を導入した新規化合物を提供する。さらに、該化合物の^{111}In等の放射性金属で標識した錯体化合物を有効成分として含有する放射性医薬組成物、及び該放射性医薬組成物を製造するための医薬組成物を提供する。 【選択図】なし	なし

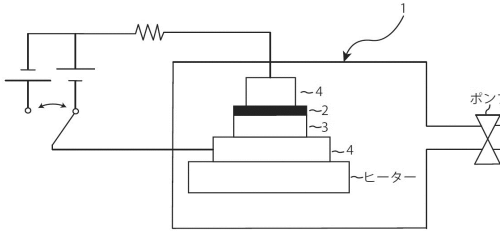
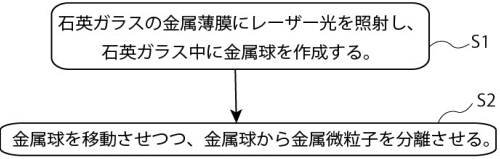
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
286	カラー反射膜、カラー反射板、並びに、ポリドーパミン及びその誘導体の少なくともいずれかからなる単分散な黒色微粒子の製造方法。	特願2014-074922	2014/3/31	桑折 道済	大学院工学研究院	特許第6153230号	2017/6/9	【課題】従来にはない新規な構造発色材料及びこれを用いたカラー反射膜、更には単分散ポリドーパミン黒色微粒子の製造方法を提供する。 【解決手段】本発明の一観点にかかるカラー反射膜は、ポリドーパミン及びその誘導体の少なくともいずれかからなる黒色微粒子を含む。 また、本発明の他の一観点に係る、ポリドーパミン及びその誘導体の少なくともいずれかからなる単分散な黒色微粒子の製造方法は、水と、メタノールと、塩基と、を含む重合用溶液にドーパミン及びその誘導体の少なくともいずれかを加えて重合させる。 【選択図】図1	
287	有機螺旋構造体の製造方法、及びそれにより製造される有機螺旋構造体	特願2015-515918	2014/5/12	尾松 孝茂	大学院工学研究院	特許第6363069号	2018/7/6	光渦の新たな応用の可能性を提供する。そのため、本発明にかかる有機螺旋構造体の製造方法は、光渦を、光異性化反応を示す高分子の表面に照射して、高分子の表面にナノスケールの螺旋構造を形成する。この場合において、光異性化反応を示す高分子は、アゾ系ポリマー及びスピロピラン系ポリマーの少なくともいずれかであることが好ましい。また、ナノスケールの螺旋構造を形成するステップを繰り返し、ナノスケールの螺旋構造を高分子の表面に二次元的に複数形成することが好ましい。また、光渦は、円偏光であることが好ましく、また、光渦の全角運動量Jは0でないことが好ましい。	
288	癌転移抑制剤	特願2014-102285	2014/5/16	丹沢 秀樹	大学院医学研究院	特許第6452954号	2021/12/21	【課題】癌転移の制御に効果を有する化合物を提供し、該化合物を含む癌治療用組成物を提供すること。 【解決手段】ミルタザピン若しくはその薬理学的に許容される塩またはそれらの溶媒和物からなる癌転移抑制剤、該癌転移抑制剤を含む癌治療用組成物、該癌転移抑制剤と付加的な抗癌活性成分を含む製剤とを組み合わせたことを特徴とする併用投与用癌治療剤、癌転移抑制および癌治療におけるミルタザピン若しくはその薬理学的に許容される塩またはそれらの溶媒和物の使用、並びにミルタザピン若しくはその薬理学的に許容される塩またはそれらの溶媒和物を癌疾患であると判定された対象に癌転移抑制に有効な量で投与することを含む癌転移抑制方法および癌治療方法。 【選択図】なし	なし

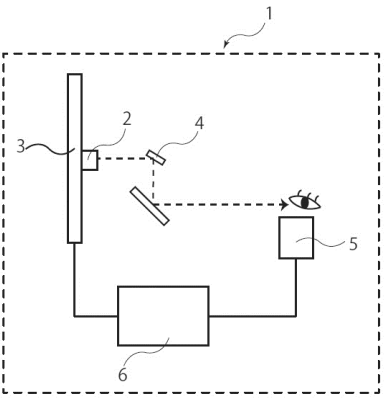
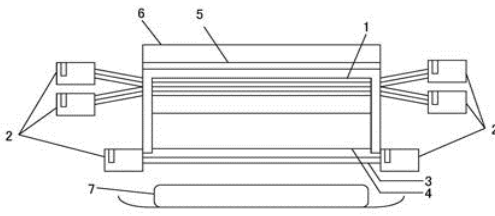
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
289	プロジェクタ装置	特願2014-109598	2014/5/27	眞鍋 佳嗣	大学院工学研究院	特許第6452959号	2018/12/21	【課題】より簡便な構成で広色域化を実現することのできるプロジェクタ装置を提供する。 【解決手段】 本発明の一の観点にかかるプロジェクタ装置は、互いに異なる発光波長帯域の光を発する複数の第一の光源と、第一の光源の光のうち特定の波長帯域を遮断する第一の帯域遮断フィルタと、互いに異なる発光波長帯域の光を発する複数の第二の光源と、第二の光源の光のうち特定の波長帯域を遮断する第二の帯域遮断フィルタと、を備えることを特徴とする。 【選択図】図1	
290	芳香環含有化合物並びに癌の予防剤および／または治療剤	特願2014-110822	2014/5/29	松下 一之	医学部附属病院	特許第6304594号	2018/3/16	【課題】多くの癌に対して、癌細胞特異的に治療効果を発揮できる癌の予防・治療手段を提供する。 【解決手段】本発明の一形態によれば、下記化学式1:で表される芳香環含有化合物が提供される。なお、化学式1中、m、A1、A2、およびA3の定義は、明細書中に記載された通りである。 【選択図】図8	
291	抗ミオシン調節軽鎖ポリペプチド抗体を含む炎症疾患治療用組成物	特願2015-519959	2014/5/30	中山 俊憲	大学院医学研究院	特許第6403668号	2018/9/21	CD69の機能を阻害する手段を提供し、それにより炎症反応の抑制を可能にする。すなわち、ミオシン調節軽鎖ポリペプチド(以下、Mylと略称する)、好ましくはMyl9、Myl12a、およびMyl12bを特異的に認識する抗体であって、MylとCD69との共存下での作用の効果を阻害する抗体を含む、炎症疾患の治療用組成物、炎症疾患を有すると診断されている対象に、治療有効量の該抗体を投与することを含む、炎症疾患の治療方法、並びに、MylとCD69との共存下での作用の効果を阻害する化合物の同定方法および該効果を阻害する化合物を選別することの特徴とする炎症疾患治療用候補化合物の同定方法を提供する。	なし

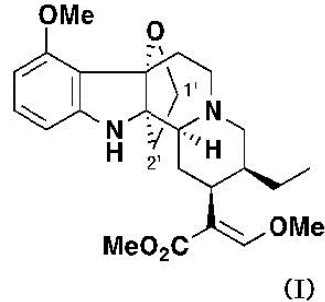
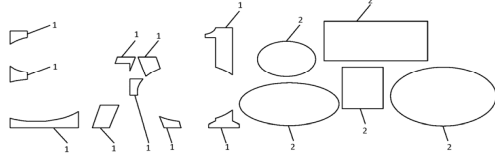
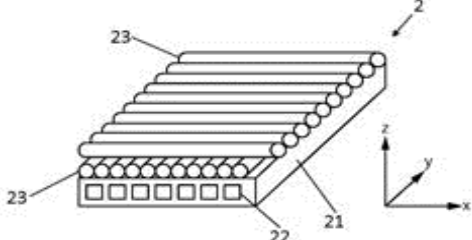
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
292	ガラス基板内に金属層を埋設する方法、金属層が埋設されたガラス基板を製造する方法	特願2014-132494	2014/6/27	松坂 壮太	大学院工学研究院	特許第6342730号	2018/5/25	【課題】ガラス基板の面方向に沿って金属層を埋設する方法及びガラス基板を提供すること。 【課題を解決するための手段】 本発明の一の観点に係るガラス基板内に金属層を埋設する方法は、金属が接触して配置されたガラス基板に、第一の電圧を印加した後、前記第一の電圧とは符号の異なる第二の電圧を印加することを特徴とする。また、本観点に係る金属は、金属薄膜であり、この金属薄膜は、限定されるわけではないが、銀及び銅の少なくともいずれかを含むことが好ましい。また、本観点に係るガラス基板は、限定されるわけではないが、アルカリ金属イオンを含むことが好ましい。 【選択図】図1	
293	人工多能性幹細胞(iPS細胞)から成る胚様体に複数の外来遺伝子を発現させる方法	特願2014-132622	2014/6/27	富澤 稔	大学院医学研究院	特許第6469371号	2019/1/25	【要約】 【課題】本発明は、複数の外来遺伝子並びに薬剤選択マーカー及び／又はレポーター遺伝子のiPS細胞への効果的なトランスフェクション方法と、該方法によって製造される前記外来遺伝子を100%発現する胚様体の形成方法と、該方法によって製造された胚様体の提供を目的とする。 【解決手段】本発明は、ヒト人工多能性幹細胞(iPS細胞)から成る胚様体に複数の外来遺伝子を発現させる方法であって、 1) エピソーマルベクターを用いて、iPS細胞に該外来遺伝子を非リボソーム型カチオン性脂質トランスフェクション試薬を用いてトランスフェクションする工程、 2) 該外来遺伝子がトランスフェクションされたiPS細胞を、薬剤選択マーカー及び／又はレポーター遺伝子を用いて選別する工程、 3) 選別されたiPS細胞を、非静的な培養方法で培養し、胚様体まで増殖させる工程を含む方法を提供する。 【選択図】なし	なし
294	ガラス中に金属微粒子を埋設する方法、金属微粒子が埋設されたガラスの製造方法	特願2014-134063	2014/6/30	比田井 洋史	大学院工学研究院	特許第6332856号	2018/5/11	【課題】より制約の少ない、ガラス中に金属微粒子を埋設する方法、金属微粒子が埋設されたガラス及びその製造方法を提供する。 【解決方法】本発明の一の観点に係る石英ガラス中に金属微粒子を埋設する方法は、金属薄膜が配置された石英ガラスの金属薄膜に石英ガラス側からレーザー光を照射して石英ガラス中に金属球を形成し、金属球を移動させつつ、金属球から金属微粒子を分離させて石英ガラス中に金属微粒子を埋設することを特徴とする。 また、本発明の他の一観点に係る金属微粒子が埋設された石英ガラスを製造する方法は、薄膜が配置された石英ガラスの薄膜に石英ガラス側からレーザー光を照射して石英ガラス中に金属球を形成し、金属球を移動させつつ、金属球から金属微粒子を分離させることを特徴とする。 【選択図】図1	

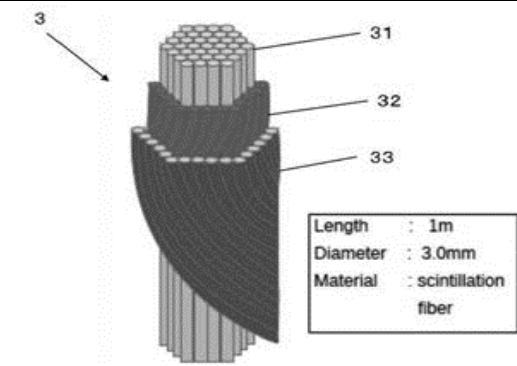
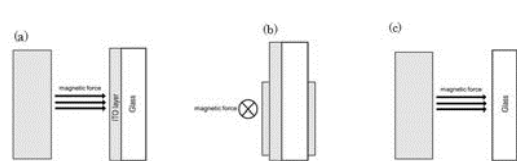
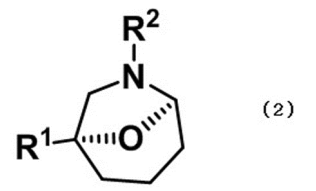
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
295	眼中散乱光分布測定方法及び眼中散乱光分布測定装置	特願2014-183744	2014/9/10	大沼 一彦	フロンティア工医学センター	特許第6466112号	2019/1/18	【課題】フリッカーによらず白内障の程度を正確に測定することのできる眼中散乱光分布測定方法及び眼中散乱光分布測定装置を提供する。 【解決手段】本発明に係る眼中散乱光分布測定方法は、表示装置に視標を表示させるとともに視標と異なる位置で第一の光を発光させるステップ、表示装置に再び視標を表示するとともに視標と位置が重複して眼球に入るよう光路を調整した上で第二の光を発光させるステップ、を備える。また、本発明に係る眼中散乱光分布測定装置は、光を発する光源と、表示装置と、光源から発せられる光の光路を変更させる光路変更部材と、入力データを出力する入力装置と、表示装置の表示及び光源の発光を制御するとともに、入力装置からの入力データを処理する制御処理装置と、を備える。 【選択図】図1	
296	R-ケタミンおよびその塩の医薬品としての応用	特願2014-186056	2014/9/12	橋本 謙二	社会精神保健教育研究センター	特許第6366439号	2018/7/13	【課題】 本発明の課題は、うつ症状を示す疾患に対して即効性かつ長期持続性の治療効果を有する新たな化合物を提供すること。 【解決手段】 R(ー)ーケタミンまたはその薬理学的に許容される塩からなるうつ症状の予防および／または治療用薬剤、並びにR(ー)ーケタミンまたはその薬理学的に許容される塩をうつ症状の軽減に有効な量含有し、S(+)ーケタミンまたはその薬理学的に許容される塩を実質的に含まない、うつ症状の予防および／または治療用医薬組成物を提供する。 【選択図】なし	なし
297	放射性物質測定器	特願2014-213331	2014/10/20	河合 秀幸	大学院理学研究院	特許第6469412号	2019/1/25	【課題】測定対象物の90Sr濃度を短時間で測定する。 【解決手段】本発明の実施形態では、放射線物質測定器を、放射性物質を含む測定対象物(7)から放出された放射線が入射される物質(4)と、この物質(4)に放射線が入射された際に物質(4)から出射される光を吸収する第1のファイバー(1)と、第1のファイバー(1)で再発生した光を測定する第1の測定部(2)とを備え、物質の屈折率を1.018以上1.048以下とする。本発明は、90Srを含む測定対象物(7)により適している。物質(4)は、シリカエアロゲルが望ましい。 【選択図】図3	

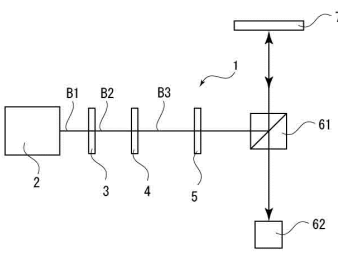
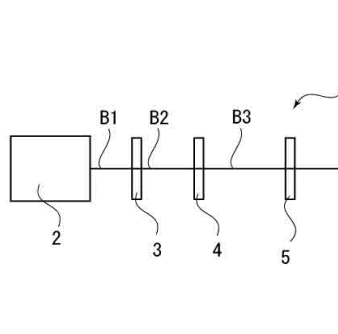
千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
298	オピオイド鎮痛剤	特願2015-545005	2014/10/28	高山 廣光	大学院薬学研究院	特許第6376702号	2018/8/3	鎮痛作用を有し、かつ高い代謝安定性を有する、下式(I)若しくは下式(II)で表される化合物、その塩、またはそれらの溶媒和物を提供し、さらに、該化合物、その塩、またはそれらの溶媒和物からなる鎮痛剤、該化合物、その塩、またはそれらの溶媒和物を含有する医薬組成物、該化合物、その塩、またはそれらの溶媒和物を使用する鎮痛処置方法、および鎮痛組成物の製造における該化合物、その塩、またはそれらの溶媒和物の使用を提供する: 【化1】	
299	薬物依存症の治療薬としてのTrkB受容体拮抗薬	特願2014-230008	2014/11/12	橋本 謙二	社会精神保健教育研究センター	特許第6448990号	2018/12/14	【課題】薬物依存症に対して即効性かつ長期持続性の治療効果を有する新たな治療法の提供。 【解決手段】TrkB(脳由来神経栄養因子受容体)を阻害する又はTrkB受容体拮抗作用(TrkBアンタゴニスト作用)を有するAN-12、AZD6918又はCEP701から選ばれた一つ以上の化合物又はその薬理学的に許容される塩からなる薬物依存症の予防及び／又は治療用薬剤、並びにTrkBを阻害する化合物又はその薬理学的に許容される塩を薬物依存症の様々な症状の軽減に有効な量を含有する、薬物依存症の予防および／または治療用医薬組成物。 【選択図】なし	なし
300	インターネットサービス提供方法及びインターネットサービス提供プログラム	特願2014-266923	2014/12/28	梅澤 猛	大学院工学研究院	特許第6430824号	2018/11/9	【課題】入力文字列がやがてコンピュータに自動認識されてしまい、不正利用者にインターネットサービスを利用されてしまうおそれがある。 【解決手段】インターネットサービス提供方法を、表示装置に、ユーザーが入力すべき文字、数字又は記号のいずれかを含む文字列の一部が欠損した文字列欠損画像(1)とともに文字列欠損画像(1)の欠損部を隠すことができる形状のマスク画像(2)を表示し、マスク画像又は文字列欠損画像がユーザーの操作によって移動可能とされ、文字列欠損画像が示す文字列をユーザーが入力した場合、ユーザーにインターネットサービスを提供するものとした。 【選択図】図1	
301	PET装置及びPET装置用放射線検出器	特願2015-006569	2015/1/16	河合 秀幸	大学院理学研究院	特許第6498449号	2019/3/22	【課題】位置分解能を向上させたPET装置は極めて高価格となる。 【解決手段】PET装置を、放射線が入射した場合に発光する複数のシンチレータ結晶(21)と、シンチレータ結晶の表面又は裏面に少なくとも2方向に配置され、シンチレータ結晶(21)から放出された光が入射した場合、再発光する光ファイバー(23)と、光ファイバー(23)の端部が接続され、光ファイバーにおいて再発光した光を検出する受光素子とを有するものとした。 【選択図】図2	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
302	がん診断装置	特願2015-036786	2015/2/26	河合 秀幸	大学院理学研究院	特許第6512861号	2019/4/19	【課題】消化器の初期がんであっても適切にがんを診断、発見することができるがん診断装置を提供する。 【解決手段】がん診断装置を、被験者の体内に挿入される直線状の第1の光ファイバー(31)と、第1の光ファイバーの周囲に配置され、被験者の体内に挿入する方向からみて右回りに螺旋状に配置された第2の光ファイバー(32)と、第1の光ファイバーの周囲に配置され、被験者の体内に挿入する方向からみて左回りに螺旋状に配置された第3の光ファイバー(33)と、各光ファイバーの先端に設けられた受光素子とを有するものとした。 【選択図】図2	
303	キャパシタ及びその製造方法	特願2015-045380	2015/3/8	星野 勝義	大学院工学研究院	特許第6494337号	2019/3/15	【課題】より高エネルギー化、高出力化を図ることのできるコバルトナノ構造物の製造方法及び、このコバルトナノ構造物を用いたキャパシタを提供する。 【解決手段】本発明の一観点にかかるコバルトナノ構造物の製造方法は、コバルト錯体を含む電解液に一对の電極を浸漬し、磁場中において40℃より高く80℃より低い温度範囲内で前記電解液を電気分解して一对の電極の一方にコバルトナノ構造物を析出させることを特徴とする。この場合において、限定されるわけではないが、磁場は静磁場であって、1mT以上10T以下の範囲内にいることがこのましい。 【選択図】図1	
304	8-オキサー-6-アザビシクロ[3, 2, 1]オクタン誘導体およびその製造方法	特願2015-083791	2015/4/15	荒井 孝義	大学院理学研究院	特許第6498502号	2019/3/22	【課題】光学活性な8-オキサー-6-アザビシクロ[3, 2, 1]オクタン誘導体を合成する手法を確立すること。 【解決手段】下記式(2)で示される8-オキサー-6-アザビシクロ[3, 2, 1]オクタン誘導体。  (2) ここでR1、水素、アルキル基、フェニル基(置換基を有していてもよい。)又はナフチル基(置換基を有していてもよい。)であり、R2は、水素、アルキル基、フェニル基(置換基を有していてもよい。)、カルボニル基、スルホニル基である。 【選択図】なし	なし

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
305	アミノ酸結晶の製造方法及びタンパク質結晶の製造方法	特願2015-551082	2015/7/27	尾松 孝茂	大学院工学研究院	特許第5924723号	2016/4/28	光渦の新たな応用の可能性を提供する。そのため、本発明の一観点にかかるアミノ酸結晶の製造方法は、光渦を、アミノ酸飽和溶液に照射して、アミノ酸飽和溶液中にアミノ酸結晶を形成することを特徴とする。また、本観点において、限定されるわけではないが、アミノ酸は、アラニン、アルギニン、アスパラギン、アスパラギン酸、システイン、グルタミン、グルタミン酸、グリシン、ヒスチジン、イソロイシン、ロイシン、リシン、メチオニン、フェルアラニン、プロリン、セリン、トレオニン、トリプトファン、チロシン及びバリン、並びにこれらの誘導体、の少なくともいずれかの少なくともいずれかであることが好ましい。	
306	METHOD FOR PRODUCING AMINO ACID CRYSTALS AND METHOD FOR PRODUCING PROTEIN CRYSTALS (アミノ酸結晶の製造方法及びタンパク質結晶の製造方法)	15/506,031	2015/7/27	尾松 孝茂	大学院工学研究院	US 10,138,269	2018/11/27	【課題】 光渦の新たな応用の可能性を提供する。 【解決手段】 本発明の一観点にかかるアミノ酸結晶の製造方法は、光渦を、アミノ酸飽和溶液に照射して、アミノ酸飽和溶液中にアミノ酸結晶を形成することを特徴とする。また、本観点において、限定されるわけではないが、アミノ酸は、アラニン、アルギニン、アスパラギン、アスパラギン酸、システイン、グルタミン、グルタミン酸、グリシン、ヒスチジン、イソロイシン、ロイシン、リシン、メチオニン、フェルアラニン、プロリン、セリン、トレオニン、トリプトファン、チロシン及びバリン、並びにこれらの誘導体、の少なくともいずれかの少なくともいずれかであることが好ましい。 また本観点において、光渦は円偏光であることが好ましい。 【選択図】図1	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
307	ストレスモニタリング用画像処理方法及びそのプログラム	特願2015-151245	2015/7/30	津村 徳道	大学院工学研究院	特許第6504959号	2019/4/5	【課題】 一般的なRGBカメラを用いた非接触法の心拍変動計測システムによるストレスモニタリング用画像処理方法及びそのプログラムを提供する。 【解決手段】 本発明に係るストレスモニタリング用画像処理方法は、RGBカメラを用いて顔画像データを取得するステップ、前記顔画像データに対して色素成分分離を用いてヘモグロビン画像データを作成するステップ、前記ヘモグロビン画像データに基づき心拍データを作成するステップ、前記心拍データに基づき心拍間隔データを作成するステップ、前記心拍間隔データに対し周波数変換を行うことで心拍変動スペクトログラムデータを作成するステップ、を備えることを特徴とする。 【選択図】図1	<pre> graph TD S1[S1 RGBカメラを用いて顔画像データを取得するステップ] --> S2[S2 色素成分分離を用いてヘモグロビン画像データを作成するステップ] S2 --> S2_1[S2-1 顔画像データに基づき複数の抽出点データを作成するステップ] S2_1 --> S2_2[S2-2 抽出点データに基づき関心領域データを作成するステップ] S2_2 --> S3[S3 ヘモグロビン画像データに基づき心拍データを作成するステップ] S3 --> S4[S4 心拍データに基づき心拍間隔データを作成するステップ] S4 --> S5[S5 心拍間隔データに対し周波数変換を行うことで心拍変動スペクトログラムデータを作成するステップ] </pre>
308	発光材料及びこれを用いた表示装置。	特願2015-556319	2015/8/28	小林 範久	大学院工学研究院	特許第6218291号	2017/10/6	より安定した構造のDNAを含む発光材料、これを用いた表示装置を提供する。そのため、本発明の一の観点に係る発光材料は、デオキシリボ核酸と、デオキシリボ核酸のリン酸基に静電的に結合する脂質化合物と、発光性物質と、を含むことを特徴とする。また本観点において、限定されるわけではないが発光材料における脂質化合物は、炭素数が10以上の四級アンモニウム塩を含むことが好ましい。また本観点において、限定されるわけではないが発光材料において、発光性物質の重量を1とした場合に、デオキシリボ核酸及び脂質化合物の重量が1以上10未満の範囲内にあることが好ましい。また、本発明の他の一観点に係る表示装置は、一対の基板と、一対の基板の間に挟持される発光材料と、を備える表示装置であって、発光材料は、デオキシリボ核酸と、デオキシリボ核酸のリン酸基に静電的に結合する脂質化合物と、発光性物質と、を含むことを特徴とする。	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
309	アラニン、アルギニン、アスパラギン、アスパラギン酸、システイン、グルタミン、グルタミン酸、ヒスチジン、イソロイシン、ロイシン、リシン、メチオニン、フェルアラニン、プロリン、セリン、トレオニン、トリプトファン、チロシン又はバリンの結晶の製造方法	特願2016-040541	2016/3/3	尾松 孝茂	大学院工学研究院	特許第6457412号	2018/12/28	【課題】 光渦の新たな応用の可能性を提供する。 【解決手段】 本発明の一観点にかかるアミノ酸結晶の製造方法は、光渦を、アミノ酸飽和溶液に照射して、アミノ酸飽和溶液中にアミノ酸結晶を形成することを特徴とする。 また、本観点において、限定されるわけではないが、アミノ酸は、アラニン、アルギニン、アスパラギン、アスパラギン酸、システイン、グルタミン、グルタミン酸、グリシン、ヒスチジン、イソロイシン、ロイシン、リシン、メチオニン、フェルアラニン、プロリン、セリン、トレオニン、トリプトファン、チロシン及びバリン、並びにこれらの誘導体、の少なくともいずれかの少なくともいずれかであることが好ましい。 【選択図】図1	
310	半導体集積回路及び遅延測定回路	特願2016-543089	2016/3/4	難波 一輝	大学院工学研究院	特許第6218297号	2017/10/6	本発明の一観点に係る半導体集積回路は、接続された複数のフリップフロップ回路を有する被測定回路部と、クロック生成回路部と、NAND回路と、NAND回路に直列に接続される複数のNOT回路と、複数のNOT回路の末端に接続されるカウンタ回路と、複数のセレクタ回路及び複数のフリップフロップ回路が接続されるスキャンチェーン回路と、を備えた遅延測定回路部と、を備えた半導体集積回路であって、NAND回路は、少なくとも二つのバイアス電圧入力ゲートを備えている。	
311	電子機器	特願2016-109580	2016/5/31	小倉 裕直	大学院工学研究院	特許第6369997号	2018/7/20	【課題】発熱部品の温度上昇を抑制し得る新規な手段を備える電子機器を提供する。 【解決手段】発熱部を備える電子機器(20)において、発熱部品(11)が発する熱によって吸熱反応を示す化学蓄熱材を収容した反応室(1)、化学蓄熱材の吸熱反応によって生じる凝縮性成分を凝縮または蒸発させるための凝縮蒸発室(3)、および凝縮性成分が反応室(1)と凝縮蒸発室(3)との間を移動可能なように反応室(1)と凝縮蒸発室(3)とを連絡する連絡部(5)を備えるデバイス(またはケミカルヒートポンプ)(10)を設ける。 【選択図】図1	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
312	表示装置	特願2016-165600	2016/8/26	中村 一希	大学院工学研究院	特許第6210500号	2017/9/22	【課題】素子構造の複雑化を防止し、携帯性を不必要に低下させることなく、高品質な表示装置を提供すること 【解決手段】 上記課題を解決する本発明に係る表示装置は、電極が形成され、互いに対向して配置される一対の基板と、一対の基板の間に挟持された材料層を有する表示装置であって、材料層は、電圧の印加により変色する発色材料と、光励起によって発光する発光材料と、を含むものとする。なおこの場合において、発光材料を発光させる光励起用光源を有することが好ましい。 【選択図】 図1	
313	金色又は銅色の光沢を有する膜が形成される溶液	特願2017-016378	2017/1/31	星野 勝義	大学院工学研究院	特許第6410374号	2018/10/5	【課題】より製造が容易で、経時劣化の少ない、金属光沢を有する膜及びこれが形成されてなる物品並びに金属光沢を有する膜の製造方法を提供する。 【解決手段】重量平均分子量の分布ピークが200以上30000以下の範囲内にあるチオフェン重合体を含む金属光沢を有する膜であって、高分子化合物で物品を製造する一方、その表面に金属薄膜又は金属を含む塗料を被覆することで、安価に金属光沢を有する物品を製造することができる。 【選択図】図1	
314	笑い促進プログラム及び笑い促進装置	特願2017-156217	2017/8/11	大武 美保子	元大学院工学研究院	特許第6469779号	2019/1/25	【課題】笑うきっかけを提供することによって笑いを促進する笑い促進プログラム及び笑い促進装置を提供する。 【解決手段】本発明の一観点に係る笑い促進プログラムは、コンピュータに、顔画像データに基づき笑顔度データを算出し、前記笑顔度データに基づき笑い声データの再生の可否の判断を行い、前記笑い声データを再生すると判断した場合、前記笑い声データを再生させる。また、本発明の他の一観点に係る笑い促進装置は、撮像装置と、スピーカーと、前記撮像装置及び前記スピーカーを制御する情報処理装置と、を備えた笑い促進装置であって、前記情報処理装置は、顔画像データに基づき笑顔度データを算出する笑顔度データ算出部と、前記笑顔度データに基づき笑い声データの再生の可否の判断を行う笑い可否判断部と、前記笑い声データを再生すると判断した場合、前記笑い声データを再生する笑い声再生部と、を有する。 【選択図】 図1	

千葉大学単独所有特許リスト(2019年4月現在)

No.	発明の名称	出願番号	出願日	発明者名	所属	登録番号	登録日	要約	代表図面
315	アミノ酸結晶の製造方法	特願2018-022586	2018/2/10	尾松 孝茂	大学院工学研究院	特許第6498804号	2019/3/22	【課題】 光渦の新たな応用の可能性を提供する。 【解決手段】 本発明の一観点にかかるアミノ酸結晶の製造方法は、光渦を、アミノ酸飽和溶液に照射して、アミノ酸飽和溶液中にアミノ酸結晶を形成することを特徴とする。 また、本観点において、限定されるわけではないが、アミノ酸は、アラニン、アルギニン、アスパラギン、アスパラギン酸、システイン、グルタミン、グルタミン酸、グリシン、ヒスチジン、イソロイシン、ロイシン、リシン、メチオニン、フェルアラニン、プロリン、セリン、トレオニン、トリプトファン、チロシン及びバリン、並びにこれらの誘導体、の少なくともいずれかの少なくともいずれかであることが好ましい。 【選択図】図1	
316	鉄鋼スラグを原料とするハイドロ複合体及びその製造方法	特願2014-164316	2010/1/22 原出願日	和嶋 隆昌	大学院工学研究科	特許第5843118号	2015/11/27	【課題】鉄鋼スラグに含まれる成分全体を有効利用することで、スラグ廃棄分を減らしつつ、ハイドロ複合体を製造可能な新規製造方法を提供する。 【解決手段】鉄鋼スラグを含有する原料に、固体状塩基を添加・混合S1し、混合物を作製する、混合物作製工程と、混合物作製工程で得られた混合物を、100～1000℃の温度で溶融させ溶融屑を作製する溶融屑作製工程S2と、溶融屑作製工程で得られた溶融屑を、溶媒に添加して溶液とし、当該溶液からハイドロ複合体を生成させる、ハイドロ複合体生成工程S3と、を有する製造方法とする。 【選択図】図1	